

観音寺遺跡(Ⅳ)

道路改築事業(徳島環状線国府工区)関連埋蔵文化財発掘調査報告書

《第1分冊 本文編》

2 0 0 7

徳島県教育委員会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

『観音寺遺跡(IV)』正誤表

第1分冊

頁・項目・図	誤	正
図版目次(第3分冊) 巻頭図版4	(西から撮影)	(南西から撮影)
図版目次(第3分冊) 巻頭図版4	(南から撮影)	(南東から撮影)
図版目次(第3分冊) 巻頭図版5	178号木簡出土状況(東から撮影)	178号木簡出土状況(西から撮影)
35頁19行目	川幅が約20mに	川幅が約30mに

第3分冊

頁・項目・図	誤	正
巻頭図版十五 92号	下部破片のカラー写真の表裏が逆	
39頁 一五五号木簡	赤外線写真の表裏が逆	
77頁 木簡番号185 木取り	板目	柁目

観音寺遺跡(Ⅳ)

道路改築事業(徳島環状線国府工区)関連埋蔵文化財発掘調査報告書

《第1分冊 本文編》

2 0 0 7

徳島県教育委員会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



勸籍木簡 (201号)
保存処理後 (S=2/5)
2005年度 1区V層出土
(Loc.F-1 δ-IV C-10)

巻頭図版 2



2005年度 1区遠景（北から）



勘籍木簡（201号）出土状況



銅印出土状況（2005年度 1区Ⅲ層）



墨書土器（1521）

序 文

本書は道路改築事業（徳島環状線国府工区）の実施に伴い、県からの委託により、平成10年度から平成19年度にかけて調査を実施した、徳島市国府町に所在する観音寺遺跡の発掘調査の成果をまとめたものであります。

当遺跡の調査では、これまでに刊行されています『観音寺遺跡Ⅰ 木簡篇』や『観音寺遺跡Ⅱ 木器篇』（以上国土交通省南環状道路）におきまして、出土事例の少ない飛鳥時代の木簡をはじめ、多くの木製品の出土により、阿波における初期国府の実態を解明する上で大きな成果をあげました。本書では奈良時代以降の「勘籍木簡」をはじめ、数多くの木簡や木製品の出土によって、国府内での文書行政や祭祀の実態を知る上で大いに注目されるところです。また、木簡などとともに出土した土器や金属製品にも、貴重なものが含まれております。

これらの成果をまとめた本書が阿波の古代史を考える資料として活用され、埋蔵文化財に対する関心と理解を深める一助となれば幸いです。

なお、発掘調査の実施および報告書の作成にあたり、徳島県県土整備部道路建設課および東部県土整備局をはじめ関係各機関ならびに地元の皆様に多大なご協力・ご指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2008年3月25日

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
理事長 佐藤 勉

例 言

- 1 本報告書は、道路改築事業（徳島環状線国府工区）に伴って、平成10年度から平成19年度にかけて実施された、徳島市国府町観音寺に所在する観音寺遺跡の発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 発掘調査および整理業務は、徳島県都市道路整備局より委託を受けた徳島県教育委員会文化財課が、(財)徳島県埋蔵文化財センターに再委託を行って実施した。
- 3 方位の表示は、国土座標第Ⅳ座標系の北、高さは東京湾標準潮位（T.P.）を表す。
- 4 第2図の地形図は、徳島市発行の1：2,500都市計画図を転載、加筆したものである。第3図の地形図は、国土地理院発行の1：25,000の地形図「石井」を縮小転載、加筆したものである。
- 5 各遺構を示す記号は、(財)徳島県埋蔵文化財センターが定めたものを使用した。
SA：掘立柱建物跡、SD：溝、SK：土坑、SI：水田跡、SP：柱穴・小穴
SR：自然流路・旧河川、ST：埋葬施設、SX：不明遺構
- 6 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄『標準土色帳2001年度版』日本色研事業株式会社に拠った。
- 7 木製品の分類は、『木器集成図録・近畿原始篇』（奈良国立文化財研究所 1993）と『木器集成図録・近畿古代篇』（奈良国立文化財研究所 1994）を基準にし、安部崇志・山上孝好・澤井康博が行った。また、鉄鏃の分類は、杉山秀宏 1988「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集』第八吉川弘文館を参考に分類を行った。
- 8 本書の執筆は、第1分冊のⅠ章－1・辻 佳伸、氏家敏之、Ⅰ章－2・3・4・山上孝好、大橋育順、Ⅱ章・氏家敏之、Ⅲ章・大橋育順、Ⅳ章・山上孝好・澤井康博・大橋育順、Ⅴ章・大橋育順が行い、山上孝好・澤井康博・大橋育順が編集した。第2分冊は澤井康博が、第3分冊は大橋育順が編集した。文責は末尾に記してある。
- 9 写真図版は、遺構および遺物の出土状況については発掘現場の担当者が、出土遺物の写真については服部 靖・澤井康博が撮影を行い編集した。
- 10 遺物観察表は、澤井康博が作成した。
- 11 木製品の保存処理は、糖アルコール含浸法を用いて、服部 靖が行った。なお本書に掲載した実測図・遺物写真は保存処理前のものである。

12 木製品の樹種同定は、株式会社 古環境研究所に、墨書・刻書土器の釈読は、京都教育大学名誉教授 和田 萃氏に、動物遺体の鑑定は、国立歴史民俗博物館 西本豊弘氏に、銭貨の鑑定は、大阪市立大学教授 栄原永遠男氏に分析を行っていただくとともに玉稿を賜った。

13 木簡は、京都教育大学名誉教授 和田 萃氏に釈読をお願いした。第3分冊「Ⅱ-二 出土木簡の釈文と内容」は、和田氏の監修のもとに、釈文および本文の作成を行った。

14 木簡の保存処理は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所への「徳島市観音寺遺跡・敷地遺跡（阿波国府推定地）出土木簡の総合的研究業務委託」の一環として実施した。委託には形状確認、釈文の作成、写真撮影が含まれる。

15 調査・整理にあたっては、次の機関および個人のご協力・ご指導を得た。

文化庁・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・国立歴史民俗博物館・徳島県都市道路整備局 浅野啓介・市 大樹・佐藤 信・東野治之・馬場 基・藤原理恵・松原弘宣・森 浩一・山本 崇・吉田 晶・渡辺晃宏（敬称略・五十音順）

2006年12月の木簡学会の際には、参加者から勸籍木簡の釈文や内容など、様々なご教示をいただいた。参加された方々に厚く御礼申し上げます。

16 本書に収録した、出土遺物および図面や写真などの記録の一切は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2に所在する徳島県立埋蔵文化財総合センターにおいて保管している。

凡 例

- 1 掲載した出土遺物の実測図は、原則として $S=1/4$ であるが、一部例外として $S=1/1$ 、 $1/8$ のものがある。各図版にはスケールを貼付してあるので、参照されたい。
- 2 各木製品の実測図で、木目は平面図・側面図には記入せず、断面図に記してある。ただし、断面が2ヶ所以上になる場合は、1ヶ所にのみ木目を記入し、それ以外は外郭線のみを記した。
- 3 木製品の表面に残存している樹皮、焼き印、漆膜、炭化部分は網掛けにより表している。
■：樹皮 ■：焼き印 ■：漆膜 ■：炭化部分
また、遺物出土状況ドット図には次の記号を使用している。
●：木製品 □：土器 △：石器 ○：骨製品
- 4 斎串の両側にある矢印は、刃物による切り込みの方向とその範囲を示している。なお、付してある数字は矢印の範囲における切り込みの回数を示している。ただし、1回のみでの切り込みの場合は数字を付していない。
- 5 調査区は広範囲にわたり、各区により遺構の状況が大きく異なるため、遺跡の北半分と南半分をそれぞれ北区・南区とし、北区については各遺構面ごとに、南区については自然流路SR3001を各調査年度・区で分割し、層位ごとに遺物出土状況ドット図などをのせている。また、第IV系国土座標を表記することで、絶対位置と方位に代えている。
- 6 遺構図版の縮尺は以下の通りである。
①遺構配置図： $S=1/400$
②遺構平断面図、遺物の出土状況ドット図については、遺構規模に応じて縮尺を変えている。各図版にはスケールを貼付してあるので参照されたい。
- 7 土層柱状図には標高2.5m以下の部分に網掛けを施した。2004年度以降の調査区では、掘削を行っていない部分を示している。

本文目次(第1分冊)

I	発掘調査及び整理業務に関する経緯と経過	
1.	発掘調査の経緯と経過	4
(1)	調査にいたる経緯	4
(2)	調査の経過	5
(3)	発掘調査の方法	5
2.	整理業務の方法と経過	7
3.	発掘調査・整理業務の体制	7
4.	調査日誌抄	10
II	遺跡の立地と歴史的環境	
1.	遺跡の立地	19
2.	歴史的環境	19
III	遺跡の地形と基本層序	
1.	遺跡の地形	27
2.	基本層序	27
IV	調査成果	
1.	遺構配置	35
2.	遺構と遺物	35
北	区(1999・2001年度)	
(1)	第1遺構面	
(2)	第2遺構面	
(3)	第3遺構面	
(4)	第4遺構面	
(5)	第5遺構面	
南	区	
(1)	2000年度2区(第1遺構面)	
(2)	2000年度2区(第2遺構面)	
(3)	2000年度2区(第3遺構面)	
(4)	2000年度2区(第4遺構面)	
(5)	2000年度2区(第5遺構面)	
(6)	2004年度3区(第1遺構面)	
(7)	2004年度3区(第2遺構面)	
(8)	2004年度3区(第3遺構面)	
(9)	2004年度3区(第4遺構面)	
(10)	2004年度3区(第5遺構面)	
(11)	2000年度3区(第1遺構面)	

(12) 2000年度3区(第2遺構面)	
(13) 2000年度3区(第3遺構面)	
(14) 2000年度3区(第4遺構面)	
(15) 2000年度3区(第5遺構面)	
(16) 2003年度8区(第1遺構面)	
(17) 2003年度8区(第2遺構面)	
(18) 2003年度8区(第3遺構面)	
(19) 2003年度8区(第4遺構面)	
(20) 2003年度8区(第5遺構面)	
(21) 2003年度8-2区	
(22) 2002年度7区(第3遺構面)	
(23) 2000年度1区	
(24) 2004年度2区	
(25) 2005年度1区	
(26) 2005年度2区	
(27) 2004年度1区	
(28) 2007年度1区	
(29) 1998年度1区	
(30) 出土金属製品(全調査区)	578
(31) 出土銭貨(全調査区)	585
(32) 墨書・刻書土器について	587
V まとめ	
1. 出土木製品について	593
2. 自然流路SR3001の各層位の年代について	603

挿 図 目 次 (第1分冊)

第1図 観音寺遺跡位置図	3
第2図 徳島環状線(国府工区)路線と観音寺遺跡調査区	6
第3図 観音寺遺跡周辺の遺跡	23
第4図 調査区・グリッド配置図	30
第5図 調査区土層柱状図	31
第6図 南区SR3001土層柱状図	32
第7図 観音寺遺跡の遺構・流路の変遷	36
第8図 北区(1999・2001年度)第1遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図	38
第9図 北区(1999・2001年度)SA1001平・断面図	39

第10図	北区 (1999・2001年度) SD1001・SD1002平・断面図	41
第11図	北区 (1999・2001年度) SK1001平・断面図	42
第12図	北区 (1999・2001年度) SK1002平・断面図・遺物出土状況ドット図	43
第13図	北区 (1999・2001年度) SK1003・SK1004平・断面図	44
第14図	北区 (1999・2001年度) SK1005平・断面図	45
第15図	北区 (1999・2001年度) SP1001・SP1002平・断面図	45
第16図	北区 (1999・2001年度) 第1包含層出土遺物	46
第17図	北区 (1999・2001年度) 第2遺構面 調査区遺構平面図	47
第18図	北区 (1999・2001年度) SD2001・SD2002平・断面図	50
第19図	北区 (1999・2001年度) SP2001・SP2002・SP2003・SP2004・SP2005・SP2006平・断面図	51
第20図	北区 (1999・2001年度) SP2007・SP2008・SP2009・SP2010・SP2011・SP2012平・断面図	54
第21図	北区 (1999・2001年度) SX2001平・断面図	55
第22図	北区 (1999・2001年度) 第2包含層出土遺物	56
第23図	北区 (1999・2001年度) 第3遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図	57
第24図	北区 (1999・2001年度) SD3001平・断面図・出土遺物	60
第25図	北区 (1999・2001年度) SD3002平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物	61
第26図	北区 (1999・2001年度) SD3003平・断面図	63
第27図	北区 (1999・2001年度) SI3006出土遺物	64
第28図	北区 (1999・2001年度) SP3001・SP3002・SP3003・SP3004・SP3005・SP3006・SP3007・SP3008・SP3009平・断面図	66
第29図	北区 (1999・2001年度) SP3010・SP3011・SP3012・SP3013・SP3014・SP3015・SP3016・SP3017・SP3018平・断面図	68
第30図	北区 (1999・2001年度) SP3019・SP3020・SP3021・SP3022・SP3023・SP3024・SP3025・SP3026・SP3027平・断面図	71
第31図	北区 (1999・2001年度) SP3028・SP3029・SP3030・SP3031平・断面図	74
第32図	北区 (1999・2001年度) SX3001平・断面図	75
第33図	北区 (1999・2001年度) 第3包含層出土遺物	76
第34図	北区 (1999・2001年度) 第4遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図・土層柱状図・SR4001断面図	77
第35図	北区 (1999・2001年度) SD4001平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物	80
第36図	北区 (1999・2001年度) SD4002・SD4003平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物	81
第37図	北区 (1999・2001年度) SD4004・SD4005平・断面図・出土遺物	83
第38図	北区 (1999・2001年度) SD4006平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物	85
第39図	北区 (1999・2001年度) SD4007平・断面図	86
第40図	北区 (1999・2001年度) SD4008・SD4009平・断面図	88
第41図	北区 (1999・2001年度) SD4010・SD4011平・断面図	89
第42図	北区 (1999・2001年度) SD4012・SD4013平・断面図	90
第43図	北区 (1999・2001年度) SD4014平・断面図	92

第44図	北区 (1999・2001年度) SD4015・SD4016・SD4017平・断面図	93
第45図	北区 (1999・2001年度) SD4018平・断面図	94
第46図	北区 (1999・2001年度) SD4019・SD4020平・断面図	96
第47図	北区 (1999・2001年度) SI4002・SI4003出土遺物	98
第48図	北区 (1999・2001年度) SK4001・SK4002平・断面図	100
第49図	北区 (1999・2001年度) SK4003平・断面図	102
第50図	北区 (1999・2001年度) SK4004平・断面図	103
第51図	北区 (1999・2001年度) SP4001・SP4002・SP4003・SP4004・SP4005・SP4006・SP4007平・断面図	104
第52図	北区 (1999・2001年度) SR4001出土遺物(1)	106
第53図	北区 (1999・2001年度) SR4001出土遺物(2)	107
第54図	北区 (1999・2001年度) ST4001・ST4002平・断面図	108
第55図	北区 (1999・2001年度) 第4 包含層出土遺物	109
第56図	北区 (1999・2001年度) 第5 遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図・土層柱状図	111
第57図	北区 (1999・2001年度) SD5001・SD5002平・断面図	114
第58図	北区 (1999・2001年度) SK5001・SK5002・SK5003平・断面図・遺物出土状況ドット図・SK 5001出土遺物	115
第59図	北区 (1999・2001年度) SK5004・SK5005・SK5006平・断面図	117
第60図	北区 (1999・2001年度) SK5007・SK5008・SK5009・SK5010平・断面図	118
第61図	北区 (1999・2001年度) SK5011・SK5012・SK5013・SK5014・SK5015平・断面図	120
第62図	北区 (1999・2001年度) SK5016・SK5017・SK5018・SK5019平・断面図	121
第63図	北区 (1999・2001年度) SK5020・SK5021・SK5022・SK5023平・断面図	124
第64図	北区 (1999・2001年度) SP5001・SP5002・SP5003・P5004・SP5005・SP5006・SP5007平・断 面図・遺物出土状況ドット図・SP5004出土遺物	126
第65図	北区 (1999・2001年度) SR5001断面図	129
第66図	北区 (1999・2001年度) SR5001出土遺物(1)	130
第67図	北区 (1999・2001年度) SR5001出土遺物(2)	131
第68図	北区 (1999・2001年度) SR5001出土遺物(3)	132
第69図	北区 (1999・2001年度) ST5001・ST5002・ST5003・ST5004・ST5005・ST5006平・断面図	134
第70図	北区 (1999・2001年度) ST5007・ST5008・ST5009・ST5010・ST5011・ST5012平・断面図	136
第71図	北区 (1999・2001年度) ST5013・ST5014・ST5015・ST5016・ST5017・ST5018平・断面図	138
第72図	北区 (1999・2001年度) ST5019・ST5020・ST5021・ST5022・ST5023平・断面図・遺物出土 状況ドット図・ST5021出土遺物	141
第73図	北区 (1999・2001年度) ST5024・ST5025・ST5026・ST5027・ST5028・ST5029平・断面図・ 遺物出土状況ドット図・ST5026出土遺物	143
第74図	北区 (1999・2001年度) ST5030・ST5031・ST5032・ST5033・ST5034・ST5035平・断面図	145
第75図	北区 (1999・2001年度) ST5036・ST5037・ST5038・ST5039・ST5040・ST5041平・断面図	147

第76図	北区 (1999・2001年度) ST5042・ST5043・ST5044・ST5045・ST5046・ST5047平・断面図	150
第77図	北区 (1999・2001年度) ST5048・ST5049・ST5050・ST5051・ST5052・ST5053平・断面図・遺物出土状況ドット図・ST5051出土遺物	152
第78図	北区 (1999・2001年度) ST5054・ST5055・ST5056・ST5057・ST5058・ST5059平・断面図	154
第79図	北区 (1999・2001年度) ST5060・ST5061・ST5062・ST5063・ST5064・ST5065平・断面図	157
第80図	北区 (1999・2001年度) SX5001平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物	160
第81図	北区 (1999・2001年度) SX5002平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物	162
第82図	北区 (1999・2001年度) SX5003平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物(1)	163
第83図	北区 (1999・2001年度) SX5003出土遺物(2)	164
第84図	北区 (1999・2001年度) 第5包含層出土遺物	165
第85図	北区 (1999・2001年度) 側溝出土遺物	161
第86図	南区 (2000年度2区) 第1遺構面 調査区遺構平面図・土層柱状図	167
第87図	南区 (2000年度2区) SD1001平・断面図	168
第88図	南区 (2000年度2区) SD1002平・断面図	169
第89図	南区 (2000年度2区) SD1003平・断面図	170
第90図	南区 (2000年度2区) SD1004平・断面図	171
第91図	南区 (2000年度2区) SD1005平・断面図	172
第92図	南区 (2000年度2区) 第2遺構面 調査区遺構平面図	175
第93図	南区 (2000年度2区) SD2001・SD2002平・断面図・遺物出土状況ドット図・SD2001出土遺物	176
第94図	南区 (2000年度2区) SD2003平・断面図	177
第95図	南区 (2000年度2区) SD2004平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物	179
第96図	南区 (2000年度2区) SD2005平・断面図	180
第97図	南区 (2000年度2区) SD2006平・断面図	181
第98図	南区 (2000年度2区) SD2007・SD2008平・断面図	182
第99図	南区 (2000年度2区) SK2001平・断面図	183
第100図	南区 (2000年度2区) 第3遺構面 調査区遺構平面図	184
第101図	南区 (2000年度2区) SD3001平・断面図・出土遺物	185
第102図	南区 (2000年度2区) SD3002・SD3003平・断面図・SD3002出土遺物	186
第103図	南区 (2000年度2区) 第4遺構面 調査区遺構平面図	188
第104図	南区 (2000年度2区) SD4001平・断面図	189
第105図	南区 (2000年度2区) SK4001平・断面図	190
第106図	南区 (2000年度2区) SP4001・SP4002平・断面図	190
第107図	南区 (2000年度2区) ST4001・ST4002・ST4003・ST4004平・断面図	191
第108図	南区 (2000年度2区) ST4005平・断面図	192
第109図	南区 (2000年度2区) 第5遺構面 調査区遺構平面図	193
第110図	南区 (2000年度2区) SP5001・SP5002平・断面図	194
第111図	南区 (2000年度2区) ST5001・ST5002平・断面図	195

第112図	南区 (2000年度2区)	ST5003・ST5004・ST5005・ST5006平・断面図	197
第113図	南区 (2000年度2区)	ST5007・ST5008・ST5009・ST5010平・断面図・遺物出土状況ドット図・ST5010出土遺物	199
第114図	南区 (2000年度2区)	ST5011・ST5012平・断面図	200
第115図	南区 (2000年度2区)	SX5001平・断面図	201
第116図	南区 (2004年度3区)	第1遺構面 調査区遺構平面図・土層柱状図	203
第117図	南区 (2004年度3区)	SD1001平面図	204
第118図	南区 (2004年度3区)	SD1001断面図・SD1002平・断面図	205
第119図	南区 (2004年度3区)	SD1003平・断面図	206
第120図	南区 (2004年度3区)	SD1004平・断面図	207
第121図	南区 (2004年度3区)	SD1005平・断面図	208
第122図	南区 (2004年度3区)	第2遺構面 調査区遺構平面図	210
第123図	南区 (2004年度3区)	SD2001・SD2002平・断面図	211
第124図	南区 (2004年度3区)	SD2003平・断面図	212
第125図	南区 (2004年度3区)	SD2004・SD2005平・断面図	213
第126図	南区 (2004年度3区)	SD2006平・断面図	214
第127図	南区 (2004年度3区)	SD2007平・断面図	215
第128図	南区 (2004年度3区)	SD2008・SD2009平・断面図	216
第129図	南区 (2004年度3区)	SD2010・SD2011平・断面図	218
第130図	南区 (2004年度3区)	SD2012・SD2013・SD2014・SD2015平・断面図	219
第131図	南区 (2004年度3区)	SK2001・SK2002・SK2003平・断面図	221
第132図	南区 (2004年度3区)	SK2004・SK2005平・断面図	223
第133図	南区 (2004年度3区)	SP2001平・断面図	224
第134図	南区 (2004年度3区)	第3遺構面 調査区遺構平面図	226
第135図	南区 (2004年度3区)	SD3001・SD3002平・断面図	227
第136図	南区 (2004年度3区)	SD3003平・断面図	228
第137図	南区 (2004年度3区)	SD3004・SD3005平・断面図	229
第138図	南区 (2004年度3区)	SD3006平・断面図	230
第139図	南区 (2004年度3区)	SD3007・SD3008平・断面図	231
第140図	南区 (2004年度3区)	SD3009・SD3010平・断面図	233
第141図	南区 (2004年度3区)	SD3011・SD3012平・断面図	234
第142図	南区 (2004年度3区)	SD3013平・断面図	235
第143図	南区 (2004年度3区)	SK3001・SK3002平・断面図	236
第144図	南区 (2004年度3区)	SP3001平・断面図	237
第145図	南区 (2004年度3区)	第4遺構面 調査区遺構平面図	239
第146図	南区 (2004年度3区)	SD4001・SD4002平・断面図	240
第147図	南区 (2004年度3区)	SD4003・SD4006平・断面図	241
第148図	南区 (2004年度3区)	SD4004平・断面図	242

第149図	南区（2004年度3区）	SD4005平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物	243
第150図	南区（2004年度3区）	SK4001・SK4002平・断面図	244
第151図	南区（2004年度3区）	SP4001・SP4002・SP4003・SP4004・SP4005・SP4006平・断面図	246
第152図	南区（2004年度3区）	ST4001・ST4002・ST4003・ST4004・ST4005平・断面図・遺物出土状況ドット図・ST4004出土遺物	248
第153図	南区（2004年度3区）	ST4006・ST4007平・断面図	250
第154図	南区（2004年度3区）	第5遺構面 調査区遺構平面図	251
第155図	南区（2004年度3区）	SD5001・SD5002・SD5003平・断面図	252
第156図	南区（2004年度3区）	SD5004平・断面図	253
第157図	南区（2004年度3区）	SK5001・SK5002・SK5003平・断面図	255
第158図	南区（2004年度3区）	SK5004・SK5005平・断面図	256
第159図	南区（2004年度3区）	SP5001・SP5002・SP5003・SP5004平・断面図	258
第160図	南区（2004年度3区）	ST5001・ST5002・ST5003・ST5004平・断面図	260
第161図	南区（2004年度3区）	ST5005・ST5006平・断面図	261
第162図	南区（2000年度3区）	第1遺構面 調査区遺構平面図・土層柱状図	263
第163図	南区（2000年度3区）	SD1001・SD1002平・断面図	264
第164図	南区（2000年度3区）	SD1003・SD1004平・断面図	265
第165図	南区（2000年度3区）	SD1005平・断面図	266
第166図	南区（2000年度3区）	SD1006・SD1007平・断面図・遺物出土状況ドット図・SD1006出土遺物	268
第167図	南区（2000年度3区）	SK1001・SK1002・SK1003・SK1004平・断面図	269
第168図	南区（2000年度3区）	SP1001平・断面図	270
第169図	南区（2000年度3区）	第2遺構面 調査区遺構平面図	271
第170図	南区（2000年度3区）	SD2001・SD2002平・断面図	272
第171図	南区（2000年度3区）	SD2003・SD2004・SD2005・SD2006平・断面図	273
第172図	南区（2000年度3区）	SP2001平・断面図	274
第173図	南区（2000年度3区）	第3遺構面 調査区遺構平面図・SD3001・SD3002平・断面図	276
第174図	南区（2000年度3区）	第4遺構面 調査区遺構平面図	277
第175図	南区（2000年度3区）	SD4001平・断面図	278
第176図	南区（2000年度3区）	SK4001・SK4002・SK4003平・断面図	279
第177図	南区（2000年度3区）	SK4004平・断面図	280
第178図	南区（2000年度3区）	SP4001平・断面図	281
第179図	南区（2000年度3区）	ST4001・ST4002・ST4003平・断面図	282
第180図	南区（2000年度3区）	第5遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図	283
第181図	南区（2000年度3区）	SK5001平・断面図	283
第182図	南区（2000年度3区）	第5包含層出土遺物	284
第183図	南区（2003年度8区）	第1遺構面 調査区遺構平面図・土層柱状図	285
第184図	南区（2003年度8区）	第2遺構面 調査区遺構平面図	287

第185図	南区 (2003年度 8 区)	SD2001・SD2002・SD2003・SD2004平・断面図	288
第186図	南区 (2003年度 8 区)	SD2005・SD2006・SD2007・SD2008平・断面図	290
第187図	南区 (2003年度 8 区)	SK2001・SK2002・SK2003・SK2004平・断面図	291
第188図	南区 (2003年度 8 区)	第 2 包含層出土遺物	292
第189図	南区 (2003年度 8 区)	第 3 遺構面 調査区遺構平面図・SR3001遺物出土状況ドット図	294
第190図	南区 (2003年度 8 区)	SD3001・SD3002・SD3003平・断面図	295
第191図	南区 (2003年度 8 区)	SR3001Ⅲ層出土遺物	296
第192図	南区 (2003年度 8 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (農具・服飾具・容器・文房具・祭祀具)	297
第193図	南区 (2003年度 8 区)	SR3001Ⅴ層出土遺物	298
第194図	南区 (2003年度 8 区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (工具・祭祀具)	299
第195図	南区 (2003年度 8 区)	SR3001出土遺物	299
第196図	南区 (2003年度 8 区)	SX3001平・断面図・遺物出土状況ドット図	300
第197図	南区 (2003年度 8 区)	SX3001出土遺物	301
第198図	南区 (2003年度 8 区)	第 4 遺構面 調査区遺構平面図	302
第199図	南区 (2003年度 8 区)	SD4001平・断面図	309
第200図	南区 (2003年度 8 区)	SD4002平・断面図	310
第201図	南区 (2003年度 8 区)	SD4003・SD4004・SD4005平・断面図	311
第202図	南区 (2003年度 8 区)	SK4001・SK4002平・断面図	312
第203図	南区 (2003年度 8 区)	SK4003・SK4004平・断面図	313
第204図	南区 (2003年度 8 区)	SK4005・SK4006平・断面図	314
第205図	南区 (2003年度 8 区)	SK4007・SK4008・SK4009平・断面図	315
第206図	南区 (2003年度 8 区)	SK4010・SK4011平・断面図	316
第207図	南区 (2003年度 8 区)	SK4012・SK4013平・断面図	317
第208図	南区 (2003年度 8 区)	SK4014・SK4015平・断面図	318
第209図	南区 (2003年度 8 区)	SK4016・SK4017平・断面図	319
第210図	南区 (2003年度 8 区)	SK4018・SK4019平・断面図	320
第211図	南区 (2003年度 8 区)	SK4020・SK4021平・断面図	321
第212図	南区 (2003年度 8 区)	第 5 遺構面 調査区遺構平面図	322
第213図	南区 (2003年度 8 区)	SD5001平・断面図	323
第214図	南区 (2003年度 8 区)	SK5001・SK5002・SK5003平・断面図	324
第215図	南区 (2003年度 8 区)	SP5001平・断面図	325
第216図	南区 (2003年度 8 区)	SX5001 (EP01・EP02・EP03・EP04) 平・断面図	326
第217図	南区 (2003年度 8 区)	SX5002平・断面図	328
第218図	南区 (2003年度 8 区)	SX5003平・断面図	329
第219図	南区 (2003年度 8 - 2 区)	調査区遺構平面図	330
第220図	南区 (2003年度 8 - 2 区)	SR3001Ⅴ層出土遺物	331
第221図	南区 (2002年度 7 区)	調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図・土層柱状図	333
第222図	南区 (2002年度 7 区)	SD3001・SD3002平・断面図	334

第223図	南区 (2002年度 7 区)	SR3001Ⅲ層出土遺物	334
第224図	南区 (2002年度 7 区)	SR3001Ⅵ層出土遺物	335
第225図	南区 (2000年度 1 区)	調査区遺構平面図	336
第226図	南区 (2000年度 1 区)	土層柱状図	337
第227図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001ED01平・断面図	338
第228図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001ED02平・断面図	339
第229図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001ED03平・断面図	340
第230図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅱ層出土木製品	340
第231図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅲ層遺物出土状況ドット図	341
第232図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (紡織具・容器・祭祀具・部材)	342
第233図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土遺物	343
第234図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅳ層遺物出土状況ドット図	344
第235図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (農具・紡績具・文房具・祭祀具・部材)	345
第236図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅳ層出土遺物	346
第237図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層遺物出土状況ドット図	347
第238図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層しがらみ遺構遺物出土状況平面図・断面図	349
第239図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (工具・農具・紡績具・武器)	351
第240図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (容器) (1)	352
第241図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (容器) (2)	353
第242図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (容器・食事具・文房具・遊戯具)	354
第243図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (1)	355
第244図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (2)	356
第245図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (3)	357
第246図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (4)	358
第247図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (5)	359
第248図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (6)	360
第249図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (7)	361
第250図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (8)	362
第251図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (9)	363
第252図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (10)	364
第253図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (11)	365
第254図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (雑具・部材・杭・用途不明)	366
第255図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土遺物(1)	367
第256図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅴ層出土遺物(2)	368
第257図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅵ層遺物出土状況ドット図	369
第258図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (農具・容器・文房具)	370
第259図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅵ層出土遺物	371
第260図	南区 (2000年度 1 区)	SR3001Ⅷ層遺物出土状況ドット図	372

第261図	南区	(2000年度 1 区)	SR3001Ⅷ層出土遺物	……………	373
第262図	南区	(2000年度 1 区)	SR3001Ⅸ層遺物出土状況ドット図	……………	374
第263図	南区	(2000年度 1 区)	SR3001Ⅸ層出土遺物	……………	375
第264図	南区	(2000年度 1 区)	SR3001出土遺物	……………	376
第265図	南区	(2004年度 2 区)	調査区平面図・土層柱状図	……………	377
第266図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅱ層遺物出土状況ドット図	……………	378
第267図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅱ層出土木製品(農具・紡織具・服飾具・容器)	……………	379
第268図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅱ層出土木製品(容器・食事具・文房具・祭祀具)	……………	380
第269図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅱ層出土遺物	……………	381
第270図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅲ層遺物出土状況ドット図	……………	382
第271図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅲ層出土遺物	……………	383
第272図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅳ層遺物出土状況ドット図	……………	384
第273図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅳ層出土木製品(農具・服飾具・容器)	……………	385
第274図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅳ層出土遺物	……………	386
第275図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅴ層遺物出土状況ドット図	……………	387
第276図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品(工具・紡織具・服飾具・容器)	……………	388
第277図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品(食事具・文房具・祭祀具)	……………	389
第278図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅴ層出土木製品(祭祀具)	……………	390
第279図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅴ層出土遺物	……………	391
第280図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅵ層遺物出土状況ドット図	……………	392
第281図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001Ⅵ層出土遺物	……………	393
第282図	南区	(2004年度 2 区)	SR3001出土遺物	……………	393
第283図	南区	(2005年度 1 区)	調査区平面図	……………	394
第284図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅰ層遺物出土状況ドット図	……………	394
第285図	南区	(2005年度 1 区)	土層柱状図	……………	395
第286図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅰ層出土木製品(服飾具・容器)	……………	396
第287図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅱ層・Ⅲ層遺物出土状況ドット図	……………	397
第288図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土木製品(工具・農具・紡織具・服飾具)	……………	398
第289図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土木製品(服飾具・容器)	……………	399
第290図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土木製品(容器)	……………	400
第291図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土木製品(食事具・文房具・祭祀具)	……………	401
第292図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土木製品(祭祀具)	……………	402
第293図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土木製品(祭祀具・部材)	……………	403
第294図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土木製品(部材・用途不明)	……………	404
第295図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土遺物(1)	……………	405
第296図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土遺物(2)	……………	406
第297図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土遺物(3)	……………	407
第298図	南区	(2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層出土遺物(4)	……………	408

第299図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅲ層出土遺物(5)	409
第300図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅳ層・Ⅴ層遺物出土状況ドット図	410
第301図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (工具・農具・服飾具・容器)	411
第302図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (食事具・文房具・祭祀具・雑具)	412
第303図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅳ層出土遺物	413
第304図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (工具・農具)	414
第305図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (紡織具・服飾具・容器)	415
第306図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (容器) (1)	416
第307図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (容器) (2)	417
第308図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (食事具・文房具・遊戯具・祭祀具)	418
第309図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (1)	419
第310図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (2)	420
第311図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (3)	421
第312図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (用途不明)	422
第313図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅴ層出土遺物	423
第314図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層・Ⅷ層遺物出土状況ドット図	424
第315図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (農具・紡織具・服飾具)	425
第316図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (容器)	426
第317図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (容器・遊戯具・祭祀具)	427
第318図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (祭祀具) (1)	428
第319図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (祭祀具) (2)	429
第320図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (祭祀具) (3)	430
第321図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (祭祀具) (4)	431
第322図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土木製品 (容器・祭祀具・部材・用途不明)	432
第323図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土遺物(1)	433
第324図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅵ層出土遺物(2)	434
第325図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅷ層出土木製品 (農具・祭祀具・部材)	435
第326図	南区 (2005年度1区)	SR3001Ⅷ層出土遺物	436
第327図	南区 (2005年度1区)	SR3001遺物出土状況ドット図	436
第328図	南区 (2005年度1区)	SR3001出土木製品 (服飾具・容器・食事具・文房具・祭祀具)	437
第329図	南区 (2005年度1区)	SR3001出土木製品 (部材・建築部材・杭・用途不明・その他)	438
第330図	南区 (2005年度1区)	SR3001出土遺物	439
第331図	南区 (2005年度2区)	調査区平面図・土層柱状図	440
第332図	南区 (2005年度2区)	SR3001Ⅰ層・Ⅱ層遺物出土状況ドット図	441
第333図	南区 (2005年度2区)	SR3001Ⅰ層出土木製品 (服飾具・容器)	442
第334図	南区 (2005年度2区)	SR3001Ⅱ層出土遺物	443
第335図	南区 (2005年度2区)	SR3001Ⅲ層遺物出土状況ドット図	444
第336図	南区 (2005年度2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (工具・農具・紡織具)	445

第337図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (紡織具・武器・服飾具)	446
第338図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (服飾具) (1)	447
第339図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (服飾具) (2)	448
第340図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (容器) (1)	449
第341図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (容器) (2)	450
第342図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (容器) (3)	451
第343図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (容器) (4)	452
第344図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (容器) (5)	453
第345図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (容器) (6)	454
第346図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (食事具)	455
第347図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (文房具・祭祀具)	456
第348図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (祭祀具) (1)	457
第349図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (祭祀具) (2)	458
第350図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (祭祀具) (3)	459
第351図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (祭祀具・雑具)	460
第352図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (雑具・部材)	461
第353図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (部材・建築部材・用途不明)	462
第354図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土遺物(1)	463
第355図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土遺物(2)	464
第356図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅲ層出土遺物(3)	465
第357図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅳ層・Ⅴ層遺物出土状況ドット図	466
第358図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (服飾具・運搬具・容器)	468
第359図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (容器・食事具・文房具)	469
第360図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (祭祀具)	470
第361図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (祭祀具・雑具・部材)	471
第362図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅳ層出土遺物	472
第363図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (工具・農具)	473
第364図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (農具・紡織具)	474
第365図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (服飾具・武器・容器)	475
第366図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (容器) (1)	476
第367図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (容器) (2)	477
第368図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (容器) (3)	478
第369図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (容器・食事具・文房具・遊戯具)	479
第370図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (1)	480
第371図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (2)	481
第372図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (3)	482
第373図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (4)	483
第374図	南区 (2005年度 2区)	SR3001Ⅴ層出土木製品 (祭祀具) (5)	484

第375図	南区 (2005年度2区)	SR3001V層出土木製品 (祭祀具) (6)	485
第376図	南区 (2005年度2区)	SR3001V層出土木製品 (祭祀具) (7)	486
第377図	南区 (2005年度2区)	SR3001V層出土木製品 (祭祀具) (8)	487
第378図	南区 (2005年度2区)	SR3001V層出土木製品 (祭祀具) (9)	488
第379図	南区 (2005年度2区)	SR3001V層出土木製品 (祭祀具) (10)	489
第380図	南区 (2005年度2区)	SR3001V層出土木製品 (祭祀具・雑具・部材)	490
第381図	南区 (2005年度2区)	SR3001V層出土木製品 (部材)	491
第382図	南区 (2005年度2区)	SR3001V層出土木製品 (用途不明・建築部材)	492
第383図	南区 (2005年度2区)	SR3001V層出土遺物	493
第384図	南区 (2005年度2区)	SR3001出土遺物	494
第385図	南区 (2004年度1区)	第3遺構面 調査区遺構平面図	495
第386図	南区 (2004年度1区)	土層柱状図	496
第387図	南区 (2004年度1区)	SD3001・SD3002平・断面図	497
第388図	南区 (2004年度1区)	SD3003・SD3004平・断面図	498
第389図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅱ層・Ⅲ層遺物出土状況ドット図	499
第390図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅱ層出土木製品 (工具・用途不明)	500
第391図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅱ層出土木製品 (祭祀具)	501
第392図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅱ層出土遺物	502
第393図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (工具・農具・容器・食事具・文房具・祭祀具)	503
第394図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅲ層出土木製品 (祭祀具・部材)	504
第395図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅲ層出土遺物	505
第396図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層・Ⅴ層遺物出土状況ドット図	506
第397図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (工具・農具・紡織具)	507
第398図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (服飾具)	508
第399図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (容器) (1)	509
第400図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (容器) (2)	510
第401図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (容器) (3)	511
第402図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (容器) (4)	512
第403図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (食事具・文房具・遊戯具)	513
第404図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (祭祀具) (1)	514
第405図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (祭祀具) (2)	515
第406図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (祭祀具) (3)	516
第407図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (祭祀具) (4)	517
第408図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (祭祀具) (5)	518
第409図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (祭祀具) (6)	519
第410図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (祭祀具) (7)	520
第411図	南区 (2004年度1区)	SR3001Ⅳ層出土木製品 (雑具・部材・杭・用途不明)	521

第412図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅳ層出土遺物(1)	522
第413図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅳ層出土遺物(2)	523
第414図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品 （工具・農具・紡織具・服飾具・容器・用途不明）	524
第415図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（容器）(1)	525
第416図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（容器）(2)	526
第417図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（文房具・遊戯具・祭祀具）	527
第418図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）(1)	528
第419図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）(2)	529
第420図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）(3)	530
第421図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）(4)	531
第422図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（雑具・部材・杭）	532
第423図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土遺物(1)	533
第424図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅴ層出土遺物(2)	534
第425図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅵ層・Ⅶ層遺物出土状況ドット図	535
第426図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅵ層出土木製品（工具・農具・容器・文房具・祭祀具）	536
第427図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅵ層出土木製品（祭祀具）	537
第428図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅵ層出土遺物	538
第429図	南区（2004年度1区）SR3001Ⅶ層出土遺物	539
第430図	南区（2004年度1区）SR3001出土木製品（農具・容器）	540
第431図	南区（2004年度1区）SX3001平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物	541
第432図	南区（2007年度1区）第3遺構面 調査区遺構平面図・土層柱状図	542
第433図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅲ層・Ⅳ層・Ⅴ層・Ⅵ層遺物出土状況ドット図	542
第434図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅱ層出土遺物	543
第435図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅲ層出土遺物	544
第436図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅳ層出土木製品（農具・服飾具・容器・祭祀具）	545
第437図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅳ層出土木製品（祭祀具）	546
第438図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅳ層出土遺物	547
第439図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（農具・服飾具・容器・文房具・祭祀具）	548
第440図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具・部材・用途不明）	549
第441図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅴ層出土遺物	550
第442図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅵ層出土遺物	550
第443図	南区（2007年度1区）SR3001Ⅶ層出土木製品（祭祀具）	551
第444図	南区（2007年度1区）SR3001出土木製品（祭祀具）	551
第445図	南区（2007年度1区）包含層出土遺物	551
第446図	南区（1998年度1区）調査区遺構平面図・SR3001Ⅲ層・Ⅳ層遺物出土状況ドット図	552
第447図	南区（1998年度1区）土層柱状図	553
第448図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅱ層出土遺物	554

第449図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅲ層出土遺物	555
第450図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅳ層出土木製品 （農具・紡織具・容器・祭祀具・雑具・部材・用途不明）	556
第451図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅳ層出土木製品（紡織具・服飾具・容器・食器具・祭祀具）	557
第452図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅳ層出土木製品（祭祀具・紡績具）	558
第453図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅳ層出土遺物(1)	559
第454図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅳ層出土遺物(2)	560
第455図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅳ層出土遺物(3)	561
第456図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅳ層出土遺物(4)	562
第457図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅳ層出土遺物(5)	563
第458図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅳ層出土遺物(6)	564
第459図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層遺物出土状況ドット図	565
第460図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土木製品（工具・農具・紡織具・容器・遊戯具）	566
第461図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土木製品（祭祀具）(1)	567
第462図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土木製品（祭祀具）(2)	568
第463図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土木製品（雑具・部材・建築部材・杭）	569
第464図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土遺物(1)	570
第465図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土遺物(2)	571
第466図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土遺物(3)	572
第467図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土遺物(4)	573
第468図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土遺物(5)	574
第469図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土遺物(6)	575
第470図	南区（1998年度1区）SR3001Ⅶ層出土遺物(7)	576
第471図	南区（1998年度1区）SR3001出土遺物	577
第472図	出土遺物（金属製品）(1)	579
第473図	出土遺物（金属製品）(2)	580
第474図	出土遺物（金属製品）(3)	581
第475図	出土遺物（金属製品）(4)	582
第476図	出土遺物（金属製品）(5)	583
第477図	出土遺物（金属製品）(6)	584
第478図	出土遺物（銭貨）(1)	585
第479図	出土遺物（銭貨）(2)	586
第480図	各層位の木製品出土割合	594
第481図	木製祭祀具・容器層位別出土割合	594
第482図	その他の木製品層位別出土割合	595
第483図	木製祭祀具層位別出土割合	595
第484図	斎串層位別出土割合	596
第485図	斎串の長さとは幅	597

第486図	人形層位別出土割合	598
第487図	円筒状人形の直径	599
第488図	舟形層位別出土数	599
第489図	舟形の長さ	600
第490図	その他の木製祭祀具層位別出土割合	601
第491図	曲物底板の直径	602

表1 墨書土器

表2 刻書土器

・ 巻頭カラー

巻頭図版1 勘籍木簡(201号)保存処理後

巻頭図版2 2005年度1区遠景(北から)
勘籍木簡(201号)出土状況

巻頭図版3 銅印出土状況(2005年度1区Ⅲ層)
墨書土器(1521)

本文目次(第2分冊)

観察表	1
写真図版	115
自然化学分析等	183

表目次(第2分冊)

表3	木製品	4
表4	土器	78
表5	金属製品	110
表6	石器	113
表7	骨製品	113
表8	観音寺遺跡における樹種同定結果	193
表9	種名表	207
表10	総破片数	207
表11	魚類出土一覧表	207

表12	爬虫類出土一覧表	207
表13	哺乳類出土点数	207
表14	出土鳥類一覧表	208
表15	哺乳類部位別表	209
表16	ウマの体高値一覧	210
表17	ウシの体高値一覧	211
表18	イヌの頭蓋骨一覧表	212
表19	イヌの下顎骨一覧表	212
表20	イヌの四肢骨体高値一覧表	212
表21	徳島県内出土の日本古代銭貨	221

図 版 目 次 (第 2 分冊)

図版 1	北区 (1999年度 1 - 1 区)	第 3 遺構面検出状況	
	北区 (1999年度 1 - 2 区)	第 4 遺構面完掘状況	117
図版 2	北区 (1999年度 1 - 2 区)	SK5004遺物出土状況	
	北区 (1999年度 1 - 2 区)	SP5004遺物出土状況	
	北区 (1999年度 1 - 2 区)	SX5003遺物出土状況	118
図版 3	北区 (2001年度 1 区)	第 1 遺構面検出状況	119
図版 4	北区 (2001年度 1 区)	第 5 遺構面完掘状況	
	北区 (2001年度 2 区)	第 4 遺構面完掘状況	120
図版 5	南区 (2000年度 2 区)	第 3 遺構面検出状況	
	南区 (2000年度 2 区)	第 5 遺構面完掘状況	121
図版 6	南区 (2004年度 3 区)	第 2 遺構面完掘状況	
	南区 (2004年度 3 区)	第 4 遺構面完掘状況	122
図版 7	南区 (2003年度 8 区)	第 4 遺構面完掘状況	
	南区 (2003年度 8 区)	SR3001Ⅲ層 鋤 (141) 出土状況	
	南区 (2003年度 8 区)	SR3001Ⅴ層 曲物 (160) 出土状況	123
図版 8	南区 (2004年度 1 区)	SR3001Ⅳ層 木製品出土状況	
	南区 (2004年度 1 区)	SR3001Ⅳ層 人形 (2031) 出土状況	
	南区 (2004年度 2 区)	SR3001Ⅴ層 曲物「貝」(680) 出土状況	124
図版 9	南区 (2004年度 1 区)	SR3001Ⅵ層 牛馬骨出土状況 (1)	
	南区 (2004年度 1 区)	SR3001Ⅵ層 牛馬骨出土状況 (2)	
	南区 (2004年度 1 区)	SR3001Ⅵ層 馬下顎骨出土状況	125
図版10	南区 (2005年度 1 区)	調査区全景 (北から)	
	南区 (2005年度 2 区)	SR3001 南岸完掘状況 (北から)	

	南区 (2005年度 2 区)	SR3001 南岸完掘状況 (東から) ……………	126
図版11	南区 (2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層 土器溜まり遺物出土状況	
	南区 (2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層 銅印 (2775) 出土状況	
	南区 (2005年度 1 区)	SR3001Ⅴ層 曲物蓋 (935) 出土状況 ……………	127
図版12	南区 (2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層 墨書土器「松島」(860) 出土状況	
	南区 (2005年度 1 区)	SR3001Ⅴ層 人形 (975) 出土状況	
	南区 (2005年度 1 区)	SR3001Ⅵ層 人形 (1116) 出土状況 ……………	128
図版13	南区 (2005年度 2 区)	SR3001Ⅲ層 柄杓 (1302) 出土状況	
	南区 (2005年度 2 区)	SR3001Ⅲ層 墨書土器 (1523) 出土状況	
	南区 (2005年度 2 区)	SR3001Ⅲ層 檜扇 (1277) 出土状況 ……………	129
図版14	南区 (2005年度 1 区)	SR3001Ⅲ層 猪下顎骨出土状況	
	南区 (2005年度 1 区)	SR3001Ⅴ層 牛馬骨出土状況	
	南区 (2005年度 2 区)	SR3001Ⅴ層 馬肩甲骨出土状況 ……………	130
図版15	北区 (1999・2001年度)	第1～3遺構面 出土遺物 ……………	131
図版16	北区 (1999・2001年度)	SR4001 出土遺物 ……………	132
図版17	北区 (1999・2001年度)	第4遺構面 出土遺物 ……………	133
図版18	北区 (1999・2001年度)	SR5001 出土遺物 ……………	134
図版19	北区 (1999・2001年度)	第5遺構面 出土遺物 ……………	135
図版20	南区 (2000年度 1 区)	SR3001 出土遺物(1) ……………	136
図版21	南区 (2000年度 1 区)	SR3001 出土遺物(2) ……………	137
図版22	南区 (2000年度 1 区)	SR3001 出土遺物(3) ……………	138
図版23	南区 (2000年度 1 区)	SR3001 出土遺物(4) ……………	139
図版24	南区 (2000年度 1 区)	SR3001 出土遺物(5) ……………	140
図版25	南区 (2000年度 1 区)	SR3001 出土遺物(6) ……………	141
図版26	南区 (2000年度 1 区)	SR3001 出土遺物(7)	
	南区 (2000年度 2 区)	出土遺物 ……………	142
図版27	南区 (2003年度 8 区)	SR3001 出土遺物 ……………	143
図版28	南区 (2003年度 8 区)	SX3001 出土遺物 ……………	144
	南区 (2003年度 8 - 2 区)	SR3001 出土遺物	
図版29	南区 (2005年度 1 区)	SR3001 出土遺物(1) ……………	145
図版30	南区 (2005年度 1 区)	SR3001 出土遺物(2) ……………	146
図版31	南区 (2005年度 1 区)	SR3001 出土遺物(3) ……………	147
図版32	南区 (2005年度 1 区)	SR3001 出土遺物(4) ……………	148
図版33	南区 (2005年度 1 区)	SR3001 出土遺物(5) ……………	149
図版34	南区 (2005年度 1 区)	SR3001 出土遺物(6) ……………	150
図版35	南区 (2005年度 1 区)	SR3001 出土遺物(7) ……………	151
図版36	南区 (2005年度 2 区)	SR3001 出土遺物(1) ……………	152
図版37	南区 (2005年度 2 区)	SR3001 出土遺物(2) ……………	153

図版38	南区 (2005年度 2区)	SR3001	出土遺物 (3)	154
図版39	南区 (2005年度 2区)	SR3001	出土遺物 (4)	155
図版40	南区 (2005年度 2区)	SR3001	出土遺物 (5)	156
図版41	南区 (2005年度 2区)	SR3001	出土遺物 (6)	157
図版42	南区 (2005年度 2区)	SR3001	出土遺物 (7)	158
図版43	南区 (2004年度 1区)	SX1001	出土遺物	
	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (1)	159
図版44	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (2)	160
図版45	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (3)	161
図版46	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (4)	162
図版47	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (5)	163
図版48	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (6)	164
図版49	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (7)	165
図版50	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (8)	166
図版51	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (9)	167
図版52	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (10)	168
図版53	南区 (2004年度 1区)	SR3001	出土遺物 (11)	169
図版54	南区 (2004年度 2区)	SR3001	出土遺物 (1)	170
図版55	南区 (2004年度 2区)	SR3001	出土遺物 (2)	171
図版56	南区 (2004年度 2区)	SR3001	出土遺物 (3)	172
図版57	南区 (2004年度 2区)	SR3001	出土遺物 (4)	173
図版58	南区 (2004年度 3区)	SR3001	出土遺物	
	南区 (2002年度 7区)	SR3001	出土遺物	
	南区 (2007年度 1区)	SR3001	出土遺物 (1)	174
図版59	南区 (2007年度 1区)	SR3001	出土遺物 (2)	175
図版60	南区 (1998年度 1区)	SR3001	出土遺物 (1)	176
図版61	南区 (1998年度 1区)	SR3001	出土遺物 (2)	177
図版62	南区 (1998年度 1区)	SR3001	出土遺物 (3)	178
図版63	南区 (1998年度 1区)	SR3001	出土遺物 (4)	179
図版64	南区 (全年度)	SR3001	出土金属製品	180
図版65	北区 (全年度)		出土金属製品	
	(全年度)		出土石製品	
	(全年度)		出土骨製品	181
図版66	(全年度)		出土銭貨	182
図版67	観音寺遺跡の木材 I			195
図版68	観音寺遺跡の木材 II			196
図版69	観音寺遺跡の木材 III			197
図版70	観音寺遺跡の木材 IV			198

図版71	観音寺遺跡の木材 V	199
図版72	観音寺遺跡の木材 VI	200
図版73	観音寺遺跡の木材 VII	201
図版74	観音寺遺跡の木材 VIII	202
図版75	動物遺体 1	213
図版76	動物遺体 2	214
図版77	動物遺体 3	215
図版78	動物遺体 4	216
図版79	動物遺体 5	217
図版80	動物遺体 6	218
図版81	動物遺体 7	219

挿 図 目 次 (第 2 分冊)

第492図	哺乳類出土点数内訳	207
第493図	ウマの推定体高	210
第494図	ウマ 時代別体高分布	210
第495図	ウシの推定体高	211
第496図	ウシ 時代別体高分布	211
第497図	イヌの推定体高	212

自 然 科 学 分 析 等 (第 2 分冊)

徳島県観音寺遺跡における樹種同定	185
観音寺遺跡出土の動物遺体	203
徳島県内出土の日本古代銭貨	220

本 文 目 次 (第 3 分冊)

I 木簡出土遺構の概要

1. 自然流路 (SR3001)

2. 自然流路 (SR4001)

3. 自然流路 (SR5001)

4. 木簡の出土状況

II 出土木簡の観察と釈文

1. 出土木簡の概要

2. 出土木簡の釈文と内容

3. その他

III まとめ

1. 観音寺遺跡出土木簡の年代について

2. 木簡の形態について

挿 図 目 次 (第3分冊)

第498図 自然流路 (SR3001) の地形とV層出土木簡分布図

第499図 自然流路 (SR3001) III層・IV層出土木簡分布図

第500図 木簡実測図① (87~92号)

第501図 木簡実測図② (93~99号)

第502図 木簡実測図③ (100~111号)

第503図 木簡実測図④ (112~120号)

第504図 木簡実測図⑤ (121~131号)

第505図 木簡実測図⑥ (132~140号)

第506図 木簡実測図⑦ (141~151号)

第507図 木簡実測図⑧ (152~160号)

第508図 木簡実測図⑨ (161~171号)

第509図 木簡実測図⑩ (172~178号)

第510図 木簡実測図⑪ (179~187号)

第511図 木簡実測図⑫ (188~200号)

- 第512図 木簡実測図⑬ (201～208号)
第513図 木簡実測図⑭ (203号・209～215号)
第514図 その他実測図
第515図 木簡の型式別組成

表 目 次 (第3分冊)

- 表22 各層位の木簡出土数
表23 木簡型式別出土数
表24 木簡
表25 その他

図 版 目 次 (第3分冊)

・ 巻頭カラー

- 巻頭図版 4 勘籍木簡 (201号) 出土状況 (西から撮影)
勘籍木簡 (201号) 出土状況 (南から撮影)
巻頭図版 5 148号木簡出土状況 (西から撮影)
178号木簡出土状況 (東から撮影)
巻頭図版 6 木簡
巻頭図版 7 木簡
巻頭図版 8 木簡
巻頭図版 9 木簡
巻頭図版10 木簡
巻頭図版11 木簡
巻頭図版12 木簡
巻頭図版13 木簡
巻頭図版14 木簡
巻頭図版15 木簡
巻頭図版16 木簡

・ 赤外線写真図版

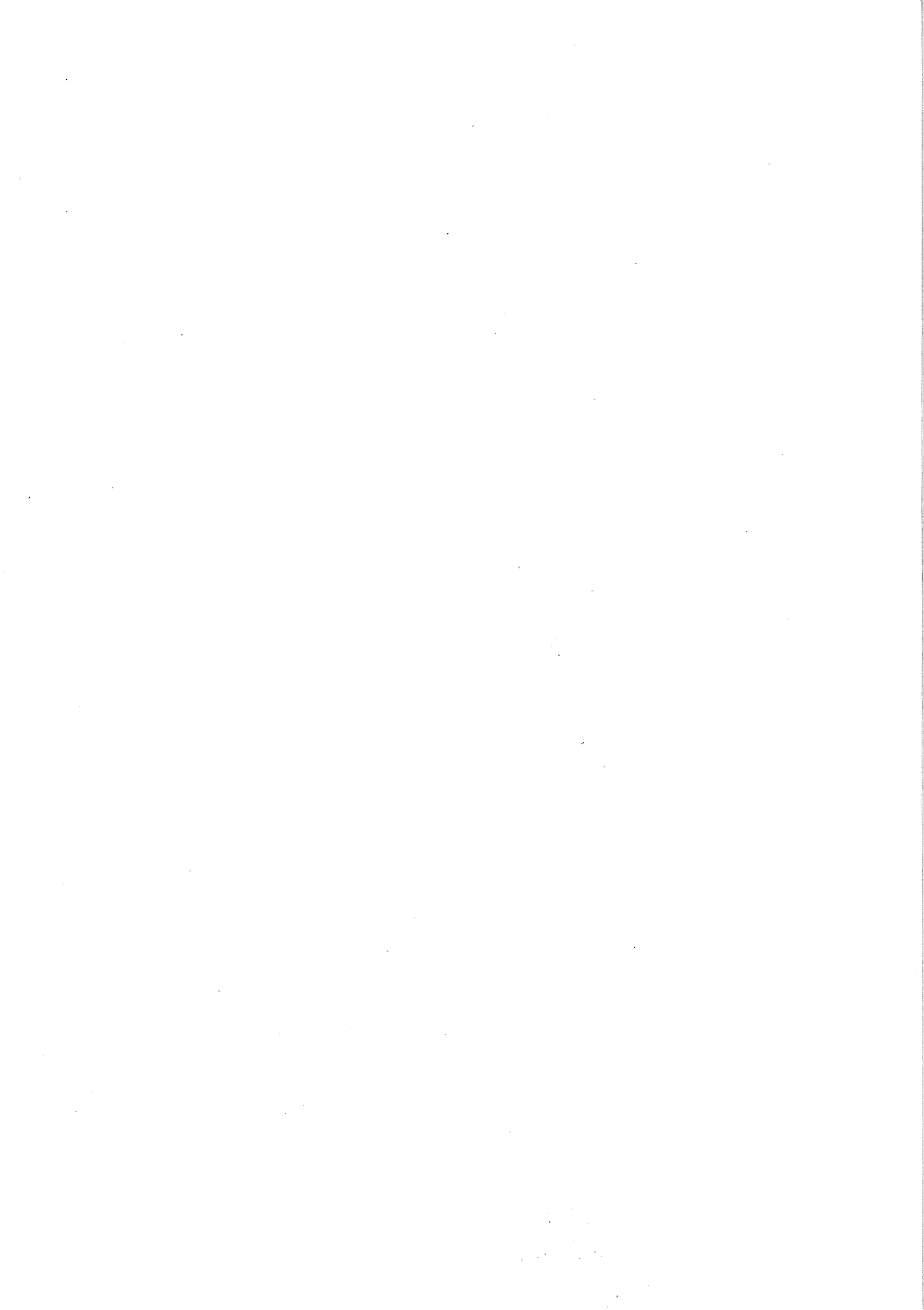
- 図版82 木簡 (87号～92号)
図版83 木簡 (93号～99号)

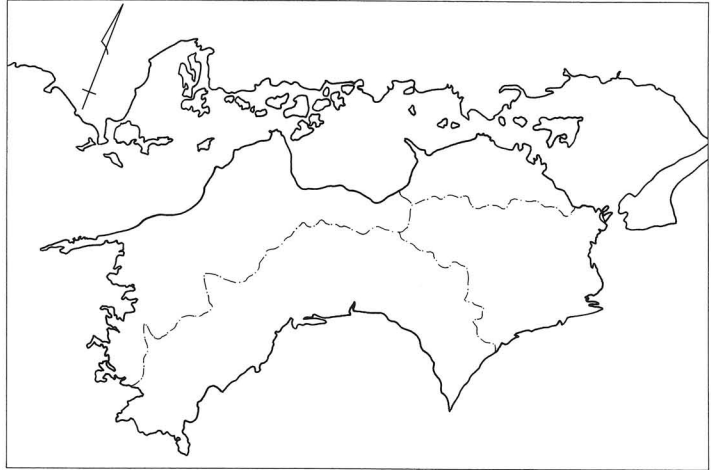
- 図版84 木簡 (100号～111号)
- 図版85 木簡 (112号～120号)
- 図版86 木簡 (121号～131号)
- 図版87 木簡 (132号～140号)
- 図版88 木簡 (141号～151号)
- 図版89 木簡 (152号～160号)
- 図版90 木簡 (161号～171号)
- 図版91 木簡 (172号～178号)
- 図版92 木簡 (179号～187号)
- 図版93 木簡 (188号～200号)
- 図版94 木簡 (201号～208号)
- 図版95 木簡 (203号・209号～215号)
- 図版96 その他

・ 付図

201号木簡赤外線写真 (原寸大)

I 発掘調査及び 整理業務に関する経緯と経過





第1図 観音寺遺跡位置図

1 発掘調査の経緯と経過

(1) 調査にいたる経緯

徳島市では幹線道路の国道11号、55号、192号が市街地中心部で交差していることから、都市内交通や通過交通が集中し、交通渋滞が慢性化していた。こうした事態の解消を図るため、徳島市街地を環状に巡る延長約35kmの地域高規格道路として徳島外環状道路の整備が計画された。徳島環状線(国府工区)は徳島外環状道路の西側区間にあたり、路線延長は徳島市国府町観音寺の国道192号から主要地方道徳島鴨島線に至る約1.5kmである。本路線は徳島県を事業主体とし、平成7年度に地域高規格指定、平成13年度に都市計画決定を受けている。

当該地域は阿波国府跡を中心とする条里地割りの残存する地域であり、縄文時代以降、古代・中世と県内で最も濃密に遺跡が分布する地域である。本路線の南に接続する徳島南環状道路では、平成4年度より建設工事に先立って、「延命遺跡」、「矢野遺跡」、「観音寺遺跡」等一連の遺跡が発掘調査されてきた。

事業の進捗に伴い、平成8年5月10日、徳島県土木部(現県土整備部)都市道路整備局(以下、「都市道路整備局」という。)と徳島県教育委員会文化課(現文化財課 以下、「文化財課」という。)は、当該区間の埋蔵文化財の取り扱いについて協議を持ち、本路線内における埋蔵文化財の有無と範囲の確認、工事の埋蔵文化財に対する影響の有無等を確認するために試掘調査を実施すること。埋蔵文化財が確認された場合は改めて協議を持ち、工事着手前に発掘調査を実施すること等、その保護措置を講ずることで合意した。都市道路整備局は用地取得が一定の進捗をみた段階で、文化財課に対し試掘調査を依頼(平成9.10.20都道局第437号)し、文化財課がこれを承諾(平成9.11.13教文課第403号)した。

試掘調査は、平成9年11月から12月の間、県から委託を受けた財団法人徳島県埋蔵文化財センター(以下、「埋蔵文化財センター」という。)が実施した。当初、用地取得が進捗しているJR徳島本線から主要地方道徳島鴨島線までの間、約105,000㎡を対象に取得済用地内で400㎡の試掘調査を行った。試掘調査の結果、ほとんどの試掘トレンチで遺物・遺構を確認し、対象地域に古代から中世に至る遺跡が存在することが判明した。また、JR徳島本線から国道192号の間についても、隣接する南環状道路建設に伴う発掘調査の状況から遺跡の広がりが予想され、本路線のほぼ全域に遺跡の存在が想定された。

試掘調査の結果を受け、文化財課と都市道路整備局は遺跡の取り扱いについて改めて協議を持ち、道路建設予定地の全区間で工事着手前に発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図ることを前提とすることで合意した。この時点で用地未取得の箇所については、取得に併せて埋蔵文化財センターが順次試掘調査を実施し、遺跡の遺存状況、深度、遺構面数、掘削層厚について把握し、これに基づいて文化財課と都市道路整備局で毎年度に協議を持ち、取得用地のまとめりや工事計画を考慮した次年度以降の発掘調査実施計画を立てていった。

発掘調査は、取得用地が一定のまとめりをみた箇所で年次毎に埋蔵文化財センターに委託して、平成10年度から19年度の10ヶ年間にわたり順次実施された。なお、平成10年度から15年度は大規模面積の調査となったことから、効率化を図るために工事請負方式を採用し、併せて測量及び実測作業の効率化を図るために、空中写真撮影図化を導入して調査にあたった。平成16年度以降は埋蔵文化財センターが直営方式で調査にあたっている。

なお、遺跡名については、大字観音寺を中心とした箇所は、南環状道路で発掘調査された「観音寺遺

跡」と一連の遺跡であることから、これを遺跡名とした。また、新たに試掘調査で確認された遺跡については、それぞれの大字名を使用することとし、大字敷地を中心とした箇所を「敷地遺跡」、大字池尻から桜間を中心とした箇所を「池尻・桜間遺跡」とそれぞれ呼称することとした（第2図）。（辻）

（2）調査の経過

発掘調査は平成10年度より着手され、以後国府工区内は平成19年に至るまで、用地の取得状況に合わせて継続して行われている。（第2・4図）

調査の進展に伴い、JR 四国・徳島本線付近を境として、南側に古墳時代から古代にかけての流路や水田が広がっており、北側には古墳時代の集落が主に存在することが判明してきたため、JR の線路を境界にして北側を敷地遺跡、南側を観音寺遺跡に便宜的に分けていくこととした。

敷地遺跡の北端と池尻・桜間遺跡の境界に関しては、西大堀川の支流とみられる流れが、路線を分断する地点をもって分けることにした。また、敷地遺跡のほぼ中央部を、東西に横切る県道平島国府線に沿うようにして、西大堀川が敷地遺跡を分断していることが確認できたため、南側を敷地遺跡Ⅰ群、北側を敷地遺跡Ⅱ群として捉えることとした。発掘調査期間中には、一般を対象とする現地説明会を実施して、調査成果の紹介につとめた。開催日程は以下の通りである。

平成15年度：平成16年3月6日

平成16年度：平成17年3月19日

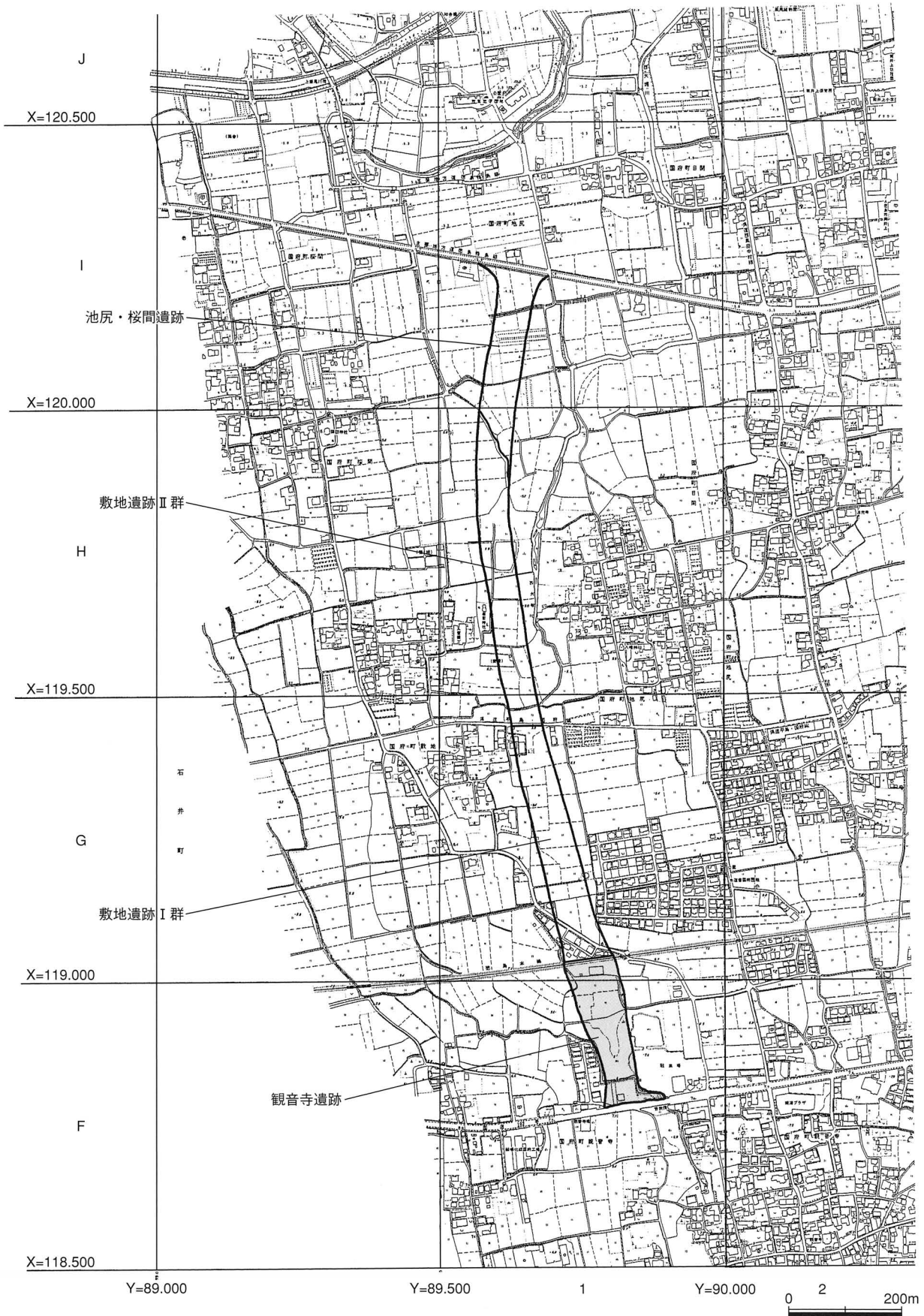
ここに挙げた以外にも、徳島県埋蔵文化財総合センターにおける速報展示会や成果報告会などにおいて、観音寺遺跡の調査成果を紹介する機会を設けた。（氏家）

（3）発掘調査の方法

発掘調査にあたっては隣接する国道192号徳島南環状道路の調査に伴い、第Ⅳ系国土座標軸を基準とした大規模なグリッド設定が行われていたことから、今回の調査についても、これを利用することとした。そのため基準となる座標の位置は、X=116,000、Y=89,500の交点を基点として用いている。

まず、一辺を500m とするグリッドで区切り、基点から北にアルファベットの大文字(A、B、C……)、同じく基点から東にアラビア数字(1、2、3……)をそれぞれ付けることで、大グリッドの絶対位置を表した。さらにこのグリッド内を100m ごとに区切って、南から北へはギリシャ文字(α、β、γ、δ、ε)、西から東へはローマ数字(I、II、III、IV、V)として、中グリッドを設定している。中グリッドをさらに細分して5m ごとに区切り、南から北へはアルファベット(A、B、C……T)、西から東へはアラビア数字(1、2、3……20)として、小グリッドを設定して調査を行うこととした。なお、大グリッドと小グリッドが混同することがないように、大グリッドの頭に「Location」の略号として、「Loc.」を付けることとし、Loc.G-1(大グリッド).β-2(中グリッド).A-3(小グリッド)というような表現で、絶対位置を表すようにした。（第2・4図）

また調査区の名称については、調査年度ごとの名称をそのまま使用しているが、遺跡の性格を考慮して北区と南区に大きく2分し、北区(〇〇年度〇区)と表記した。1999年度と2001年度を北区、それ以外を南区とした。（氏家）



第2図 徳島環状線（国府工区）路線と観音寺遺跡調査区（網かけ部分）

2 整理業務の方法と経過

整理作業は平成17年度より開始された。当時発掘調査そのものが継続中であり、全体計画については未定な部分が存在していた。作業歩掛については(財)徳島県埋蔵文化財センターの整理作業実績に基づいて行うこととした。その後の協議によって遺物総箱数1,750箱の概数に相当する、観音寺遺跡および、敷地遺跡Ⅰ群の報告書刊行までの整理作業を行うこととなり、残る敷地遺跡Ⅱ群および、池尻・桜間遺跡の整理方法については、今後の継続協議となった。

『観音寺遺跡Ⅳ』の整理作業は、平成18年度より3班体制で本格的に取りかかり、木製品の洗浄・実測・写真撮影・トレース作業を実施した。平成19年度は2.5班体制で行われ、木製品のトレース作業、土器・金属器等の注記・接合・実測・トレース作業、写真撮影等を実施し、その後に報告書の執筆、編集作業を実施した。

木簡の積読については京都教育大学名誉教授 和田 萃氏に依頼し、発掘調査期間も含めて、調査指導と積読作業を行っていただいた。

また木簡の保存処理は、平成18年度より独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所において「徳島市観音寺遺跡・敷地遺跡(阿波国府推定地)出土木簡の総合的研究業務委託」として行った。木簡の積文に関しては、奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室の渡辺晃宏室長を中心に検討会を開き、和田氏の立ち会いのもと処理前、処理後の2回の確認を行った。

出土した木簡は以下の年度において報道発表と一般公開を行った。

平成12年度

報道発表 平成13年3月6日

平成16年度

報道発表 平成17年3月15日

成果説明会と展示解説 平成17年3月19日

平成17年度

報道発表 平成18年3月26日

成果説明会と展示解説 平成18年4月1、2日

平成18年11月に平成19年度の文化庁主催の新発見考古学速報展「発掘された日本列島 2007」への出展依頼があった。木簡のレプリカをはじめ、木製品、土器、金属製品など43点を出品した。平成19年6月5日の東京都江戸東京博物館を皮切りに、帯広百年記念館、長野県立歴史館、岐阜県博物館、徳島県立博物館、熊本市立熊本博物館、大阪府立近つ飛鳥博物館において展示された。

木簡の展示を目的としてレプリカを作成した。作成したレプリカは114号、137号、149号、173号、182号、183号、184号、185号、186号、187号、188号、191号、201号の13点で、徳島県立埋蔵文化財総合センターにおいて随時展示を行っている。(山上・大橋)

3 発掘調査・整理業務の体制

○1998年度

・事務局

所長 寒川光明

(総務課)

課長 井後伸一

技術主任 大西孝司

(調査課)

課長 菅原康夫

・発掘調査業務

第一係長 市村みね

研究員 氏家敏之 宮谷純弘 高柳孝治

事務局長 細川靖夫

主事 集堂正士 佐藤真紀

○1999年度

・事務局

所長 寒川光明

(総務課)

次長兼課長 井後伸一

技術主任 小田祥雄

(調査課)

課長 菅原康夫

・発掘調査業務

主査兼第二係長 武市文雄

研究員 氏家敏之 宮谷純弘 松田 幸 橋本守正 大石修一 和泉一三

研究補助員 堀岡敬二

事務局長 細川靖夫

主事 集堂正士 佐藤真紀

○2000年度

・事務局

所長 寒川光明

(総務課)

次長兼課長 高野 明

主事 田所政儀

(調査課)

課長 菅原康夫

・発掘調査業務

主査兼第二係長 武市文雄

研究員 田川 憲 松田 幸 槌谷久代 佐藤治史 上窪昭英 元木浩司 林 賢彦

事務局長 伊丹康裕

主査兼係長 福本紀美子

技術主任 榎原義則

○2001年度

・事務局

所長 本浄敏之 事務局長 伊丹康裕
(総務課)

次長兼総務課長 高野 明 主査兼係長 福本紀美子

技術主任 原田敏夫 榎原義則

事務主任 田所政儀

(調査課)

調査課長 菅原康夫

・発掘調査業務

主査兼調査第二係長 新居文和

研究員 氏家敏之 宮谷純弘 高田史子 元木浩司 川村哲夫 宮本 格 田所賢治

○2002年度

・事務局

所長 本浄敏之 事務局長 西村和博
(総務課)

次長兼総務課長 山本高史 主査兼係長 福本紀美子

事務主任 布川純子 鈴木智栄

(調査課)

調査課長 菅原康夫 設計係長 原田敏夫

・発掘調査業務

主査兼調査係長 新居文和

研究員 大橋育順 槌谷久代 豊田周作

○2003年度

・事務局

所長 本浄敏之 事務局長 西村和博
(総務課)

次長兼総務課長 山本高史 主査兼庶務係長 坂尾俊一

事務主任 布川純子 鈴木智栄

(調査課)

課長 新居文和

・発掘調査業務

主査兼調査第一係長 富本輝仁

研究員 槌谷久代 宮本 格 井藤良雄 武中宏之 森岡基司 須崎一幸

庄司俊也 林 賢彦 篠原久仁子 大橋育順

○2004年度

・事務局

所長 浦上純二 事務局長 河野幸一
(総務課)

次長兼総務課長 古田哲郎 主査兼庶務係長 坂尾俊一
事務主任 鈴木智栄 主事 川口治代
(事業第一課)

課長 富本輝仁 第一係長 濱 徹

・発掘調査業務

第二係長 藤川智之
研究員 大橋育順 杉本昌弘 小川勝幸

○2005年度

・事務局

所長 浦上純二 事務局長 河野幸一
(総務課)

次長兼総務課長 古田哲郎 主査兼庶務係長 坂尾俊一
事務主任 浦川明美 主事 川口治代
(事業第一課)

課長 中妻敬二 第一係長 濱 徹

・発掘調査業務

事業第一課 主任研究員 大橋育順
研究員 松家義人

○2006年度

・事務局

所長 村山一行 事務局長 河野幸一
(総務課)

次長兼総務課長 一宮一郎 主査兼庶務係長 新居謙輔
事務主任 浦川明美 川口治代
(事業第二課)

課長 島巡賢二 第一係長 豊田大之介

・整理業務担当

事業第二課 研究員 安倍崇志 山上孝好 澤井康博

○2007年度

・事務局

所長 伊川政文 事務局長 多田升二

(総務課)

次長兼総務課長 一宮一郎 主査兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 浦川明美 野田登記子

(事業第一課)

課長 湯浅利彦

第一係長 藤川智之

第二係長 氏家敏之

・発掘調査担当

事業第一課 主任研究員 大橋育順

研究員 入江正幸

・整理業務担当

事業第一課 研究員 山上孝好 澤井康博 服部 靖

4 調査日誌抄

(平成10年度調査)

1998年 5月1日 調査準備

5月22日～ 1区機械掘削開始

6月4日～ 1区人力掘削開始

9月3日 作図作業開始

9月8日 埋め戻し

(平成11年度調査)

1999年 4月6日 調査準備

6月4日～ 1-1区人力掘削開始

7月2日 1-1区空撮

7月12日～ 1-1区人力掘削開始

7月23日 1-1区遺構検出

8月5日 1-1区遺構検出

8月10日 1-1区空撮

8月11日～ 作図作業開始

8月17日～ 1-1区人力掘削開始

9月13日 1-1区空撮精査

9月14日 1-1区空撮

10月11日～ 1-1区埋め戻し開始

10月12日～ 1-2区機械掘削開始

11月4日～ 1-2区人力掘削開始

11月8日 1-2区遺構検出

11月9日～ 1-2区遺構内掘削開始

11月29日 1 - 2 区遺構検出
12月7日～ 1 - 2 区遺構内掘削開始
12月21日 1 - 2 区空撮

(平成12年度調査)

2000年4月3日 調査準備
4月25日～ 機械掘削(1次)開始
5月25日～ 機械掘削(2次)開始
6月15日～ 2区人力掘削開始
6月22日～ 2区遺構内掘削開始
6月29日 2区第1遺構面遺構完掘・空撮
7月26日 2区第2遺構面検出
8月4日～ 2区第2遺構面遺構内掘削開始
8月10日 2区第2遺構面遺構完掘・空撮
9月8日 2区第3遺構面検出
9月21日～ 1区第3遺構面遺構内掘削開始
9月27日～ 1区(南側)人力掘削開始
10月2日 2区第3遺構面遺構完掘・空撮
10月16日～ 4区人力掘削開始
10月18日 4区第1遺構面検出
10月19日～ 4区第1遺構面遺構内掘削開始
11月6日 2区第4遺構面検出
11月7日～ 2区第4遺構面遺構内掘削開始
11月7日 4区第2遺構面検出
11月9日～ 4区第2遺構面遺構内掘削開始
11月14日 2区第4遺構面遺構完掘・空撮・4区第3遺構面遺構内掘削開始
11月15日～ 3区人力掘削開始
11月21日 3区第1遺構面検出・4区第3遺構面完掘
11月22日～ 3区第1遺構面遺構内掘削開始
11月25日～ 2区第5遺構面検出・遺構内掘削開始
11月28日～ 1区(南側)遺構内掘削開始
12月4日 2区第5遺構面遺構完掘・空撮
12月5日 2区調査終了
12月7日～ 4区第3遺構面検出・遺構内掘削開始
12月9日～ 3区第2遺構面検出・遺構内掘削開始
12月11日～ 1区(北側)人力掘削開始
12月12日 4区第3遺構面完掘・空撮
12月15日 4区調査終了

12月20日 3区第3遺構面検出・遺構内掘削開始
 12月25日 3区第4遺構面検出・遺構内掘削開始
 2001年1月10日 3区第5遺構面検出・遺構内掘削開始
 1月13日 3区第5遺構面完掘・調査終了
 1月18日 1区（南側）調査終了
 2月15日 1区（北側）遺構完掘・空撮・調査終了
 2月16日～ 埋め戻し開始
 3月23日 現場撤収

（平成13年度調査）

2001年4月2日～ 調査準備
 5月14日～ 1区機械掘削開始
 5月21日～ 1区人力掘削開始
 6月6日 1区第1遺構面遺構完掘・空撮
 6月19日 1区第2遺構面遺構完掘・空撮
 7月3日 1区第3遺構面遺構完掘・空撮
 7月14日 1区第4遺構面遺構完掘・空撮
 8月2日～ 1区第5遺構面遺構内掘削開始
 8月9日 1区第5遺構面完掘・空撮
 8月30日～ 2区機械掘削開始
 9月13日～ 2区人力掘削開始
 9月20日 2区第3遺構面遺構検出・遺構内掘削開始
 10月2日 2区第3遺構面遺構完掘・空撮
 10月24日 2区第4遺構面遺構完掘・空撮
 10月25日～ 2区第4遺構面遺構内掘削開始
 11月10日～ 2区第5遺構面遺構内掘削開始
 11月22日 2区遺構完掘・空撮
 2002年1月24日 2区第5遺構面遺構完掘・空撮
 2月1日 2区調査終了
 2月19日 現場撤収

（平成14年度調査）

2002年10月4日 調査準備
 10月10日～ 7区機械掘削開始
 10月22日～ 7区人力掘削開始
 10月23日 7区（南側）第1遺構面遺構検出
 10月29日 7区（北側）流路検出
 11月20日 7区（北側）遺構完掘状況写真撮影

11月22日 7区(南側)掘削終了・遺物取り上げ終了
11月26日 7区(南側)第1遺構面遺構完掘・全面精査・写真撮影
11月28日 7区調査終了

(平成15年度調査)

2003年10月15日～ 8区機械掘削開始
10月27日 8区機械掘削終了
10月28日～ 8区北・東西側溝人力掘削開始
10月29日～ 8区第1包含層人力掘削開始
10月30日 8区第1遺構面(水田)精査
10月31日 8区遺構完掘状況写真撮影
11月21日～ 8区第2包含層人力掘削開始
12月1日 8区第2遺構面(水田)遺構完掘
12月2日 8区第2遺構面(水田)遺構完掘状況写真撮影
12月4日～ 8区第3包含層人力掘削開始
12月8日～ 8区SR3001掘削開始
12月14日 8区第3遺構面(水田)遺構完掘
12月22日 8区北 第1包含層人力掘削・第1遺構面(水田)遺構検出
2004年1月9日 8区SR3001掘削完了
1月13日 8区北第2遺構面(水田)遺構検出
1月15日～ 8区第4遺構面遺構内掘削開始
1月20日 8区第4遺構面遺構完掘状況写真撮影
1月29日 8区第5遺構面遺構完掘状況写真撮影
1月30日 8区SX5001～5003完掘
2月6日～ 8区埋め戻し開始

(平成16年度調査)

2004年4月13日～ 3区機械掘削開始
4月16日 3区(西側)第1遺構面遺構検出
4月20日 3区(東側)第1遺構面遺構検出・遺構内掘削開始
4月20日～ 2区機械掘削開始
4月23日～ 2区人力掘削開始
6月4日 3区第2遺構面遺構検出
6月10日～ 3区第2遺構面遺構内掘削開始
6月16日 3区第2遺構面遺構完掘状況写真撮影
6月29日～ 3区第3遺構面遺構内掘削開始
7月1日 3区第3遺構面遺構完掘状況写真撮影
7月7日～ 1区機械掘削開始

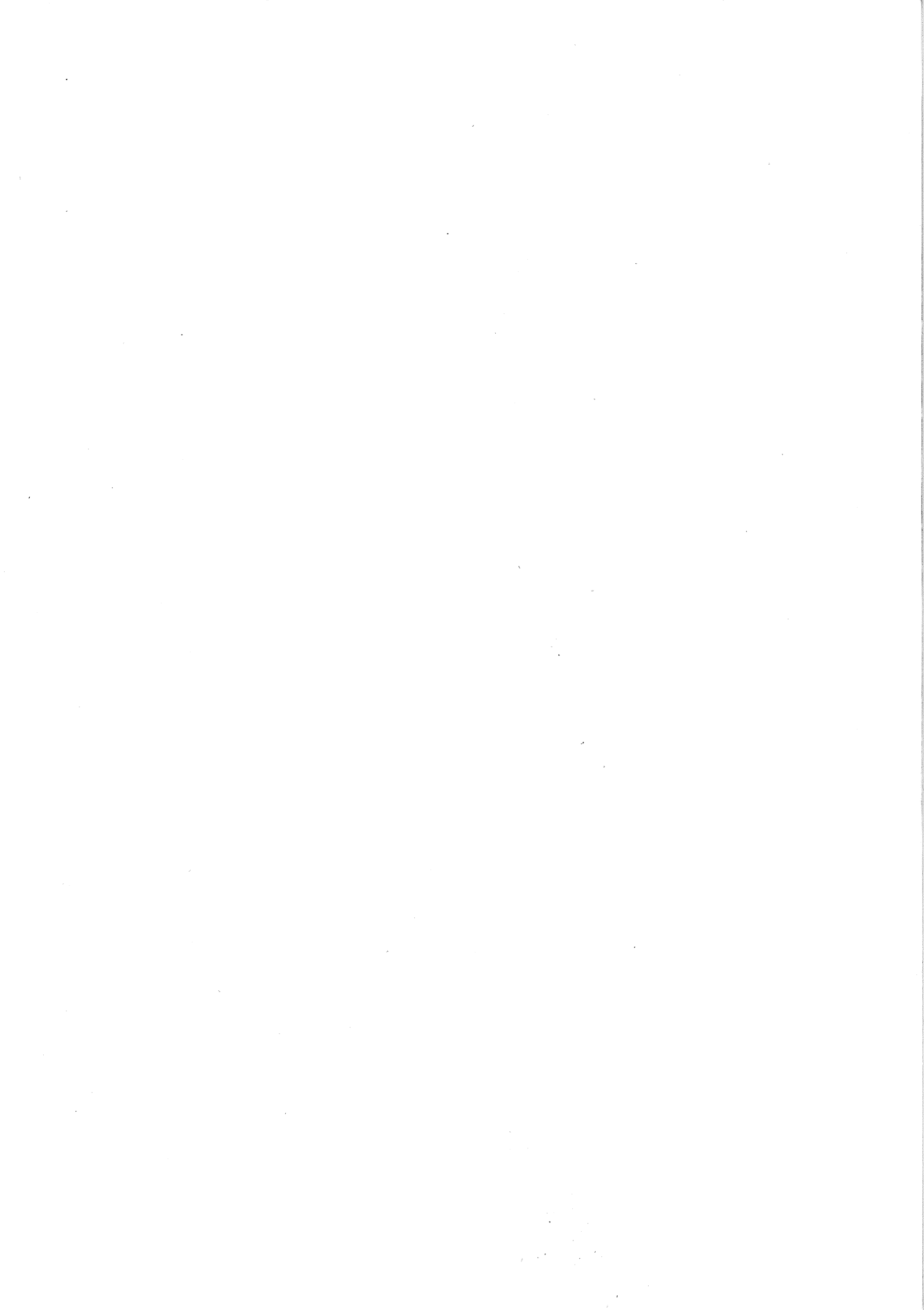
7月14日 3区第4遺構面遺構検出
7月15日～ 3区第4遺構面遺構内掘削開始
7月27日 3区第4遺構面遺構完掘状況写真撮影
8月27日 3区第5遺構面遺構検出
9月9日～ 1区人力掘削開始・3区第5遺構面遺構内掘削開始
9月21日 1区（南側）流路の検出
10月6日～ 3区埋め戻し開始
11月2日 1区（南側）遺構完掘状況写真撮影
11月24日 1区（北側）遺構完掘状況写真撮影
2005年1月7日 1区遺構完掘状況写真撮影
1月27日～ 1区埋め戻し開始
3月19日 観音寺遺跡説明会
3月25日 現場撤収

（平成17年度調査）

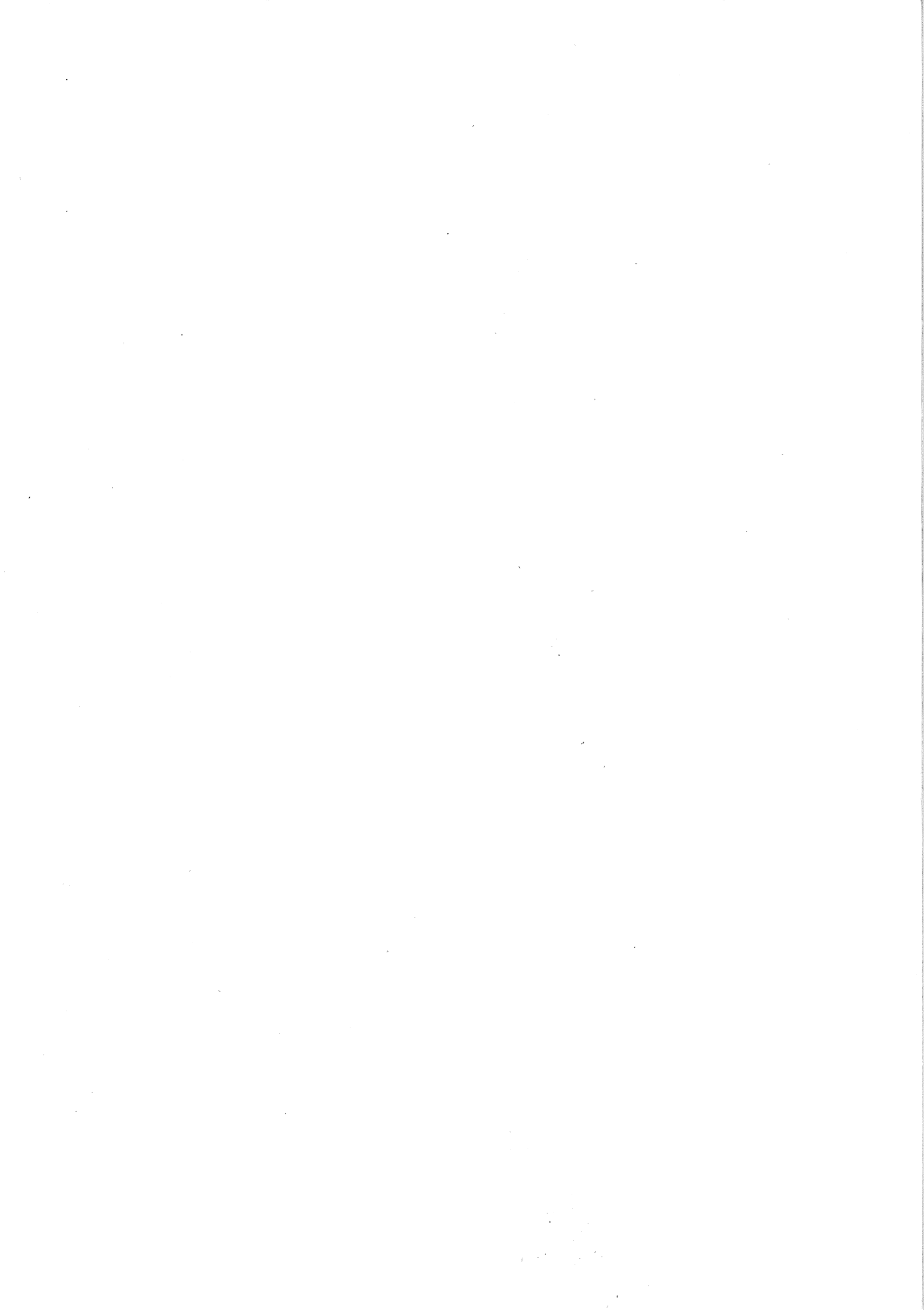
2005年10月3日～ 1区人力掘削開始
10月27日 1区（南側）勘籍木簡（201号）出土
11月10日 1区（南側）遺構完掘状況写真撮影
11月18日 1区（南側）調査終了
11月30日 1区（北側）遺構完掘状況写真撮影
12月13日 1区（北側）調査終了
2006年1月19日～ 2区人力掘削開始
3月18日 2区遺構完掘状況写真撮影
3月29日 2区調査終了

（平成19年度調査）

2007年7月2日～ 1区人力掘削開始
7月20日 1区調査終了



Ⅱ 遺跡の立地と歴史的環境



1 遺跡の立地

徳島県は四国島の東部に位置する。面積は4,144平方kmであるが、全面積の約八割近くを山地が占める。平野部は、吉野川、勝浦川、那賀川、海部川などの流域に、主として三角州として発達する。山地は、北側の讃岐山脈と吉野川以南の四国山地に大別される。

四国を東西に横断する中央構造線によって、地質の構造は北側の内帯と南側の外帯とに分けられる。中央構造線は、徳島県内では東から鳴門市里浦、美馬市脇町、三好市池田町から愛媛県四国中央市に連なり、讃岐山脈沿いに延びている。県内の地質は、中央構造線を主とする東西方向の構造線によって、内帯の和泉層群、外帯には北から三波川帯、御荷鉾帯、秩父帯、四万十帯からなる。

「四国三郎」吉野川は延長約194km、流域面積約3,750平方kmの規模をもつ四国有数の河川である。石鎚山に源を発し、中央構造線に沿って東流して紀伊水道に注いでいる。吉野川には、外帯側の右岸では鮎喰川などの扇状地が形成され、一方の内帯側の左岸では伊沢谷川、大久保谷川、日開谷川、九頭宇谷川、宮川内谷川などの扇状地が形成されている。内帯側の扇状地はより急勾配に形成され、多くの土砂を押し流していることにより、吉野川の流れも構造谷のより南を通っている。(第1図)

吉野川の河道は時代とともに大きく変動しているが、最大の画期は1701年頃に行われたとされる付け替え(新川掘り抜き)である。これは、新たな河道の開削と堰の構築(第十堰)により、下流域での灌漑用水の確保と城下町の治水の安定化を目指したものであり、北東に流れていた当時の本流(現在の旧吉野川)を現在の河道へと導いた。

観音寺遺跡が所在する地点である徳島市国府町は、主に鮎喰川の堆積作用によって形成された、三角州性扇状地に立地している。この扇状地は延命付近を扇頂とし、半径約6kmの規模をもち、標高は延命で約15m、扇端部の井戸付近では約5mを測る。観音寺遺跡は国府町のほぼ西端に位置しており、標高は高いところで約6.8m、低いところで約5.7mほどである。地形は扇状地の広がりに合わせて、南から北に向かって緩やかに低下しており、付近には旧河道とみられる地形のゆがみが多く残されている。そのうち、観音寺遺跡の地形の形成に大きく影響したと考えられるのは、舌洗川の旧河道である。堆積物中からは古墳時代以降の遺物が多く含まれており、川の流れが当時の生活と密接に結びついていたことを表している。(氏家)

2 歴史的環境

観音寺遺跡の所在する、徳島市国府町の鮎喰川の扇状地およびその周辺地は、徳島県下でも有数の遺跡の密集地帯である。ここでは年代に沿って、各遺跡の特徴を整理するが、年代によっては位置図外の遺跡についても触れることとする。(第3図)

旧石器時代

徳島市域においては、ほとんど遺跡の存在は確認されていない。名東遺跡において、弥生時代住居埋土内から、サヌカイト製のナイフ形石器が出土しているのみである((財)徳島県埋蔵文化財センター1995)。

縄文時代

後期以前の遺跡については、確実な例は知られていない。石井町石井城ノ内遺跡からは、流路内より玦状耳飾が出土しており、周辺に前期以前の遺跡の存在が予想される。また、中期末から後期初頭にかけての遺物も出土している（(財) 徳島県埋蔵文化財センター 2003a）。

後期に入ると、矢野遺跡に大規模な集落が現れる。弥生時代遺構面の約1 m下の河道の浸食を免れた微高地を中心として、中津式から福田 KⅡ式、縁帯文成立期に至る時期の遺構面と包含層が確認されている（(財) 徳島県埋蔵文化財センター 2003b）。

晩期になると、名東遺跡、三谷遺跡、庄遺跡、観音寺遺跡などから遺物が出土している（(財) 徳島県埋蔵文化財センター 1999a、b、徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会 1997など）。

弥生時代

鮎喰川扇状地上は、県下でも有数の規模の集落が形成されているが、前期にさかのぼる資料は、ごくわずかである。

中期以降になると集落形成が本格化し、中期後葉になると矢野遺跡などで竪穴住居の数が増加する。後期に入ると、矢野遺跡では集落域がさらに拡大する傾向がみられる。矢野遺跡の最盛期は、この時期である。集落の形成は、観音寺遺跡を一部含む北半部分に始まり、布留式併行期にかけて徐々に主体が南寄りとし山沿いに移動する。銅鐸が埋納されたのは後期後半と考えられているが、その位置は併行して存在する竪穴住居密集部の中心である（徳島県埋蔵文化財センター 2002a）。

古墳時代

鮎喰川扇状地の西側の山塊は気延山と呼ばれ、古墳時代前期から後期にかけての、県下でも最大規模の古墳群が築かれている。

前期の古墳としては、宮谷古墳、奥谷古墳群が代表例である。宮谷古墳は、墳丘長約36mの前方後円墳である。主体部として後円部に竪穴式石室が築かれ、三角縁神獣鏡が3面出土している。奥谷古墳群は、埴輪列の確認された一号墳（前方後方墳）と二号墳（円墳）からなる（三宅 2002）。

中期の古墳は、実態が明らかなものが少ない。「阿波式石棺」と呼ばれた、板石を用いた組合式の石棺が築かれている。墳丘、副葬品が少ないが、五世紀代に盛行すると考えられ、内谷古墳や尼寺一号墳などが知られている。

後期には十七基からなるひびき岩古墳群があり、横穴式石室を主体とする円墳の内の数基が調査されている（石井町教育委員会 1986）。また、矢野古墳は結晶片岩の巨石を用いた横穴式石室をもつ（天羽 1973）。

集落遺跡については、鮎喰川対岸の南庄遺跡や、庄・蔵本遺跡などで竪穴住居が数軒確認されているが、敷地遺跡において、100軒を超える中期から後期にかけての竪穴住居が検出された。

古代（奈良・平安時代）

『和名類聚抄』の記述により、阿波国府は、かつての名方郡に属したことが記録されている。これまでの発掘調査において、国衙跡と断定できる遺構群は検出されていないが、観音寺遺跡（南環状道路調査地点）から検出された河川内より出土した木簡の内容から、その所在地が河川に近接した場所である

ことは、ほぼ確定したといえる（(財)徳島県埋蔵文化財センター 2002b）。

国府推定地から約1.5km南東に、国分寺、西数百mに、国分尼寺がそれぞれ所在している。国分寺は、現在の四国霊場15番札所国分寺境内内に、塔心礎と伝えられる結晶片岩の巨石が残されている。1978年からの3次にわたる範囲確認調査によって二町四方の寺域が想定され、築地状遺構、基壇状遺構、瓦窯跡などが確認されている（天羽・一山 1987）。また隣接する矢野遺跡の調査では、国分寺へ延びる東西方向の道路遺構が確認された（徳島県埋蔵文化財センター 2002a）。

国分尼寺は1970年から2次にわたる範囲確認調査が行われ（田辺・松永 1987）、1999年以降も史跡整備に伴う調査が進行している。これまでに金堂基壇、北門、中門、講堂などが検出されている。

国府推定地の南に位置する矢野遺跡からは、掘立柱建物が50軒以上と、竪穴住居が20軒以上確認されている（(財)徳島県埋蔵文化財センター 2006）。

鮎喰川扇状地上には条里地割が広く残されており、福井好行・服部昌之らが、復元を試みている（福井 1959、服部 1966）。

最近では、条里余剩帯に注目した木原克司、岡田啓子の分析がある。国分尼寺から東に向けての旧伊予街道上、国分尼寺東側の南北道上などに存在する余剩帯が直線的で規格性も高いことから、官道（延喜式段階よりも古いルートをとる南海道）の可能性が指摘されている（木原・岡田 1998）。

また、奈良・平安時代にかけては水田域が増大する傾向が指摘できる。延命遺跡、矢野遺跡、観音寺遺跡、池尻・桜間遺跡などでは8世紀以降水田開発が盛んであり、国府造営や条里地割の形成に関連して周辺の開発が進められていたと考えられる。

中世（鎌倉・室町時代）

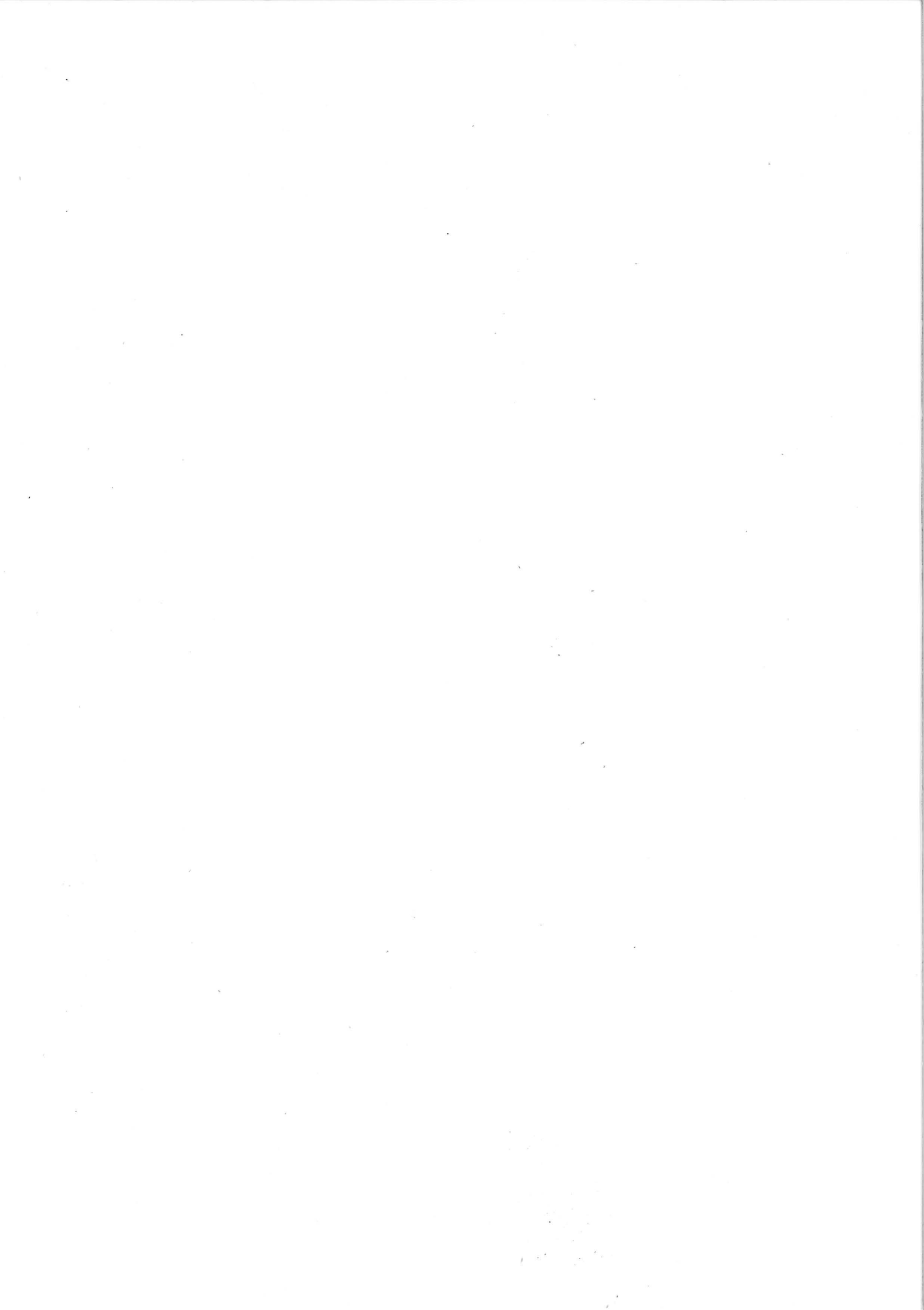
観音寺遺跡の南環状道路調査地点など限られた場所で、掘立柱建物や土壙墓などの存在が確認されている（(財)徳島県埋蔵文化財センター 1998）。また、敷地遺跡第Ⅱ群の調査地点においても、鎌倉時代の屋敷地とみられる掘立柱建物や土壙墓が検出されている（(財)徳島県埋蔵文化財センター1999b、2002c）。

鮎喰川扇状地の南側の山塊には一宮城が築かれている。一宮城は鎌倉期の守護、小笠原氏が築城したとされ、その後、一宮氏、細川氏、三好氏、長宗我部氏と主が入れ替わった。羽柴秀吉による四国侵攻後、蜂須賀家政が天正13年（1585）に阿波に移された際に入城し、徳島城に移るまで居城としていた。（氏家）

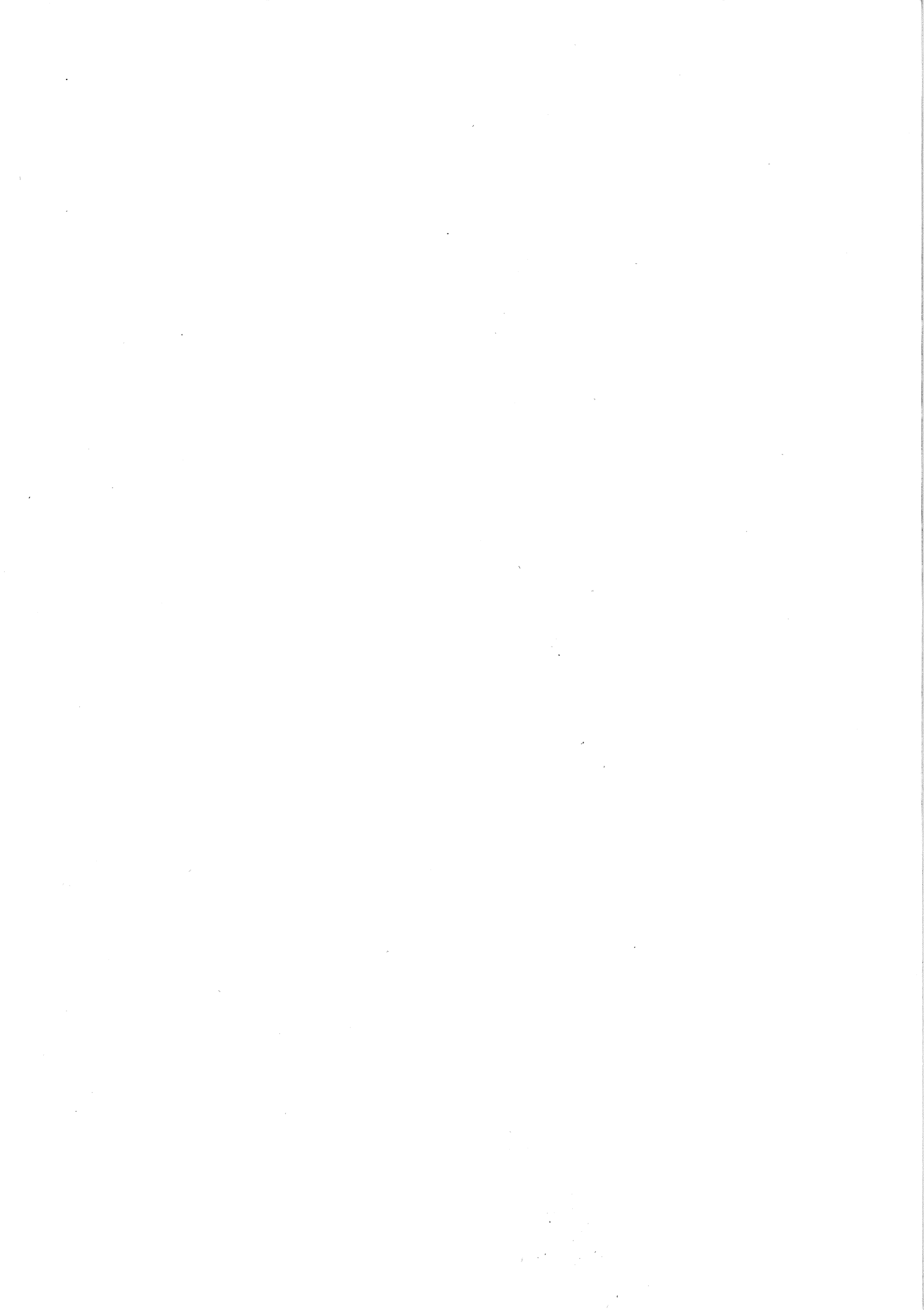
参考文献

- 天羽利夫 1973 「徳島県における横穴式石室の一様相」『徳島県立博物館紀要』4
天羽利夫・一山 典 1987 「阿波国分寺」『新修国分寺の研究』第5巻上 吉川弘文館
石井町教育委員会 1986 『ひびき岩十六号墳発掘調査報告書』
木原克司・岡田啓子 1998 「古代吉野川下流域の条里と交通路」『鳴門教育大学研究紀要』第13巻
(財)徳島県埋蔵文化財センター 1995 『名東遺跡』
(財)徳島県埋蔵文化財センター 1998 『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.9』
(財)徳島県埋蔵文化財センター 1999a 『庄遺跡Ⅲ』
(財)徳島県埋蔵文化財センター 1999b 『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.10』

- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2002a 『矢野遺跡 (Ⅰ)』
(財) 徳島県埋蔵文化財センター 2002b 『観音寺遺跡 (Ⅰ)』
(財) 徳島県埋蔵文化財センター 2002c 『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.13』
(財) 徳島県埋蔵文化財センター 2003a 『石井城ノ内遺跡』
(財) 徳島県埋蔵文化財センター 2003b 『矢野遺跡 (Ⅱ)』
(財) 徳島県埋蔵文化財センター 2006 『矢野遺跡 (Ⅲ)』
- 田辺征夫・松永住美 1987 「阿波国分尼寺」『新修国分寺の研究』第5巻上 吉川弘文館
徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会 1997 『三谷遺跡』
- 服部昌之 1966 「阿波条里の復元的研究」『人文地理』18-5 人文地理学会
福井好行 1959 「阿波の国府と其の附近の条里」『徳島大学学芸部紀要』8 徳島大学
三宅良明 2002 「宮谷古墳・奥谷1号墳の墳丘構造について」『論集徳島の考古学』同刊行会



Ⅲ 遺跡の地形と基本層序



1 遺跡の地形

観音寺遺跡は、吉野川の支流である鮎喰川の左岸に形成された扇状地上に立地する。この扇状地は徳島市国府町延命付近を扇の要とし、石井町利包から桜間、不動、佐古を結ぶ地域を扇端とする半径約6kmの規模である。扇状地性の沖積地の発達によって河道が固定化される弥生時代中期以降には、集落を形成しうる安定した地形環境になったと考えられる。また、鮎喰川は御荷鉾構造線などの破碎帯を通過することによって礫の供給が豊富であり、下流に至るまで礫床河川となっている。平野部下層においても同様の傾向が指摘されている。

本遺跡は、この扇状地のほぼ中央に位置する。調査地点の標高は6～8mを測る。遺跡周辺の微地形は、扇状地形に従って南から北に向かって緩やかに傾斜している。前章でもふれているが、周辺には多くの埋没河川や旧河道がある。これらが洪水時の流路となることで、地形の起伏を残す結果となったと考えられる。また、この地域には鮎喰川の伏流水による湧水地点が多い。現在も調査地の南西約300mには舌洗池がある。その湧水が現在の舌洗川の流れとなり、調査地点の中央部を南東から北西方向へと流れている。古代には、このような自然流路が形成した低湿地が、観音寺遺跡周辺に広がっていたと考えられる。国府町観音寺坂東家が所蔵する「観音寺村給地配置絵図」などによれば、舌洗川は現在とほぼ同じ位置に記されている。調査地点周辺では、「深田」を意味する「ふけ」もしくは「ぶけ」の字名が見えることから湿地帯であったことがうかがえる。(大橋)

参考文献

古田 昇 2002 「地理学からみた観音寺遺跡周辺の地形環境の変化」

『観音寺遺跡Ⅰ』(財)徳島県埋蔵文化財センター

藤川智之 2002 「考古学から見た阿波国府研究の現状」『観音寺遺跡Ⅰ』(財)徳島県埋蔵文化財センター

2 基本層序

観音寺遺跡は徳島環状線国府工区の建設に伴って発掘調査が行われたため、調査は路線幅である東西約60mで、南北に延長約240mの範囲に及んだ。調査は1998年度から2007年度にわたって、現在の地割り単位で行われてきた。各年度ごとに土層堆積を記録した結果、南北の土層堆積状況に大きな相違が認められた。最も大きな相違は2003年度8区と2000年度1-2区を境に認められる(第4図)。第5図の土層柱状図①～⑧間である。北側の①～④では遺構面が形成されるのに対して、南側の⑤～⑧では自然流路の堆積が見られた。よって本遺跡は、北側の集落部分と南側の自然流路部分で大きく2分されることとなる。

北側の①～④は現地表面が標高約6mで、もともと水田耕作地であった。②～④において最大5面の遺構面を確認したが、上層の第1～3面は古代から中世に形成された水田面であった。全ての範囲に存在する第4遺構面の地形を見ると北側①が最も高く、一旦②～④で下がった後に再び⑤で上昇する。①は北側の敷地遺跡から続く微高地の縁辺部であり、⑤は自然流路によって形成された自然堤防にあたると思われる。②～④は自然流路の後背湿地にあたり、最も水田が重複して形成されている。

第6図は自然流路(SR3001)内の堆積を表した土層柱状図である。①～⑥は調査区西端の、⑦～⑩は東端の土層堆積を北から順に表している。この部分の現況は宅地で、現地表面は標高7.8mであるが、これは約2m以上の盛土によるものである。もとの地表面は標高5.5m付近であったと考えられるが、盛土の厚さが異なるのは現代に攪乱された部分が多いことによる。①は自然流路の北側の岸であり、第5図の①と同じ堆積を示している。一方⑥は南側の岸にあたり、両岸の標高は4.8m付近で確認された。⑥では遺構面が確認されなかったことから、実際の自然流路の肩は、さらに南側に存在すると考えられる。

自然流路内の堆積層は非常に複雑な状況であった。厚さ5～10cmの単位で分層し数十層に細分されたが、それらを全ての対応関係を把握することは困難であった。特徴的な層を鍵として、Ⅰ～Ⅸ層にまとめた大別層位として対応関係を把握した。鍵となる層にはⅢ層上部のオリブ黒色の砂質シルト層、強い粘性をもつ灰オリブ色粘質土であるⅣ層、オリブ灰色シルトと砂質シルトが互層に堆積したⅥ層。厚さ約1mのオリブ黒色粗砂層であるⅧ層がある。年代の新しいⅠ、Ⅱ層と古いⅥ、Ⅷ層は全範囲に認められるが、中間の層位には一部にしか認められないものもある。また地下水位の測定結果により、ほとんどの調査区において標高2.5m(Ⅷ層)までを掘削限界としたが、2000年度の調査(⑧、⑨、⑩)は最深部で標高0mまで掘削したためⅨ層が存在している。以下、各層位ごとの特徴を記述していく。

Ⅰ層は、自然流路埋没後に堆積した層である。現在の舌洗川の川底の堆積層も含まれ、攪乱を受けている部分が多く見られた。現舌洗川の堆積層からは木簡2点が出土しているが1点は戦後のものであった。

Ⅱ層もⅠ層と同様に自然流路埋没後の堆積層である。北側の③、④、⑦、⑩において約60cm以上の層厚があるが、南側は薄い傾向がある。自然流路が埋没し周辺に水田が営まれる以前の堆積であると考えられる。現在に近い河道で舌洗川の流れが存在し、その中に遺物が含まれていた。木簡2点が出土した。内1点は角塔婆状の木製品に梵字が書かれたものである。

Ⅲ層は自然流路が埋没する最終段階のもので、全ての地点で確認された。南東部の①、⑩で約50cmの層厚があるが、それ以外は10～20cmの堆積である。堆積土は細砂を含むシルトを主体とし、間に細砂層を挟む。土器や木製品を多量に含み、種類も豊富である。木簡が21点出している。

Ⅳ層は粘性の高いシルトを主体とする層である。北側の③、⑦、⑩には存在しない。④と⑧には厚さ50cmの堆積が見られることから、この時期の流れの主体は④と⑧を結んだラインであったと考えられ、北側には広がっていなかったと考えられる。土器、木製品の出土量は減る傾向にある。木簡も19点である。

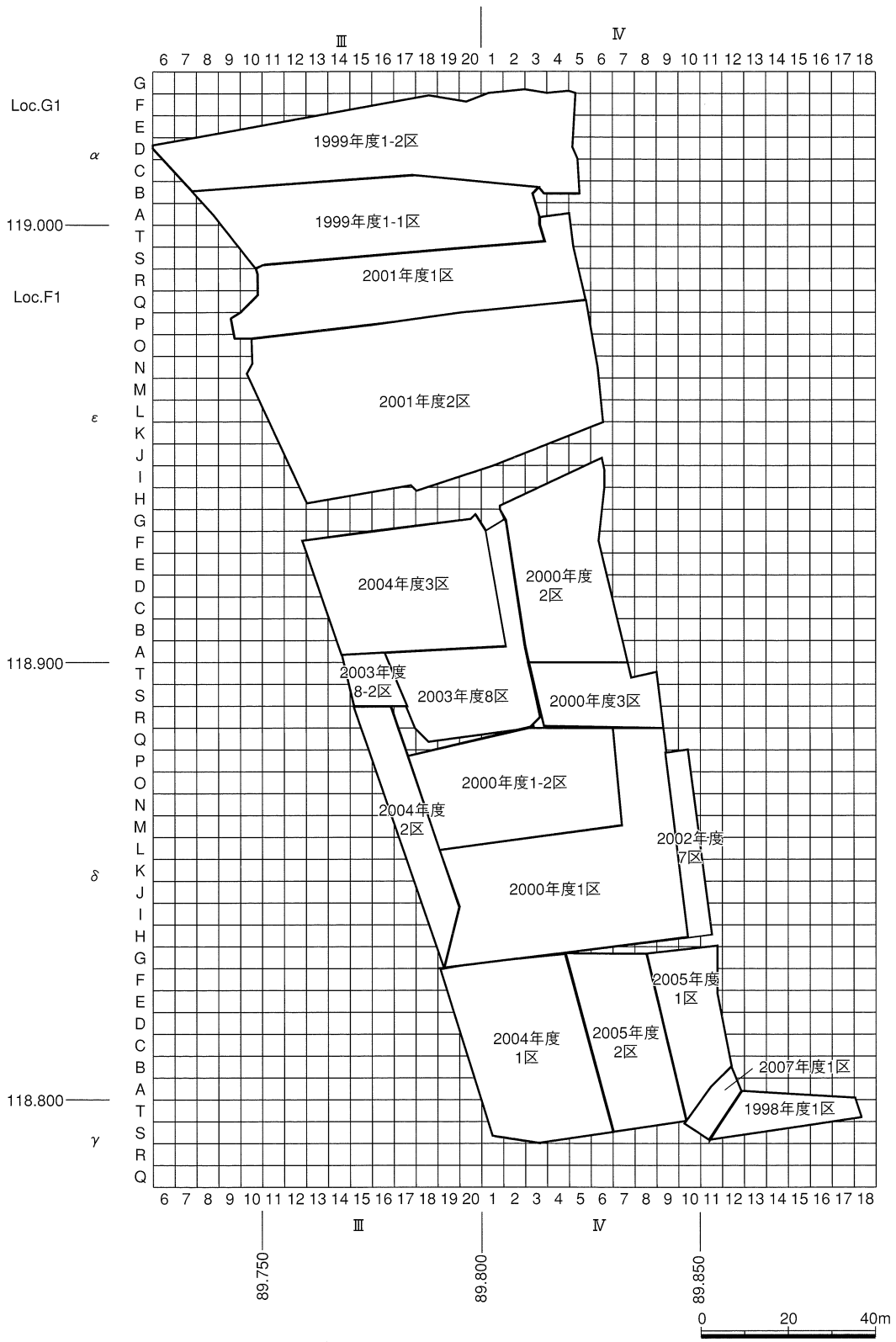
Ⅴ層は粘性の強いシルトと粘土からなるが、粗砂を含み自然木も多く含まれる。Ⅳ層と同様に北側の堆積は薄く③、⑦、⑩では見られない。④と⑧においても10～20cmの層厚である。一方南側の⑨で最も厚く、約50cmほど堆積している。⑨と⑧、⑩を結ぶラインが流れの主体であったと推定できる。木簡は最も多く73点が出土しているが、土器や木製品はそれほど多く出土しない。

Ⅵ層は砂質シルトとシルト、自然木を多く含む層が交互に堆積する。ほとんどの部分に堆積しているが、北側に厚く南側に薄い傾向が見られる。特に④、⑦、⑩では標高3.7m付近が上面であり、Ⅴ層上面とほぼ同じ標高に位置する。遺物は少なく木簡も1点のみである。Ⅴ段階の流路により浸食され、部分的に中洲状の高まりとして残存したものと考えられる。

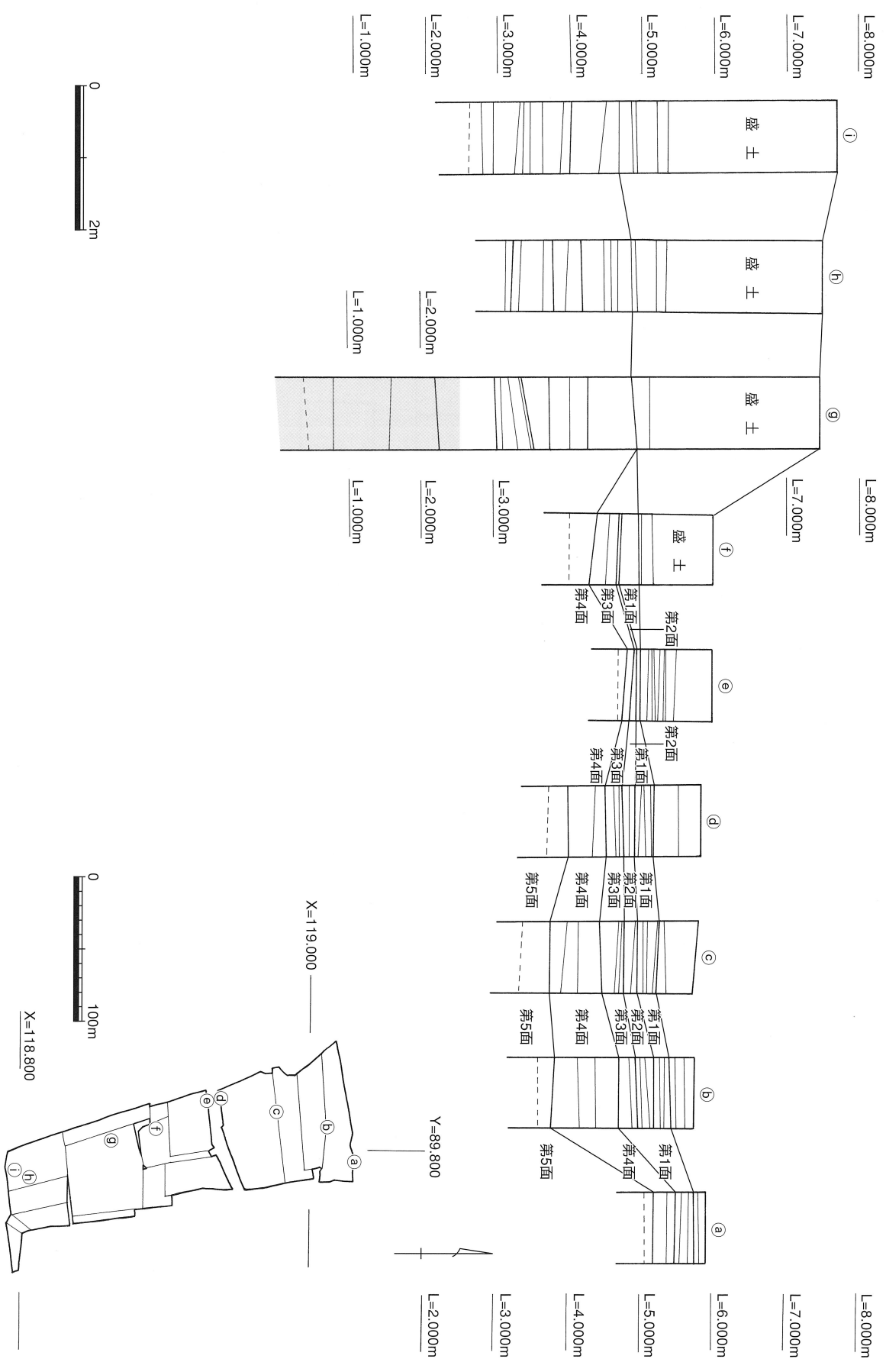
Ⅶ層は粘性の強いシルト層に粗砂が多く含まれる（第447図）。1998年度1区のみにも顕著に見られる。厚さ約80cmの層である。木簡が5点が出土したほか、墨書土器も出土した。

Ⅷ層は全ての範囲に厚く堆積する粗砂層である。直径2mm前後の粗砂を主体とするが、直径5～10mmの礫を比較的多く含んでいる。ほとんどの調査区は、この層で掘削を終えている。掘削を行った③、④、⑤を見ると、西側の③、④では層厚が1m、東側⑤では60cmである。遺物は多く含まれているが、摩滅したものが多く見られ、かなりの水量があったと推定される。

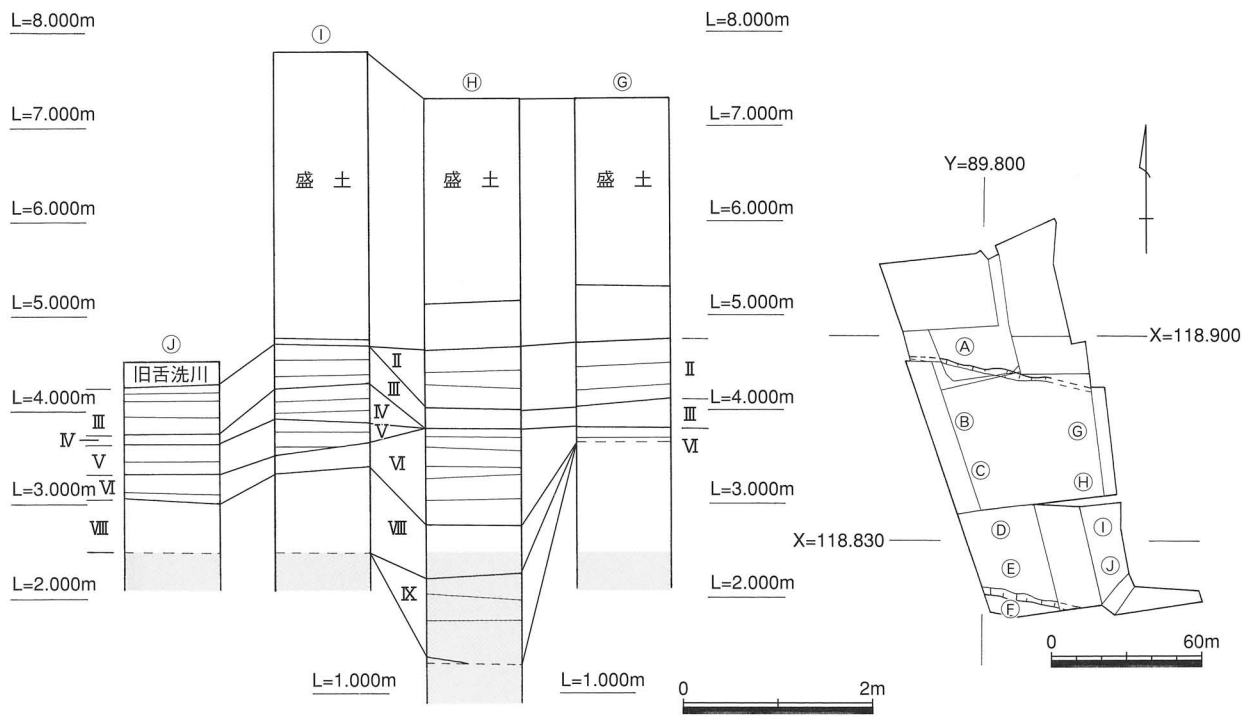
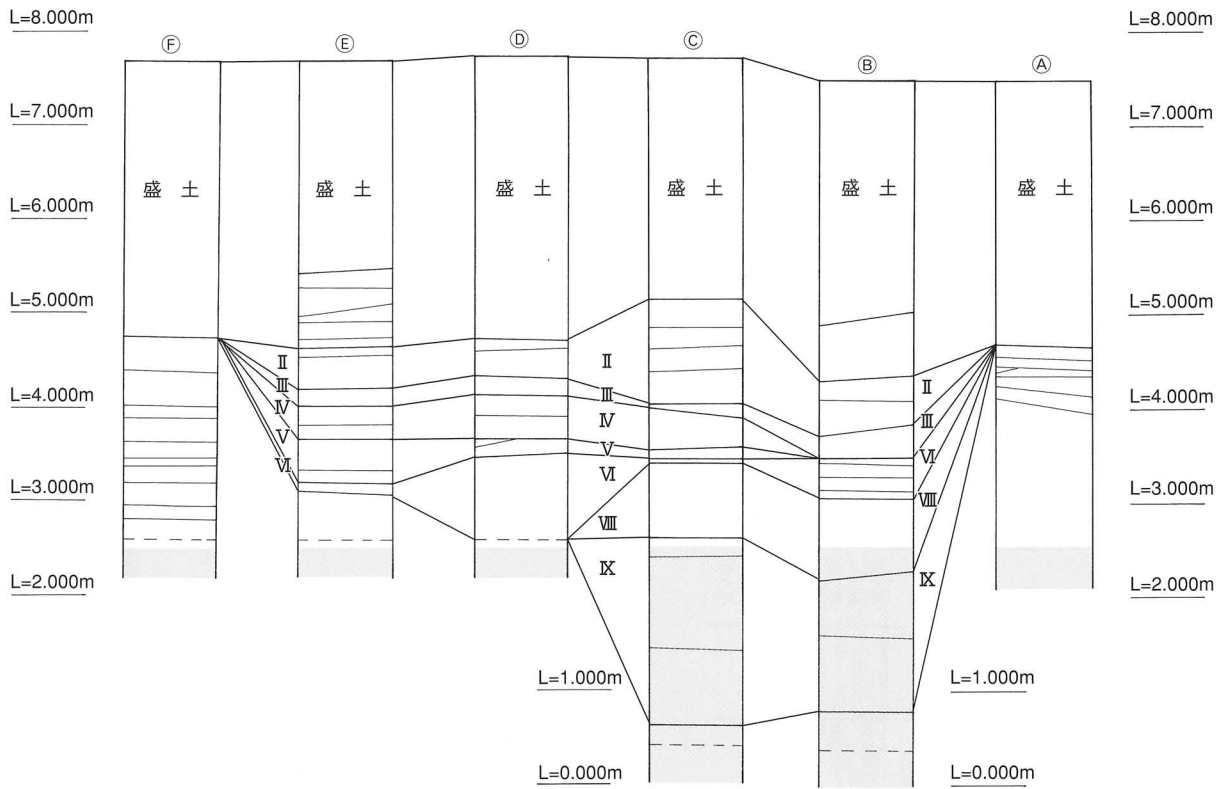
Ⅸ層はⅧ層より下層を掘削したB、C、Hのみに見られるが、堆積範囲や層厚は確認できなかった。粘性の強いシルトを主体としている。遺物量は少ないが、木簡が1点出土している。（大橋）



第4図 調査区・グリッド配置図

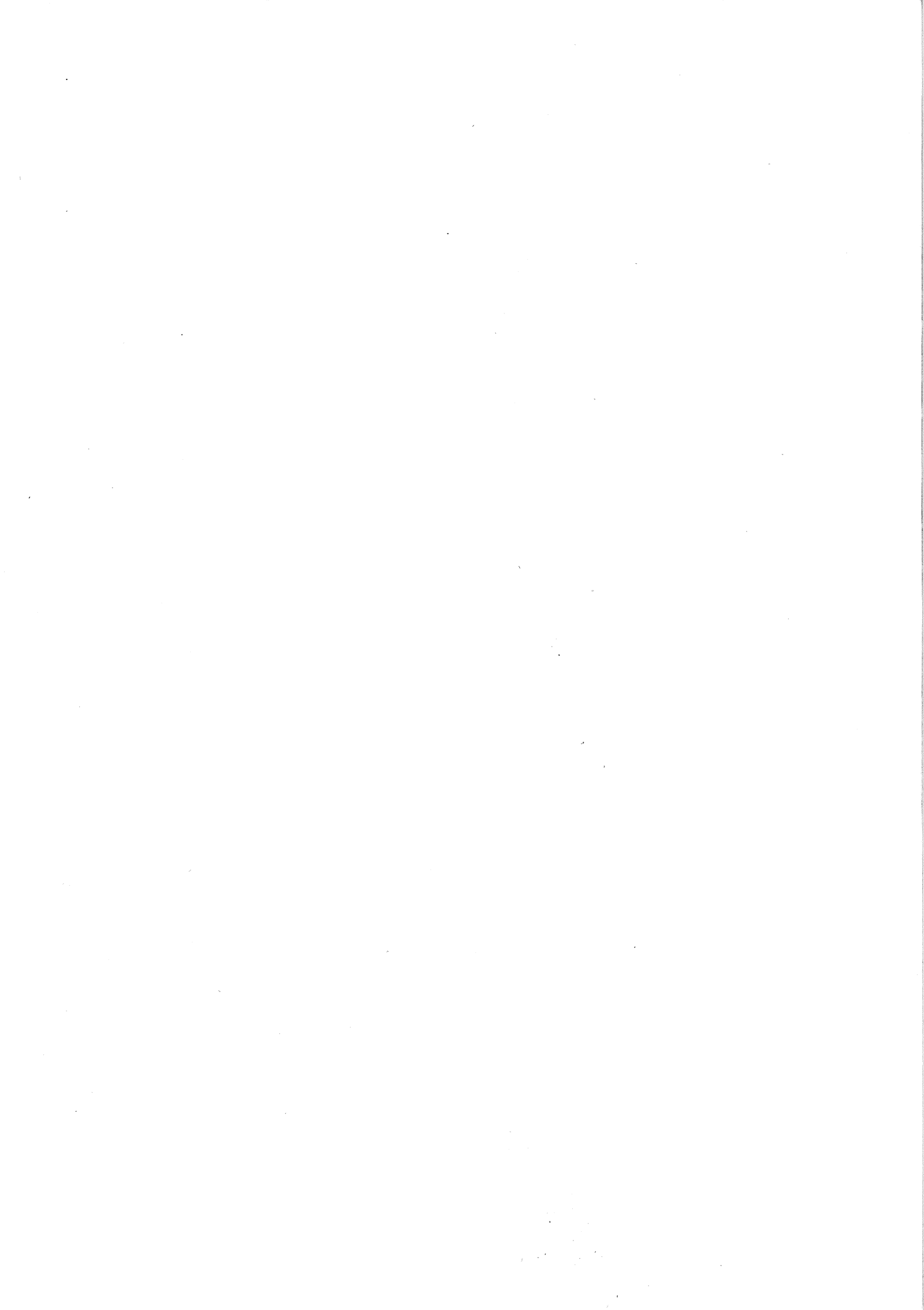


第 5 图 调查区土層柱状图



第6図 南区 SR3001 土層柱状図

IV 調 査 成 果



1 遺構配置

観音寺遺跡は国道192号線から JR 四国・徳島本線までの範囲に位置する。鮎喰川の扇状地形により緩やかに南へ下る地形であるが、気延山以北では、ほとんど傾斜は見られない。遺跡周辺では逆に、北側の敷地遺跡へ向かって緩やかに上りの傾斜を見せ微高地が点在する地形になる。微高地に立地する敷地遺跡では古墳時代後期を中心とした集落が形成されているが、本遺跡はその南側の縁辺部と低地部分にあたると思われる。よって住居跡などは見られず、自然流路とその周辺に水田が形成されることとなる。

中世から古墳時代後期にわたる 5 時期の遺構面を確認した（第 7 図）。上層の第 1、第 2 遺構面では中世の水田面を検出した。主に遺跡の北半に存在する。南半は攪乱が多いため検出は出来なかったが、一連の水田の広がりが想定される。水田には複数の溝状遺構が見られるが方向は一定しておらず、条里が衰退した後の遺構と考えられる。また、この時期の舌洗川の河道は現在とほぼ同じ位置にあったと考えられる。第 3 遺構面では遺跡の北側に水田が営まれているが、南側では自然流路（SR3001）が確認された。遺跡の中央部において流路の北岸を検出したところ、南東から北西方向の流れであることが想定された。一方、南岸は調査区南西隅で僅かに確認できた。北岸とほぼ平行に肩が検出できたことから、この自然流路の流域は川幅約 90m の規模で、南東から北西方向への流れであったことが確認できた。第 4 遺構面では北側で新たな流路（SR4001）が確認された。川幅約 5 m で南東から北西方向に流れ、調査区の東側で自然流路（SR3001）から分流したものと推測される。また SR3001 のそばに土壙墓の集中部（土壙墓群）が見られた。第 5 遺構面では北側の自然流路（SR5001）は、SR4001 と同じ位置に存在するが、規模は大きく川幅が約 20m に達することが明らかとなった。SR5001 の両岸でも、土壙墓の集中部が数カ所見られる。（大橋）

2 遺構と遺物

北 区（1999・2001年度）

（1）第 1 遺構面

掘立柱建物跡（SA1001）（第 9 図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド A-4 に位置する梁間 2 間、桁行 2 間の東西方向を主軸とする総柱建物である。

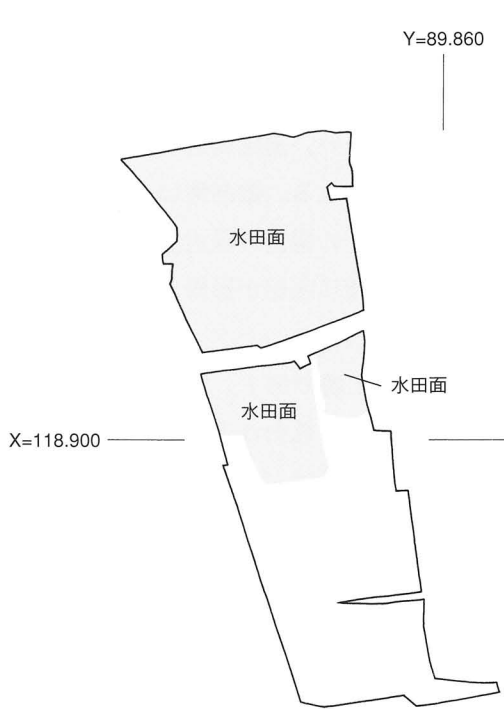
規模と形状

桁行 4.80m、梁間の最大幅 2.9m の台形である。

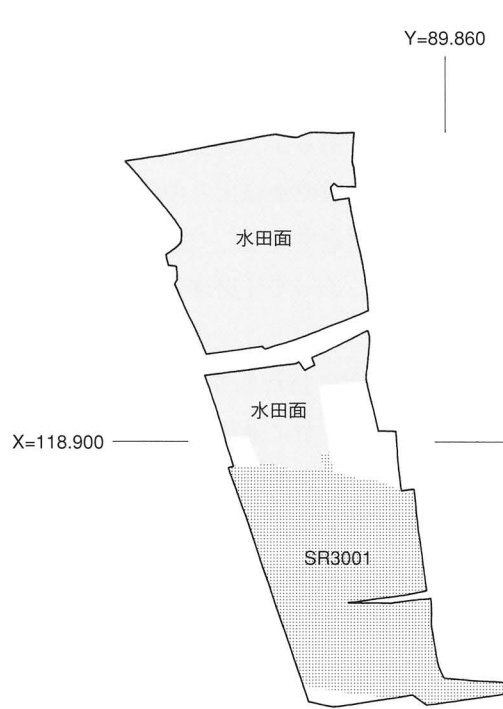
掘立柱建物跡内柱穴（SA1001EP01）（第 9 図）

位置

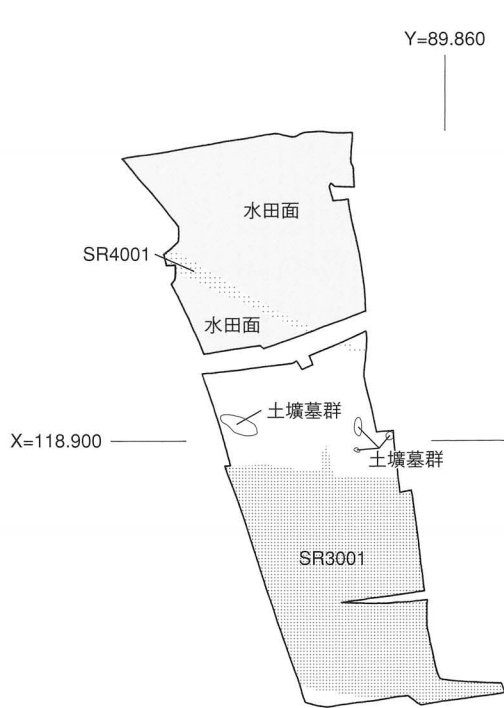
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド A-4 に位置する。



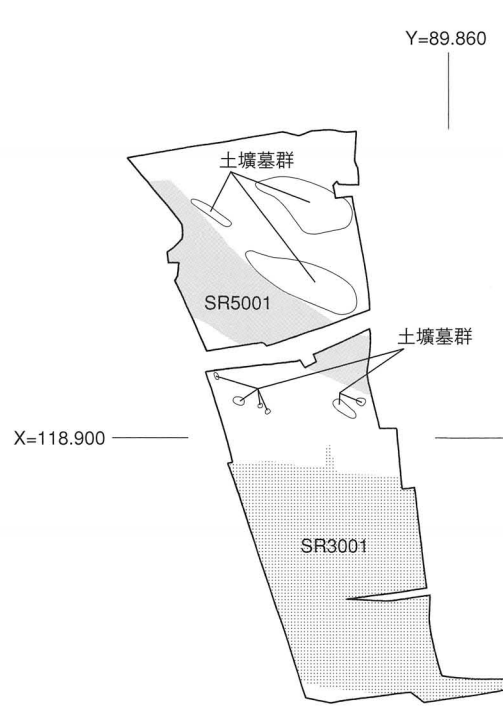
第1・2遺構面



第3遺構面



第4遺構面



第5遺構面



第7図 観音寺遺跡の遺構・流路の変遷

規模と形状

検出長0.30m、最大幅0.26m、最大深度0.10mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

掘立柱建物跡内柱穴 (SA1001EP02) (第9図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド A-4 に位置する。

規模と形状

検出長0.36m、最大幅0.28m、最大深度0.14mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

掘立柱建物跡内柱穴 (SA1001EP03) (第9図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド A-4 に位置する。

規模と形状

検出長0.30m、最大幅0.20m、最大深度0.18mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

掘立柱建物跡内柱穴 (SA1001EP04) (第9図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド A-4 に位置する。

規模と形状

検出長0.32m、最大幅0.28m、最大深度0.27mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

掘立柱建物跡内柱穴 (SA1001EP05) (第9図)

位置

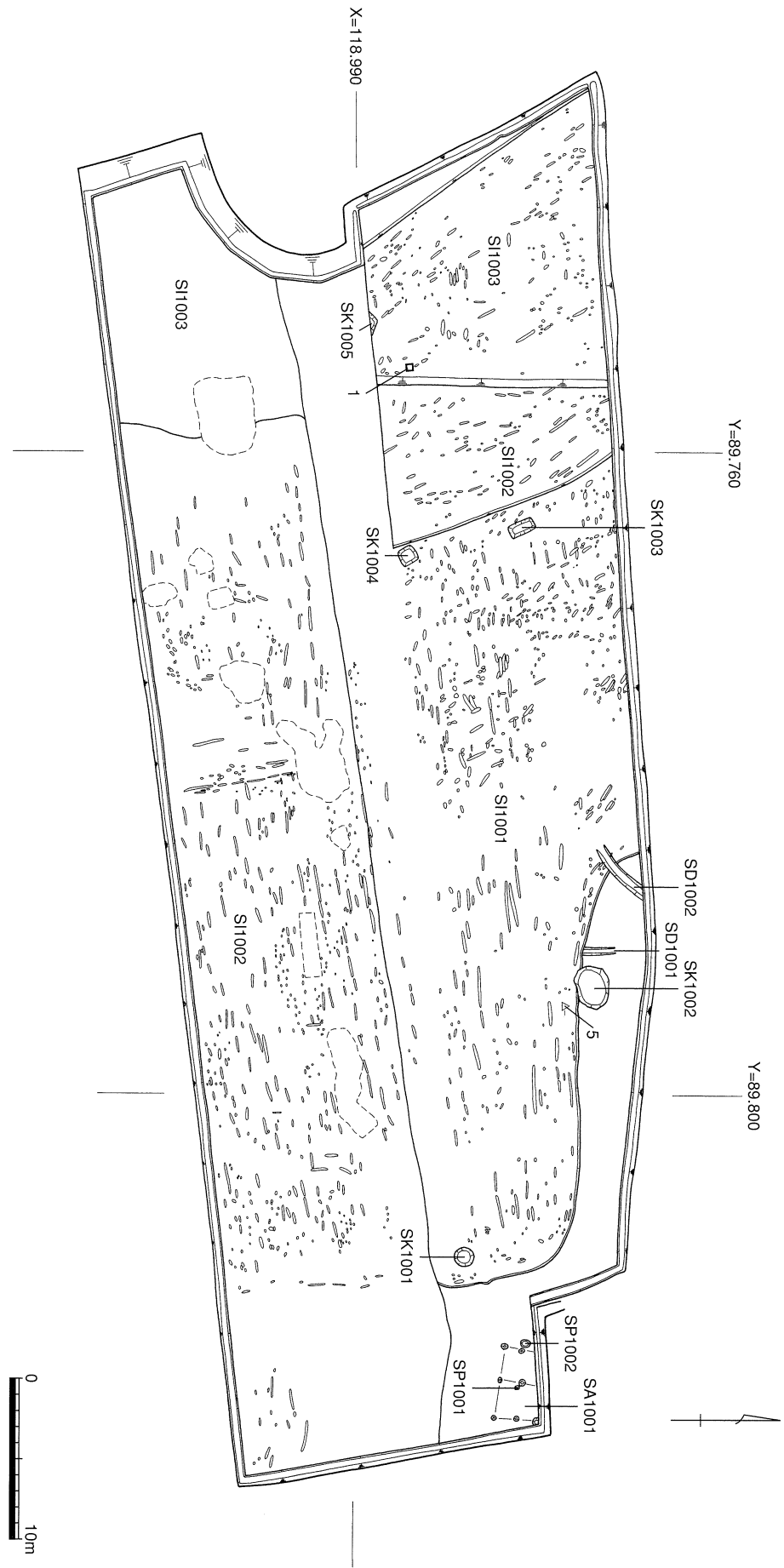
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド A-4 に位置する。

規模と形状

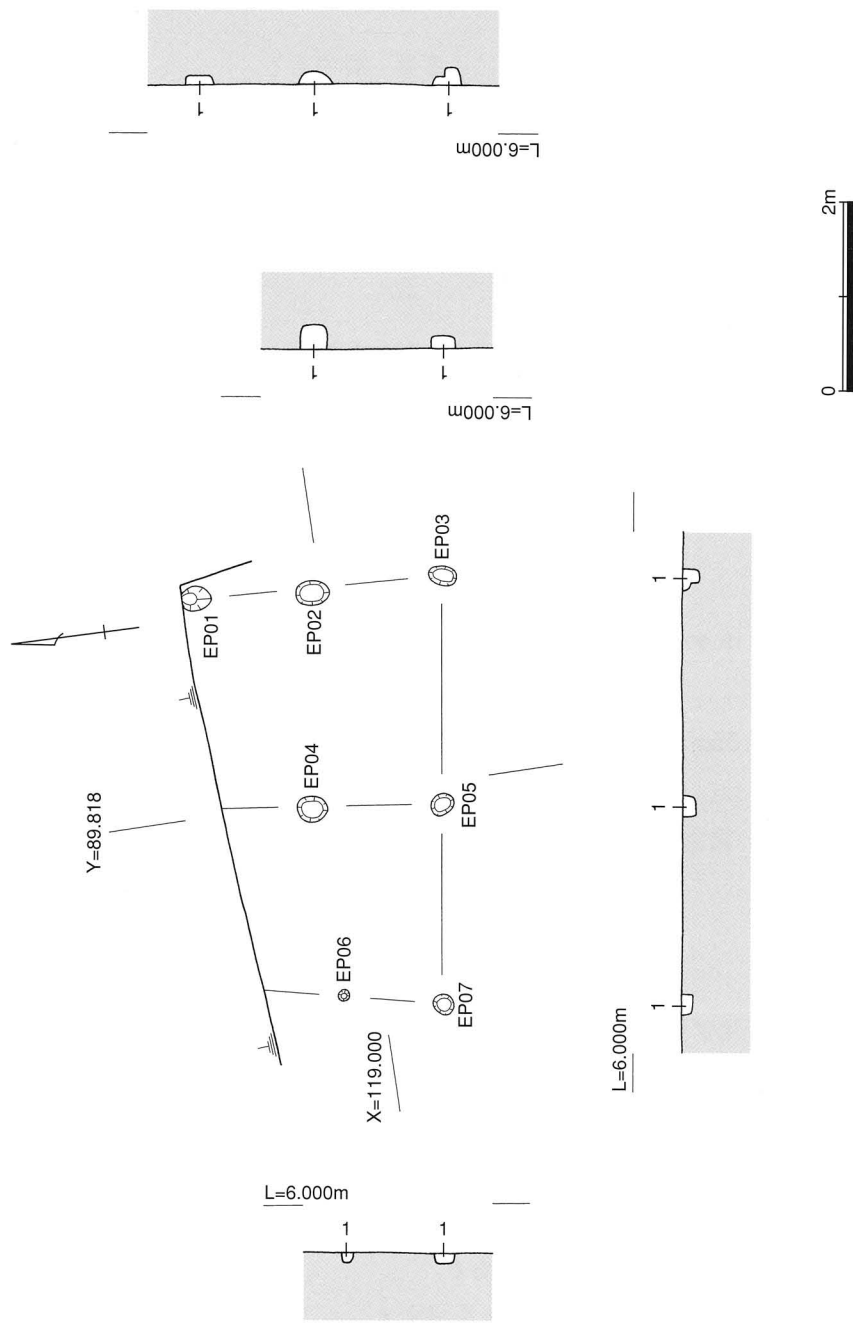
検出長0.27m、最大幅0.22m、最大深度0.13mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。



第 8 図 北区 (1999・2001 年度) 第 1 遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図



1 5Y6/3 オリーブ黄 シルト

第9図 北区 (1999・2001年度) SA1001平・断面図

掘立柱建物跡内柱穴 (SA1001EP06) (第9図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド A-4 に位置する。

規模と形状

検出長0.14m、最大幅0.12m、最大深度0.12m の円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

掘立柱建物跡内柱穴 (SA1001EP07) (第9図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド A-4 に位置する。

規模と形状

検出長0.21m、最大幅0.21m、最大深度0.12m の円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

溝 (SD1001) (第10図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド B-19 に位置する。

規模と形状

検出長2.08m、最大幅0.35m、最大深度0.06m の溝である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄色を呈するシルトによる単一層である。

溝 (SD1002) (第10図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド B-18 に位置する。

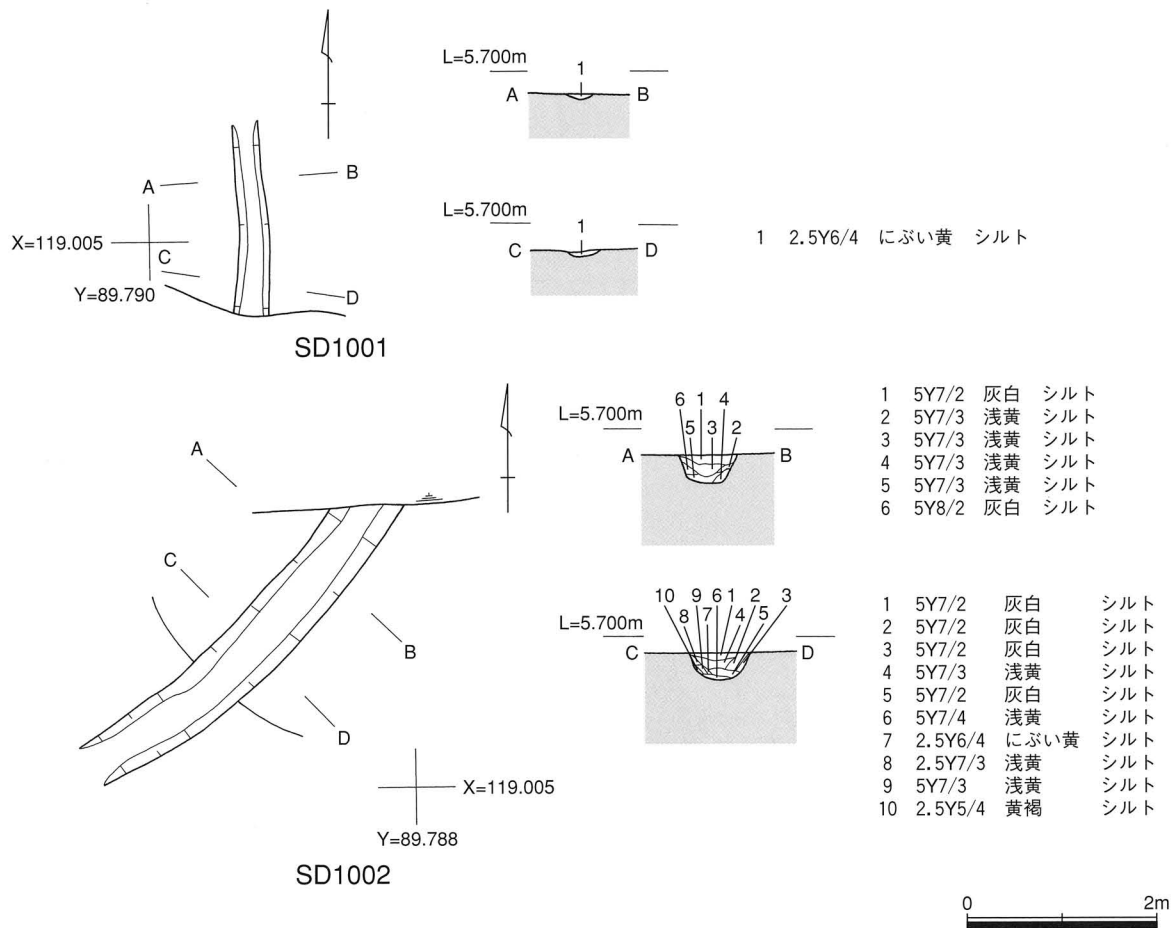
規模と形状

検出長4.30m、最大幅0.66m、最大深度0.29m の溝である。

土層

A-B は6層に分層した。1層は灰白色を呈するシルト層である。2層～5層は浅黄色を呈するシルト層である。6層は灰白色を呈するシルト層である。

C-D は10層に分層した。1層～3層は灰白色を呈するシルト層である。4層は浅黄色を呈するシルト層である。5層は灰白色を呈するシルト層である。6層は浅黄色を呈するシルト層である。7層はにぶい黄色を呈するシルト層である。8層、9層は浅黄色を呈するシルト層である。10層は黄褐色を呈するシルト層である。



第10図 北区 (1999・2001年度) SD1001・SD1002平・断面図

水田跡 (SI1001) (第8図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-Ⅲ、Ⅳ、小グリッド S~B-12~3 に位置する。

規模と形状

検出長36.20m、最大幅15.00m の平行四辺形である。

水田跡 (SI1002) (第8図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-Ⅲ、小グリッド S~B-12~14 に位置する。

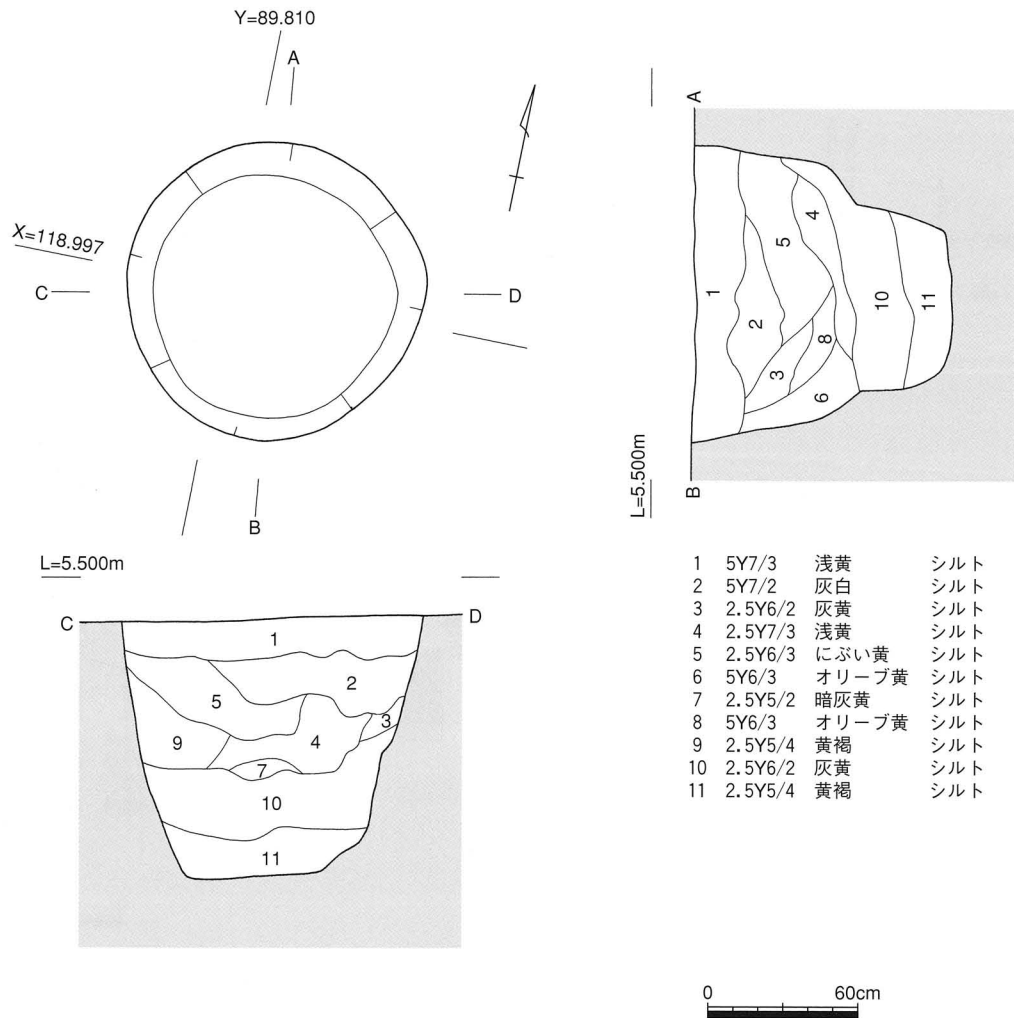
規模と形状

検出長11.00m、最大幅15.00m の台形である。

水田跡 (SI1003) (第8図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-Ⅲ、小グリッド S~B-8~12 に位置する。



第11図 北区（1999・2001年度）SK1001平・断面図

規模と形状

検出長24.00m、最大幅15.00mの台形である。

土坑（SK1001）（第11図）

位置

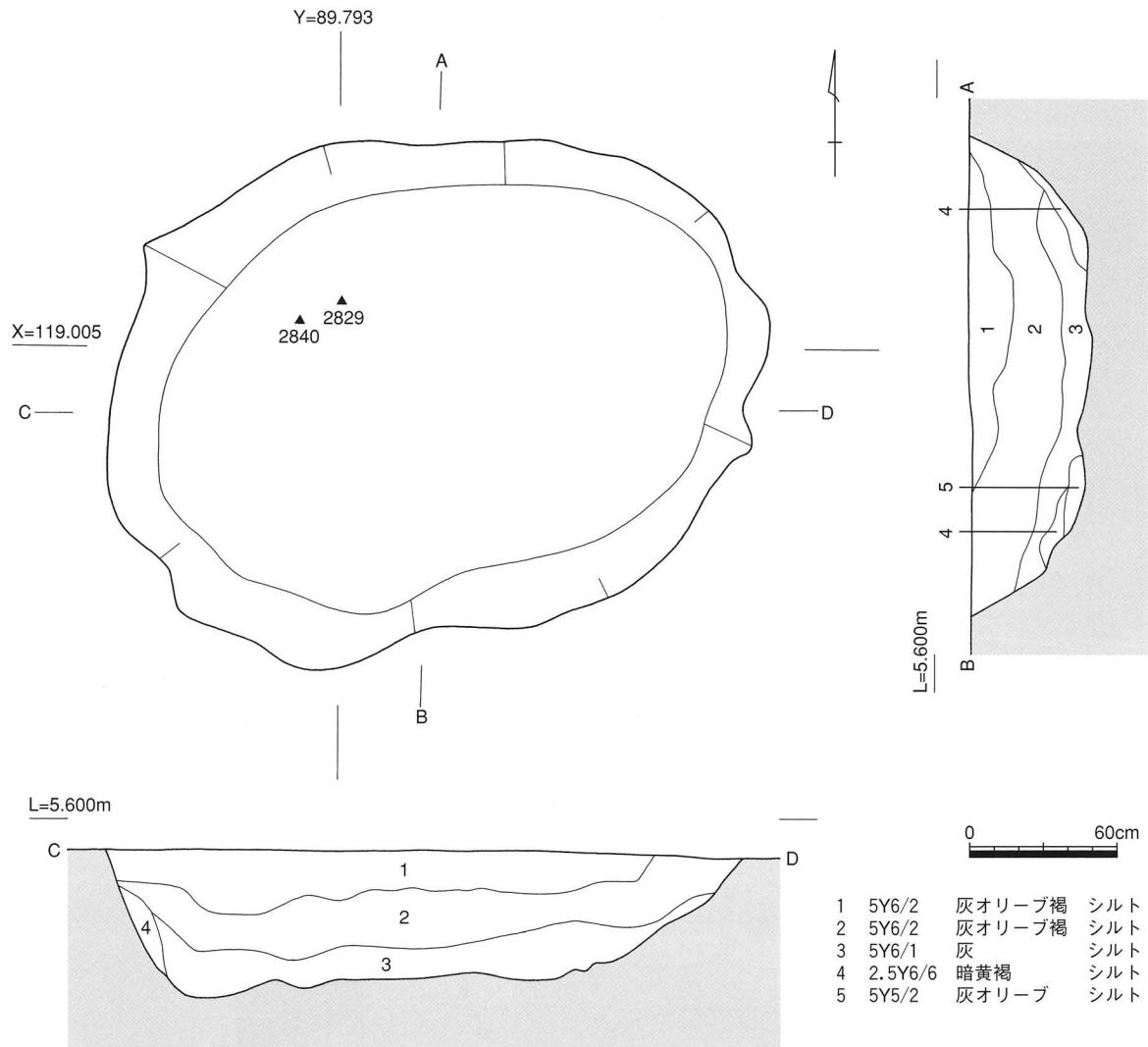
大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド T-3 に位置する。

規模と形状

検出長1.16m、最大幅1.16m、最大深度0.66mの円形である。

土層

遺構の堆積土は11層に分層した。1層は浅黄色を呈するシルト層である。2層は灰白色を呈するシルト層である。3層は灰黄色を呈するシルト層である。4層は浅黄色を呈するシルト層である。5層はにぶい黄色を呈するシルト層である。6層はオリーブ黄色を呈するシルト層である。7層は暗灰黄色を呈するシルト層である。8層はオリーブ黄色を呈するシルト層である。9層は黄褐色を呈するシルト層である。10層は灰黄色を呈するシルト層である。11層は黄褐色を呈するシルト層である。



第12図 北区（1999・2001年度）SK1002平・断面図・遺物出土状況ドット図

土坑（SK1002）（第12図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-Ⅲ、小グリッド B-19に位置する。

規模と形状

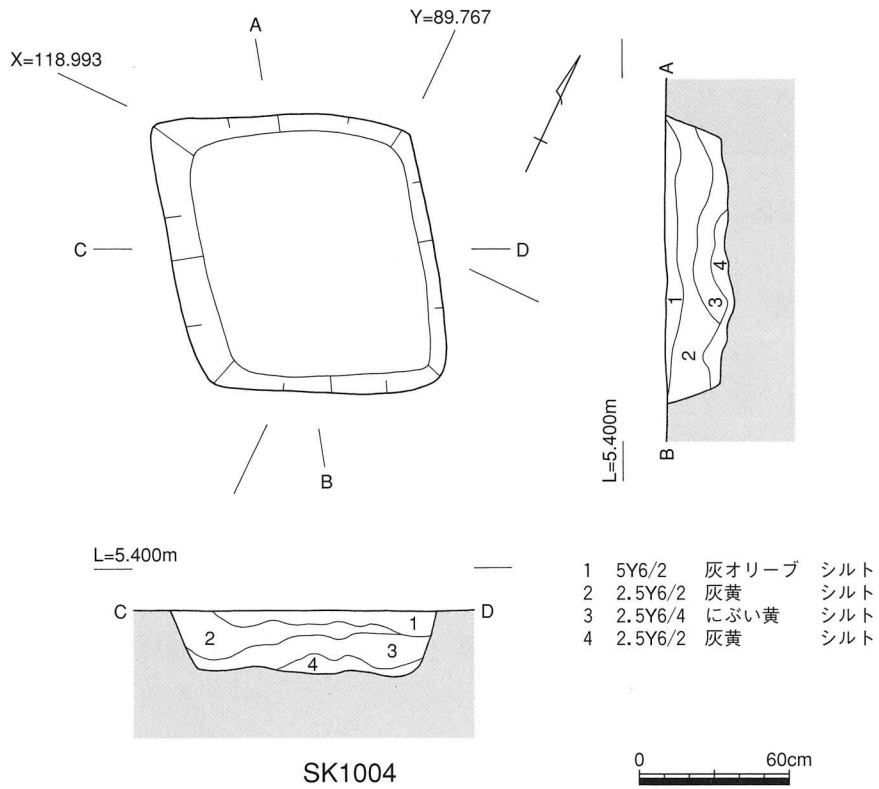
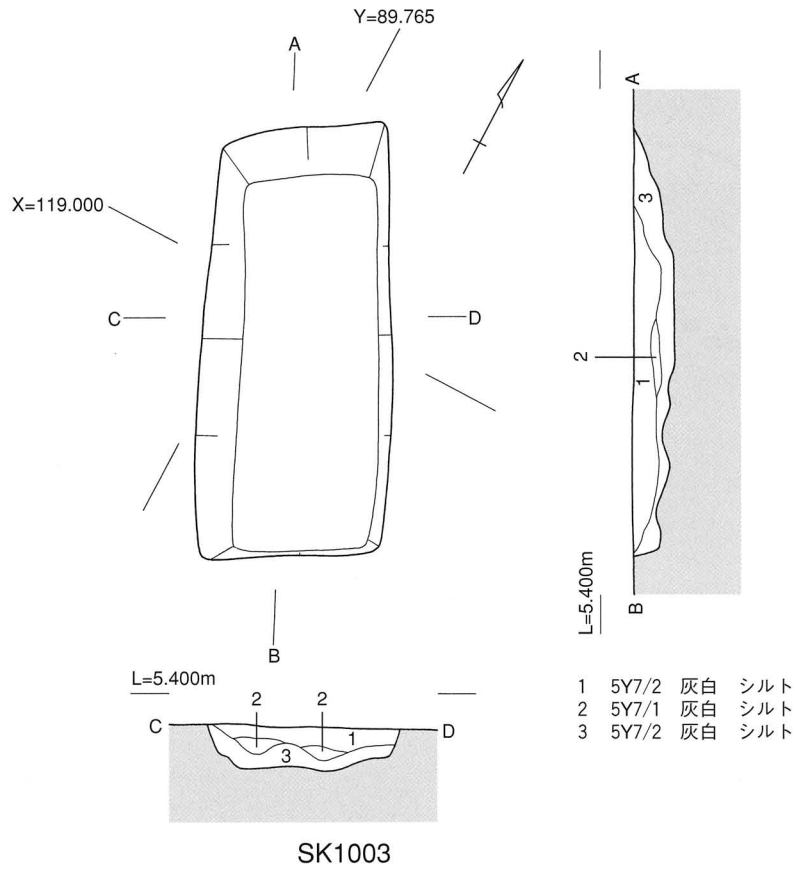
検出長2.56m、最大幅1.95、最大深度0.60mの楕円形である。

土層

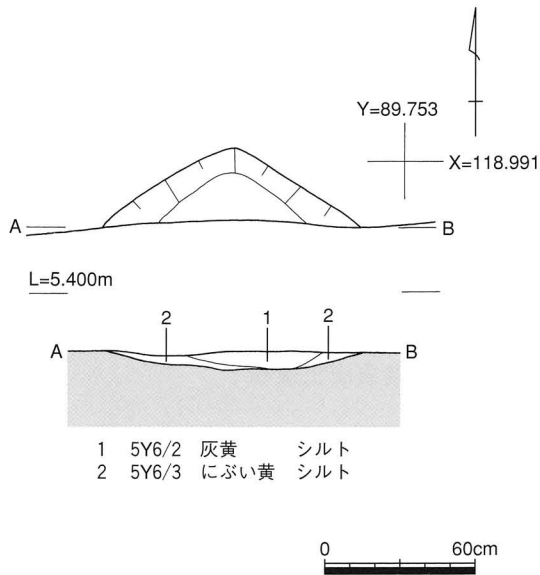
遺構の堆積土は5層に分層した。1層、2層は灰オリーブ褐色を呈するシルト層である。3層は灰色を呈するシルト層である。4層は暗黄褐色を呈するシルト層である。5層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。

出土遺物（第476図）

金属製品は2点を図化した。2830直刀、2841鉄片である。



第13図 北区（1999・2001年度）SK1003・SK1004平・断面図



第14図 北区 (1999・2001年度)
SK1005平・断面図

規模と形状

検出長1.12m、最大幅1.10m、最大深度0.27mの正方形である。

土層

遺構の堆積土は4層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は灰黄色を呈するシルト層である。3層はにぶい黄色を呈するシルト層である。4層は灰黄色を呈するシルト層である。

土坑 (SK1003) (第13図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-III、小グリッド A-14に位置する。

規模と形状

検出長1.70m、最大幅0.76m、最大深度0.16mの長方形である。

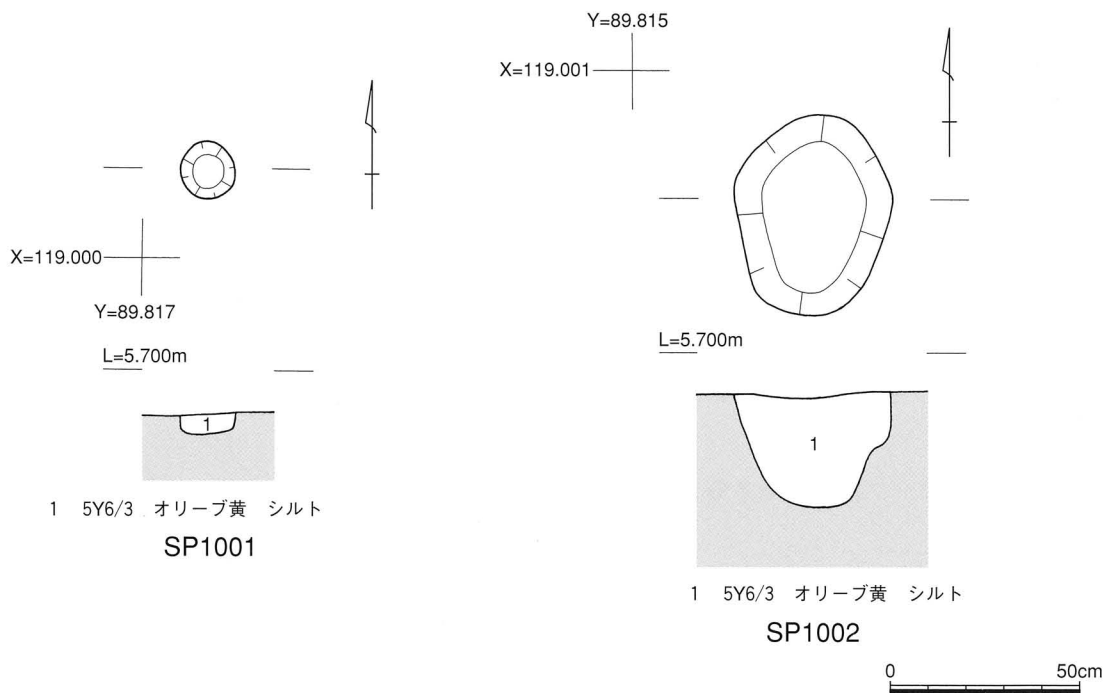
土層

遺構の堆積土は4層に分層した。1層～3層は灰白色を呈するシルト層である。4層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。

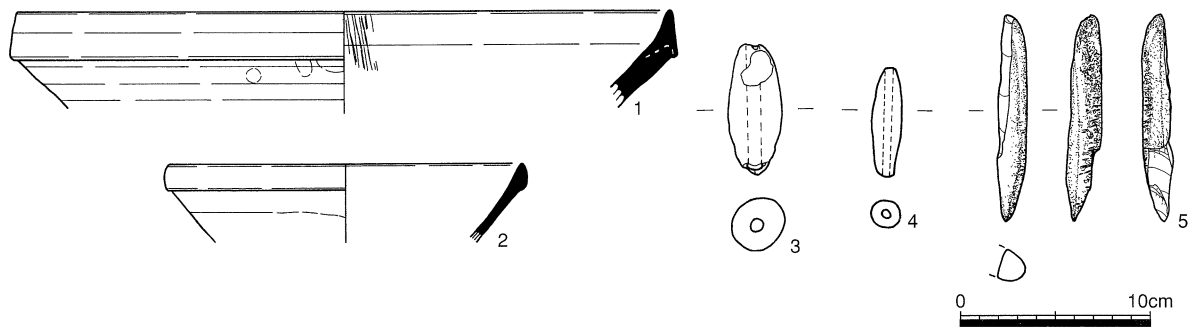
土坑 (SK1004) (第13図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-III、小グリッド S-14に位置する。



第15図 北区 (1999・2001年度) SP1001・SP1002平・断面図



第16図 北区（1999・2001年度）第1包含層出土遺物

土坑（SK1005）（第14図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-Ⅲ、小グリッド S-11に位置する。

規模と形状

検出長1.12m、最大幅0.28m、最大深度0.08mの二等辺三角形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は灰黄色を呈するシルト層である。2層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。

柱穴（SP1001）（第15図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-Ⅳ、小グリッド A-4に位置する。

規模と形状

検出長0.16m、最大幅0.14m、最大深度0.06mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP1002）（第15図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-Ⅳ、小グリッド A-4に位置する。

規模と形状

検出長0.53m、最大幅0.41m、最大深度0.30mの楕円形である。

土層

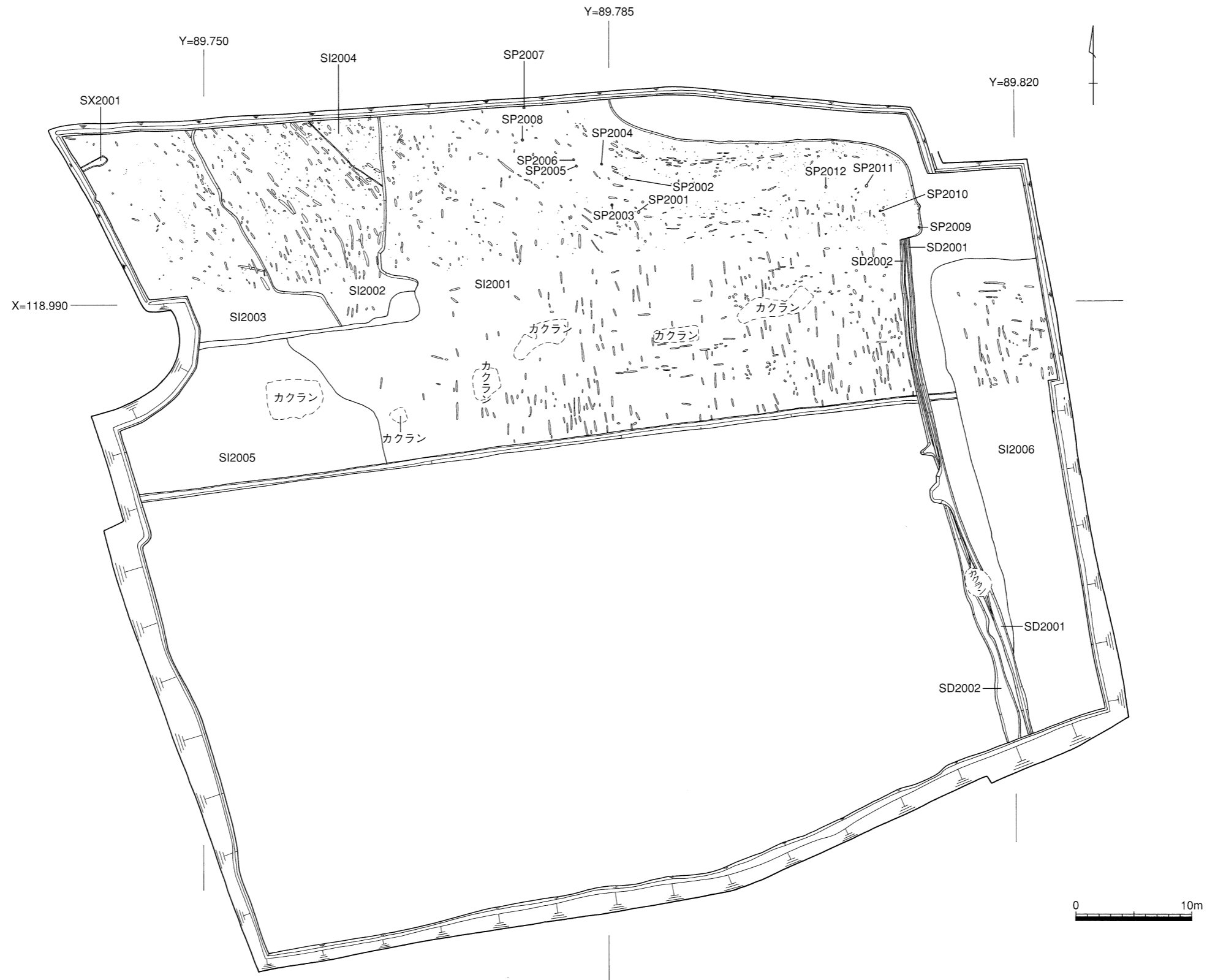
遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

第1包含層出土遺物（第16図）

1は陶器の播鉢である。2は白磁椀である。3、4は土錘である。5は砂岩の敲石である。

時期

中世（14世紀後半）である。



第17図 北区（1999・2001年度）第2遺構面 調査区遺構平面図

(2) 第2遺構面

溝 (SD2001) (第18図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド Q~T-3 に位置する。

規模と形状

検出長44.60m、最大幅0.04~0.18m、最大深度0.06m の溝で、N-13°-W を軸としているが、北半は真北方向へ弧を描く。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

溝 (SD2002) (第18図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド Q~T-3 に位置する。

規模と形状

検出長44.60m、最大幅0.04~0.18m、最大深度0.04m の溝で、SD2001とほぼ平行に位置する。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

水田跡 (SI2001) (17図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -III、IV、小グリッド S~B-14~3 に位置する。

規模と形状

検出長45.60m、最大幅13.60m の長方形である。

水田跡 (SI2002) (第17図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -III、小グリッド S~B-10~14 に位置する。

規模と形状

検出長18.00m、最大幅13.00m の不定形である。

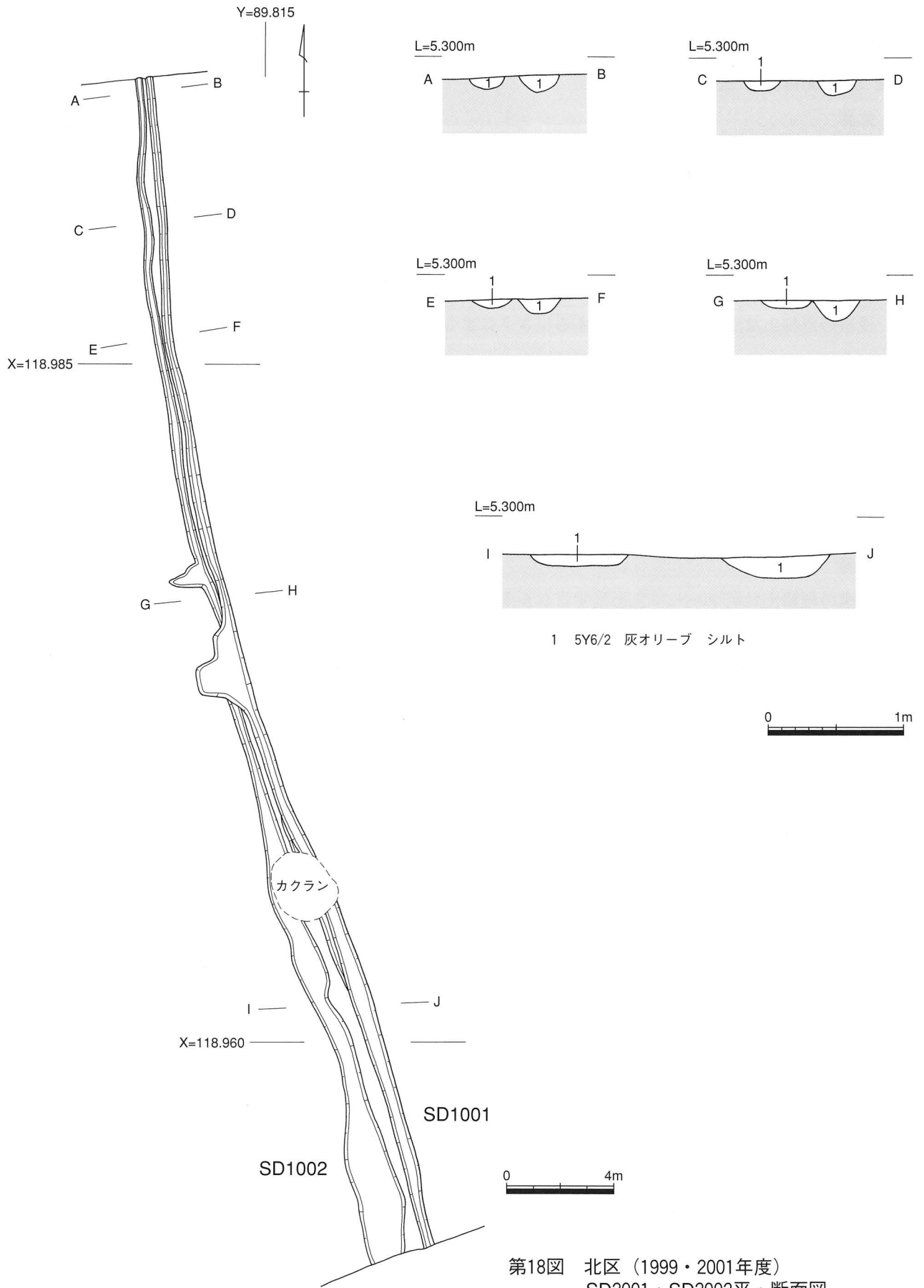
水田跡 (SI2003) (第17図)

位置

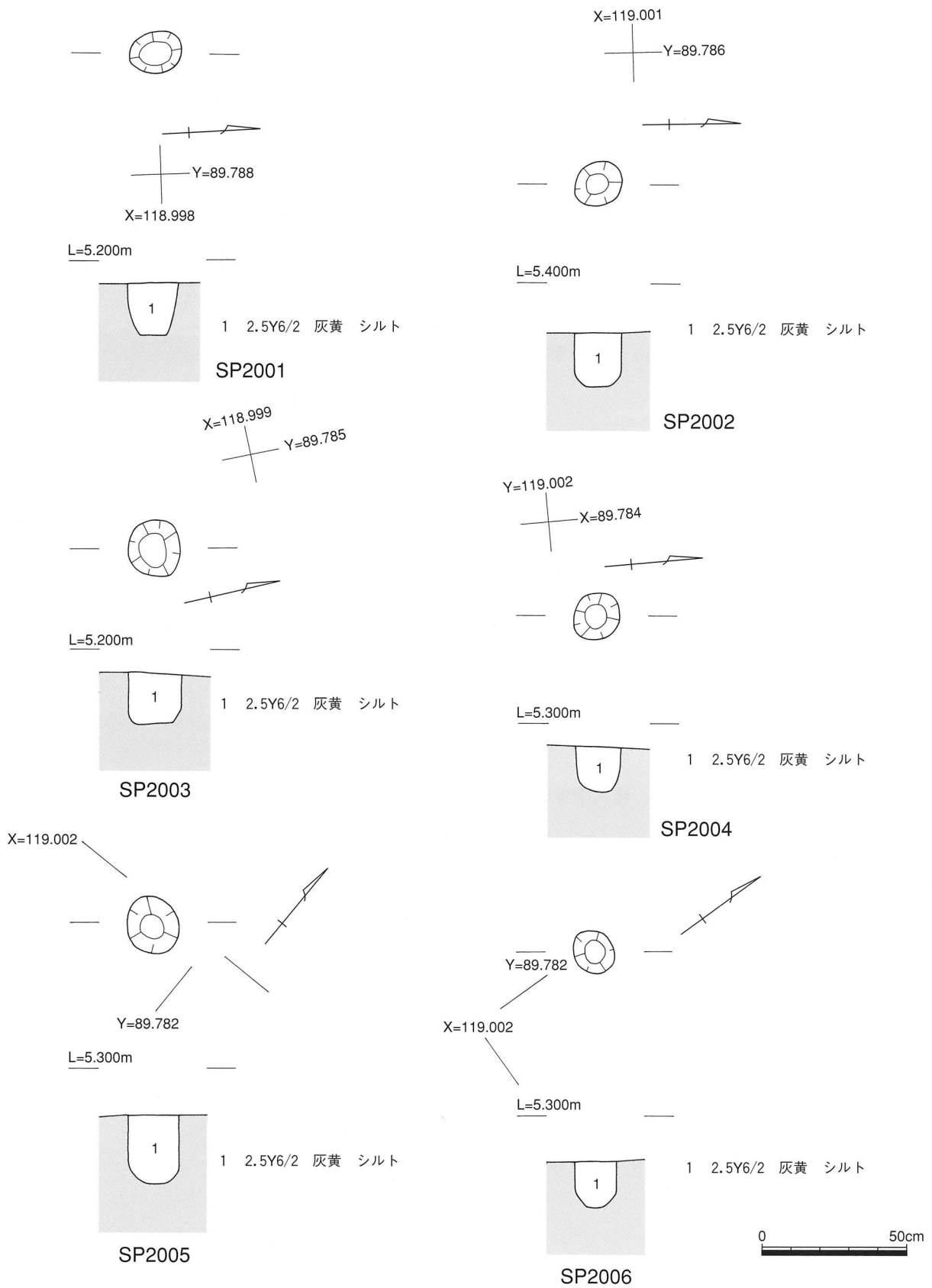
大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -III、小グリッド R~A-8~13 に位置する。

規模と形状

検出長18.20m、最大幅10.80m の不定形である。



第18図 北区 (1999・2001年度)
SD2001・SD2002平・断面図



第19図 北区 (1999・2001年度)
 SP2001・SP2002・SP2003・SP2004・SP2005・SP2006平・断面図

水田跡 (SI2004) (第17図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド α -III、小グリッド A~B-12~14に位置する。

規模と形状

検出長6.20m、最大幅4.20m の三角形である。

水田跡 (SI2005) (第17図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -III~IV、小グリッド O~S-9~13に位置する。

規模と形状

検出長68.80m、最大幅14.40m の長方形である。

水田跡 (SI2006) (第17図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド K~S-3~6に位置する。

規模と形状

検出長48.40m、最大幅11.00m の長方形である。

柱穴 (SP2001) (第19図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド T-18に位置する。

規模と形状

検出長0.16m、最大幅0.14m、最大深度0.16m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP2002) (第19図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-18に位置する。

規模と形状

検出長0.16m、最大幅0.15m、最大深度0.18m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP2003) (第19図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド T-18に位置する。

規模と形状

検出長0.26m、最大幅0.20m、最大深度0.18m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP2004）（第19図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-17に位置する。

規模と形状

検出長0.16m、最大幅0.15m、最大深度0.15m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP2005）（第19図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-17に位置する。

規模と形状

検出長0.19m、最大幅0.18m、最大深度0.24m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP2006）（第19図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-17に位置する。

規模と形状

検出長0.15m、最大幅0.15m、最大深度0.16m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP2007）（第20図）

位置

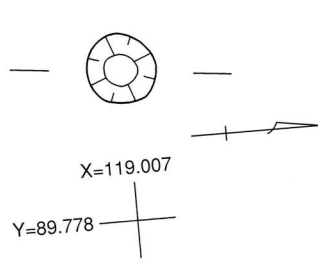
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド B-16に位置する。

規模と形状

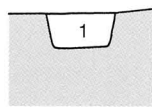
検出長0.18m、最大幅0.16m、最大深度0.08m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

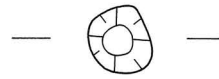
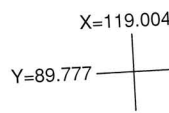


L=5.200m

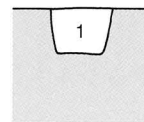


1 2.5Y6/2 灰黄 シルト

SP2007

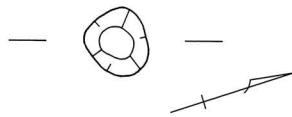
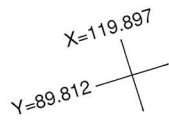


L=5.200m

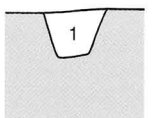


1 2.5Y6/2 灰黄 シルト

SP2008

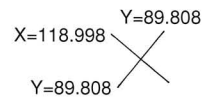
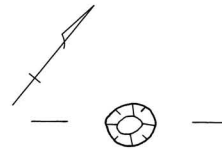


L=5.400m

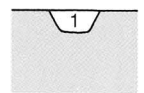


1 5Y6/1 灰 シルト

SP2009



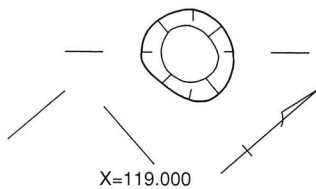
L=5.200m



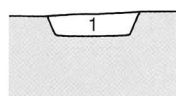
1 2.5Y6/2 灰黄 シルト

SP2010

Y=89.807

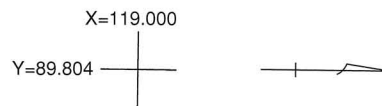


L=5.300m

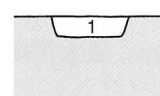


1 5Y6/1 灰 シルト

SP2011



L=5.300m

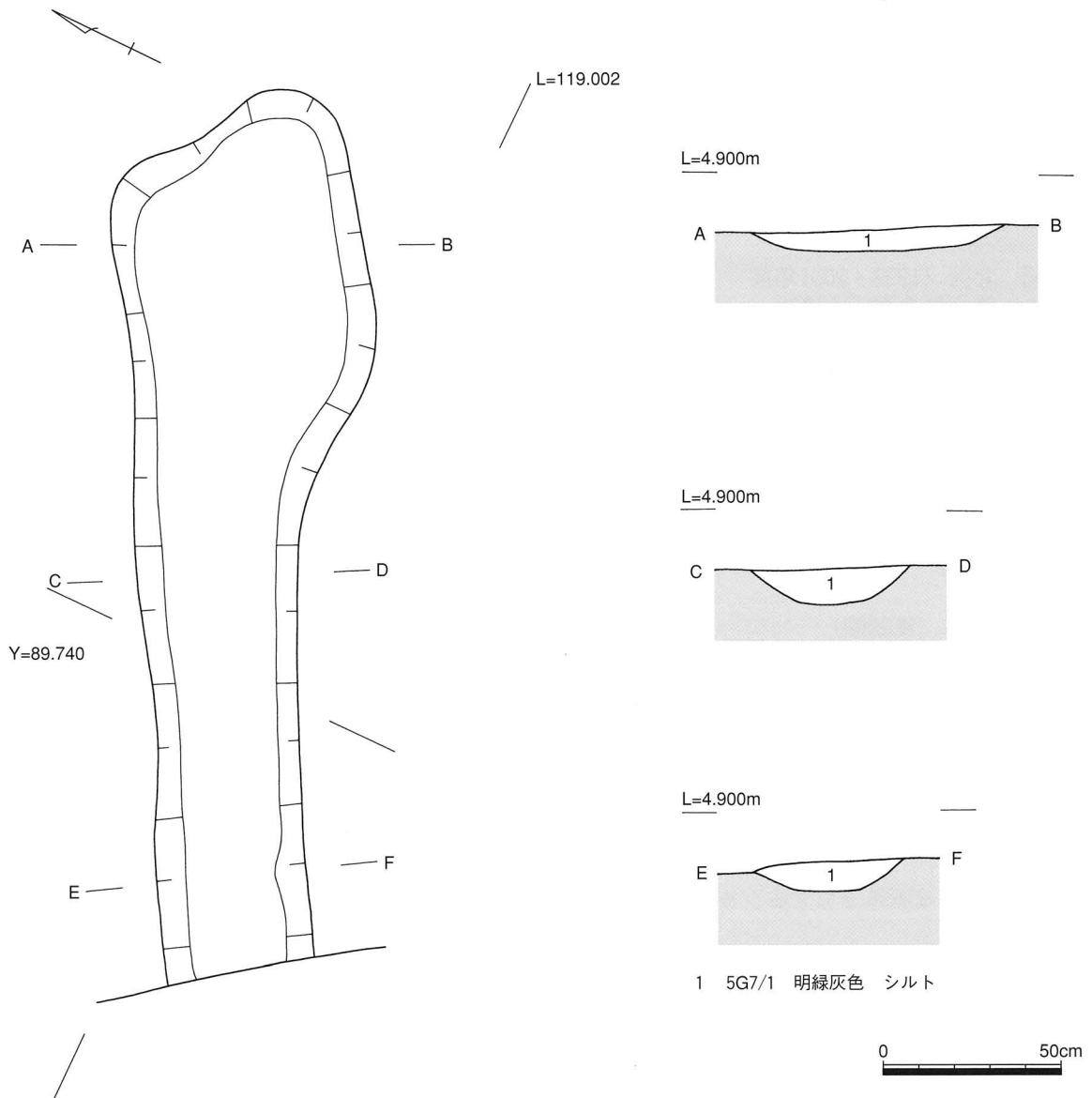


1 5Y6/1 灰 シルト

SP2012



第20図 北区 (1999・2001年度)
SP2007・SP2008・SP2009・SP2010・SP2011・SP2012平・断面図



第21図 北区 (1999・2001年度) SX2001平・断面図

柱穴 (SP2008) (第20図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -Ⅲ、小グリッド A-16に位置する。

規模と形状

検出長0.16m、最大幅0.14m、最大深度0.14mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

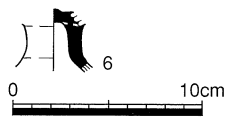
柱穴 (SP2009) (第20図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -Ⅳ、小グリッド T-3に位置する。

規模と形状

検出長0.16m、最大幅0.14m、最大深度0.11mの円形である。



第22図 北区（1999・2001年度）
第2包含層出土遺物

土層

遺構の堆積土は灰色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP2010）（第20図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド T-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.16m、最大幅0.12m、最大深度0.06mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP2011）（第20図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-IV、小グリッド A-1 に位置する。

規模と形状

検出長0.24m、最大幅0.24m、最大深度0.06mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP2012）（第20図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-IV、小グリッド A-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.21m、最大幅0.21m、最大深度0.06mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰色を呈するシルトによる単一層である。

不明遺構（SX2001）（第21図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-III、小グリッド A-8、9 に位置する。

規模と形状

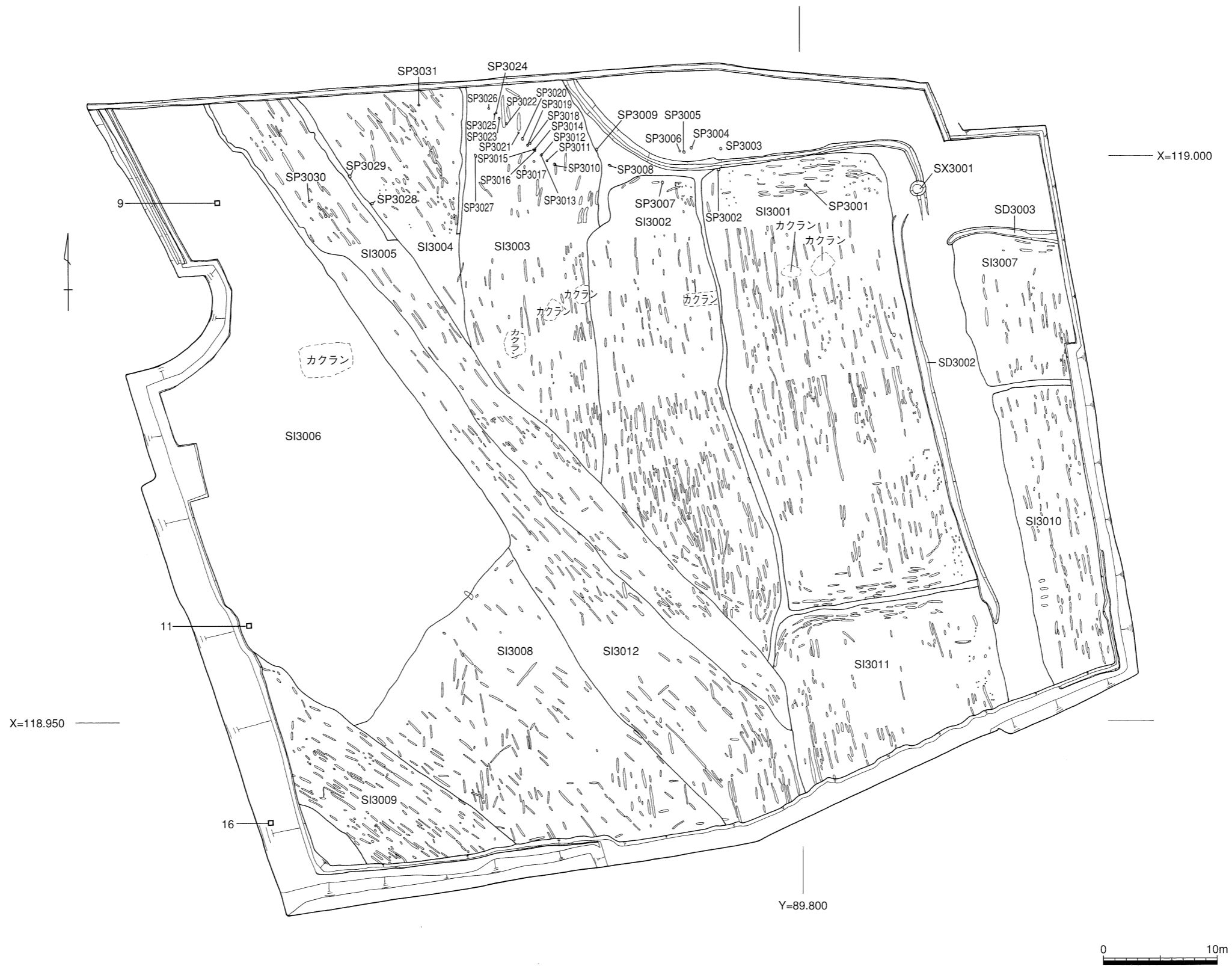
検出長2.25m、最大幅0.70m、最大深度0.10mの溝である。

土層

遺構の堆積土は明緑灰色を呈するシルトによる単一層である。

第2包含層出土遺物（第22図）

6は緑釉陶器の壺の高台である。時期は平安時代である。



第23図 北区（1999・2001年度）第3遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図

(3) 第3遺構面

溝 (SD3001) (第24図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド S-3～5 に位置する。

規模と形状

検出長9.80m、最大幅1.00m、最大深度0.10m の溝である。東西方向に S 字状に蛇行する。

土層

A-B は5層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は灰黄色を呈するシルト層である。3層はにぶい黄色を呈するシルト層である。4層は灰黄色を呈するシルト層である。5層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。

C-D は4層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は灰黄色を呈するシルト層である。3層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。4層は灰黄色を呈するシルト層である。

E-F は3層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。3層は灰黄色を呈するシルト層である。

G-H は2層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層はにぶい黄色を呈するシルト層である。

出土遺物・時期

7は土師器の杯である。時期は平安時代である。

溝 (SD3002) (第25図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド S-3～5 に位置する。

規模と形状

検出長9.55m、最大幅1.05m、最大深度0.15m の溝である。N-14°-W を軸としているが、北端が東へ屈曲している。

土層

A-B、C-D、E-F、G-H の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルト質土層による単一層である。

M-N の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

O-P の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

出土遺物・時期

8は土師器の皿である。2839は釘である。時期は平安時代である。

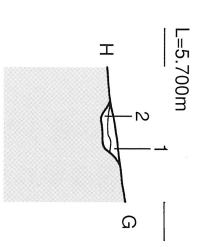
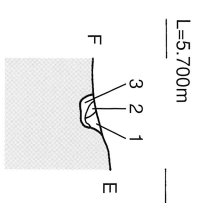
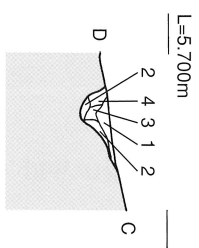
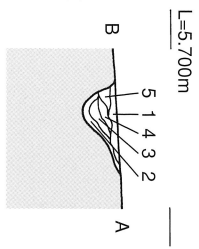
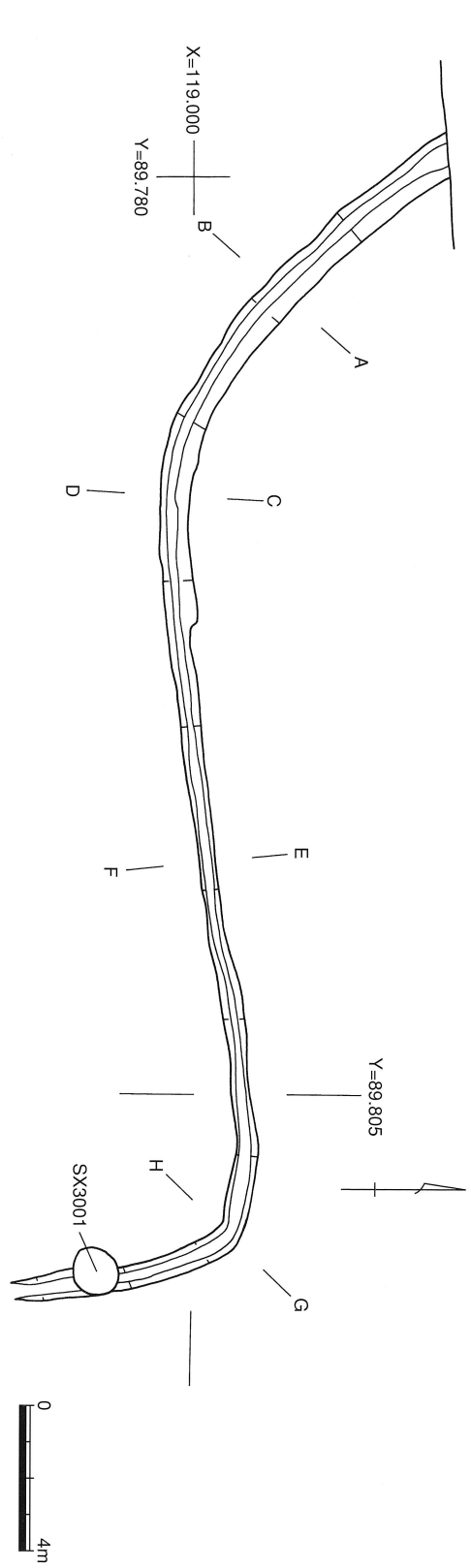
溝 (SD3003) (第26図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド L~S-2～4 に位置する。

規模と形状

検出長37.90m、最大幅1.20m、最大深度0.50m の溝である。



- | | | | |
|---|---------|-------|-----|
| 1 | 5Y6/2 | 灰オリーブ | シルト |
| 2 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | シルト |
| 3 | 2.5Y6/3 | にぶい黄 | シルト |
| 4 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | シルト |
| 5 | 2.5Y6/3 | にぶい黄 | シルト |

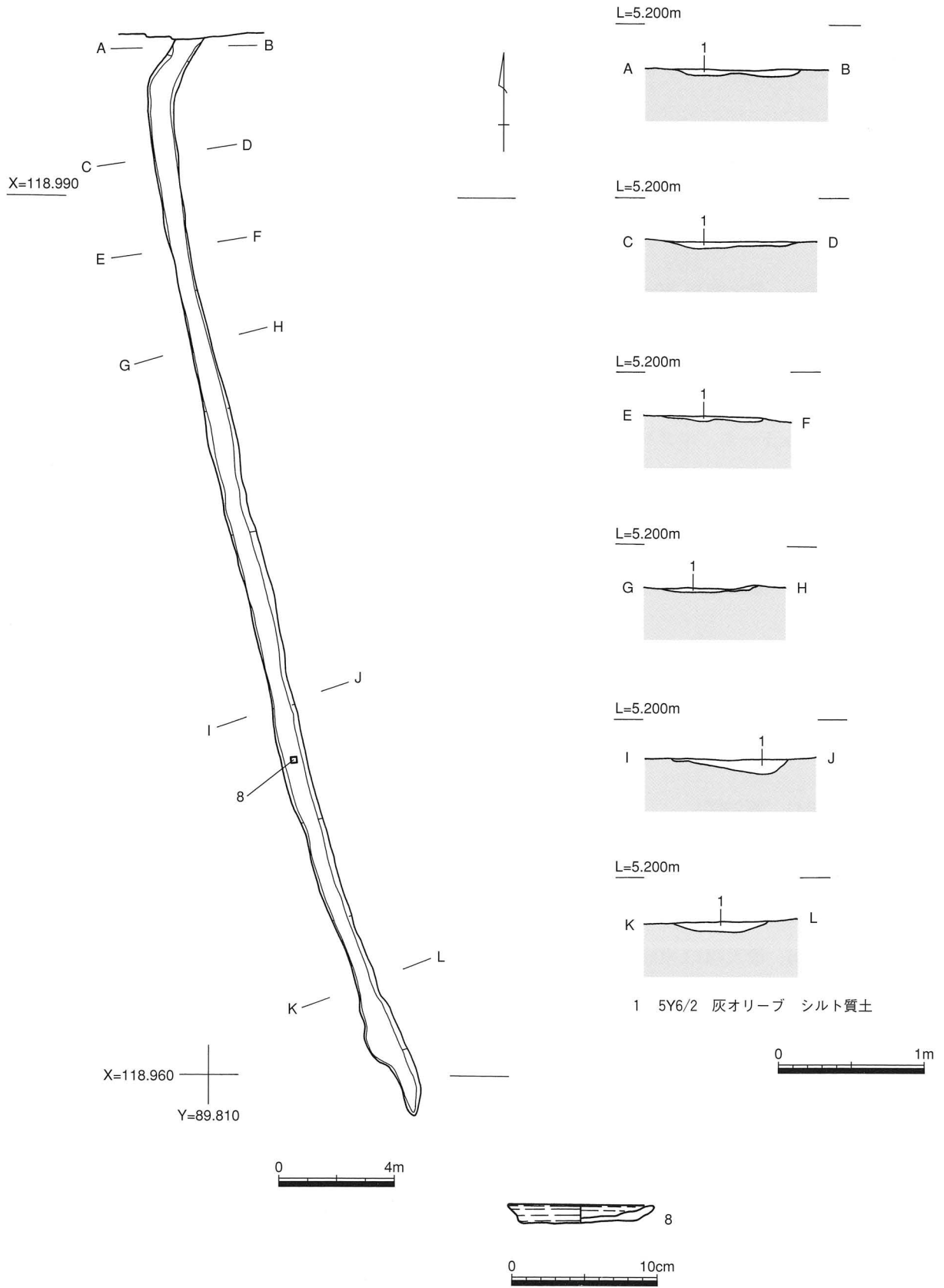
- | | | | |
|---|---------|-------|-----|
| 1 | 5Y6/2 | 灰オリーブ | シルト |
| 2 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | シルト |
| 3 | 2.5Y6/3 | にぶい黄 | シルト |
| 4 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | シルト |

- | | | | |
|---|---------|-------|-----|
| 1 | 5Y6/2 | 灰オリーブ | シルト |
| 2 | 2.5Y6/3 | にぶい黄 | シルト |
| 3 | 2.5Y6/2 | 灰黄 | シルト |

- | | | | |
|---|---------|-------|-----|
| 1 | 5Y6/2 | 灰オリーブ | シルト |
| 2 | 2.5Y6/3 | にぶい黄 | シルト |



第24図 北区 (1999・2001年度) SD3001平・断面図・出土遺物



第25図 北区（1999・2001年度）SD3002平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物

土層

A-Bの堆積土は灰オリーブ色を呈するシルト質の単一層である。

C-Dの堆積土は灰オリーブ色を呈するシルト質の単一層である。

水田跡 (SI3001) (第23図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -Ⅲ、Ⅳ、小グリッド M~T-19~3に位置する。

規模と形状

検出長39.60m、最大幅16.80mの長方形である。

水田跡 (SI3002) (第23図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -Ⅲ、小グリッド L~T-17~20に位置する。

規模と形状

検出長45.00m、最大幅12.80mの台形である。

水田跡 (SI3003) (第23図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -Ⅲ、小グリッド O~B-15~17に位置する。

規模と形状

検出長36.00m、最大幅12.00mの台形である。

水田跡 (SI3004) (第23図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -Ⅲ、小グリッド Q~B-12~14に位置する。

規模と形状

検出長27.10m、最大幅12.40mの三角形である。

水田跡 (SI3005) (第23図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -Ⅲ、小グリッド K~A-10~20に位置する。

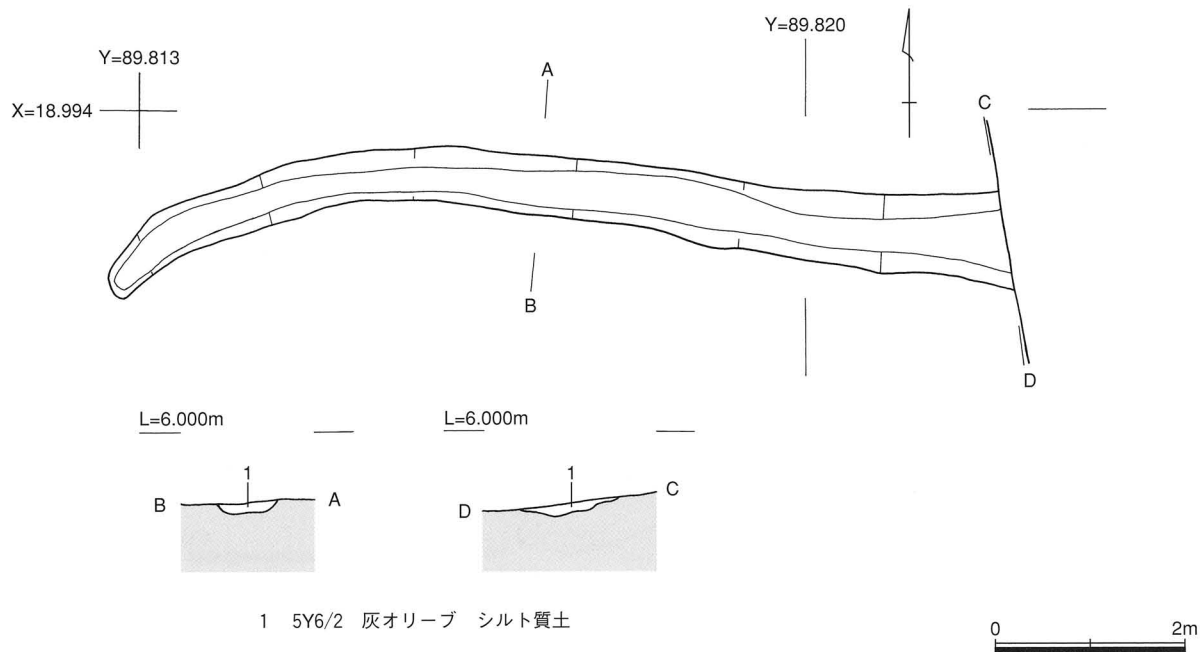
規模と形状

検出長72.60m、最大幅6.40mの長い帯状である。

水田跡 (SI3006) (第23、27図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -Ⅲ、小グリッド K~A-8~15に位置する。



第26図 北区（1999・2001年度）SD3003平・断面図

規模と形状

検出長53.60m、最大幅25.60m のいびつな台形である。

出土遺物・時期

9は土師器の皿である。10は平瓦である。時期は平安時代である。

水田跡（SI3007）（第23図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド Q~S-3~5 に位置する。

規模と形状

検出長13.60m、最大幅9.20m の長方形である。

水田跡（SI3008）（第23図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-III、小グリッド H~N-13~19 に位置する。

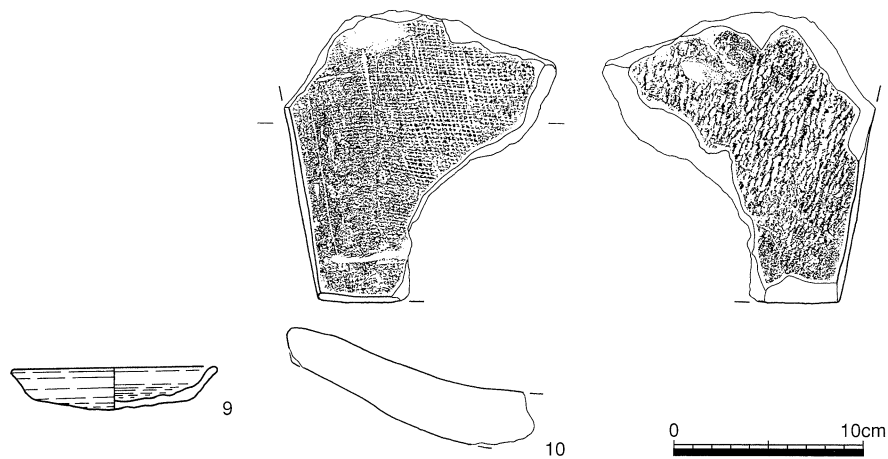
規模と形状

検出長30.20m、最大幅19.60m の台形である。

水田跡（SI3009）（第23図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-III、小グリッド H~L-11~15 に位置する。



第27図 北区（1999・2001年度）SI3006出土遺物

規模と形状

検出長28.60m、最大幅8.20mの台形である。

水田跡（SI3010）（第23図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド K~P-4~6 に位置する。

規模と形状

検出長25.80m、最大幅6.60mの長方形である。

水田跡（SI3011）（第23図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-III、IV、小グリッド J~L-20~4 に位置する。

規模と形状

検出長19.00m、最大幅15.00mの台形である。

水田跡（SI3012）（第23図）

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-III、小グリッド I~A-10~20 に位置する。

規模と形状

検出長79.20m、最大幅9.80mの長い帯状である。

柱穴（SP3001）（第28図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド T-1 に位置する。

規模と形状

検出長0.26m、最大幅0.25m、最大深度0.04mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3002）（第28図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-Ⅲ、小グリッド T-19に位置する。

規模と形状

検出長0.18m、最大幅0.16m、最大深度0.09mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3003）（第28図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-Ⅲ、小グリッド A-19に位置する。

規模と形状

検出長0.22m、最大幅0.20m、最大深度0.09mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3004）（第28図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-Ⅲ、小グリッド A-19に位置する。

規模と形状

検出長0.21m、最大幅0.20m、最大深度0.04mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3005）（第28図）

位置

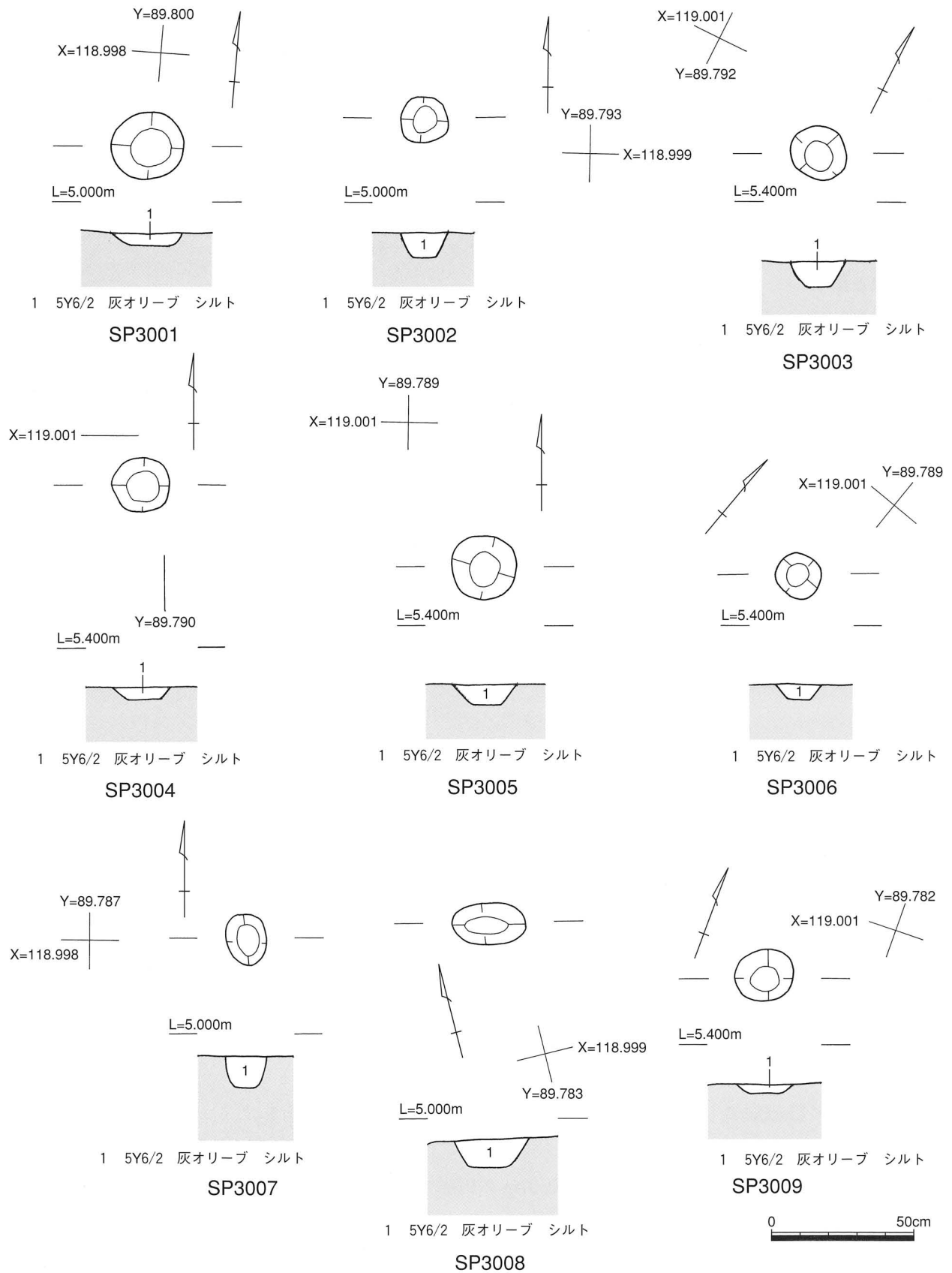
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-Ⅲ、小グリッド A-18に位置する。

規模と形状

検出長0.23m、最大幅0.23m、最大深度0.07mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。



第28図 北区 (1999・2001年度) SP3001・SP3002・SP3003・SP3004・
SP3005・SP3006・SP3007・SP3008・SP3009平・断面図

柱穴 (SP3006) (第28図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-18に位置する。

規模と形状

検出長0.17m、最大幅0.16m、最大深度0.05m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルト層による単一層である。

柱穴 (SP3007) (第28図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド T-18に位置する。

規模と形状

検出長0.20m、最大幅0.15m、最大深度0.11m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3008) (第28図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド T-17に位置する。

規模と形状

検出長0.27m、最大幅0.15m、最大深度0.10m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3009) (第28図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-17に位置する。

規模と形状

検出長0.20m、最大幅0.19m、最大深度0.03m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

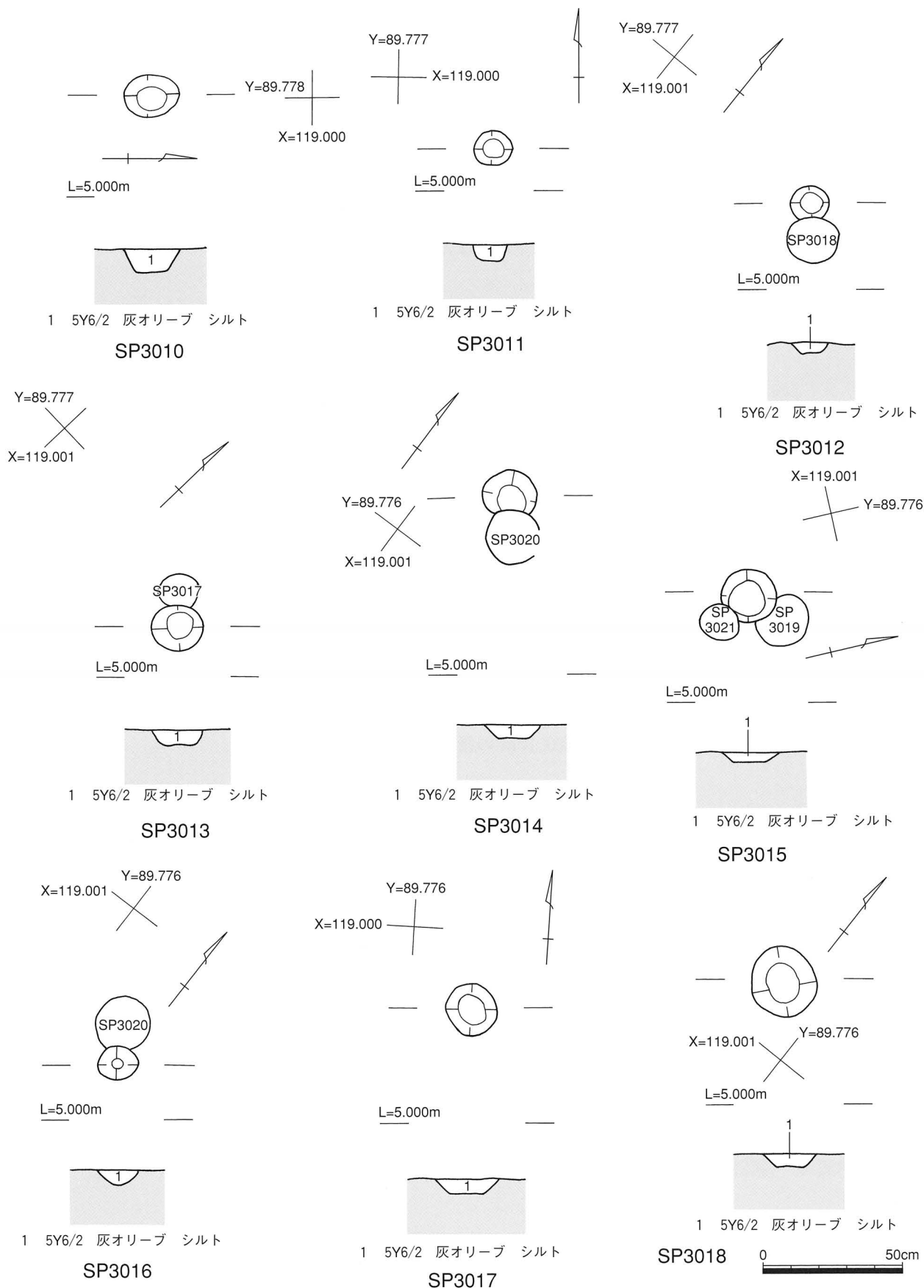
柱穴 (SP3010) (第29図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド T-16に位置する。

規模と形状

検出長0.21m、最大幅0.17m、最大深度0.08m の楕円形である。



第29図 北区 (1999・2001年度) SP3010・SP3011・SP3012・SP3013・
 SP3014・SP3015・SP3016・SP3017・SP3018平・断面図

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3011) (第29図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド T-16に位置する。

規模と形状

検出長0.15m、最大幅0.15m、最大深度0.06mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3012) (第29図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-16に位置する。

規模と形状

検出長0.15m、最大幅0.12m、最大深度0.04mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3013) (第29図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-16に位置する。

規模と形状

検出長0.20m、最大幅0.18m、最大深度0.05mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3014) (第29図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-16に位置する。

規模と形状

検出長0.22m、最大幅0.15m、最大深度0.05mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3015) (第29図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-16に位置する。

規模と形状

検出長0.21m、最大幅0.21m、最大深度0.03mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3016）（第29図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -Ⅲ、小グリッド A-16に位置する。

規模と形状

検出長0.15m、最大幅0.14m、最大深度0.06mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3017）（第29図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε -Ⅲ、小グリッド T-16に位置する。

規模と形状

検出長0.20m、最大幅0.20m、最大深度0.05mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3018）（第29図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -Ⅲ、小グリッド A-16に位置する。

規模と形状

検出長0.27m、最大幅0.25m、最大深度0.05mの円形である。

土層

遺構の堆積土は、灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3019）（第30図）

位置

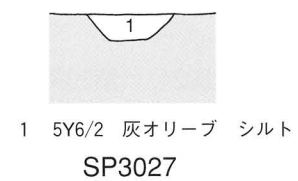
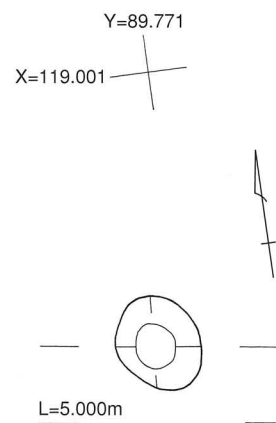
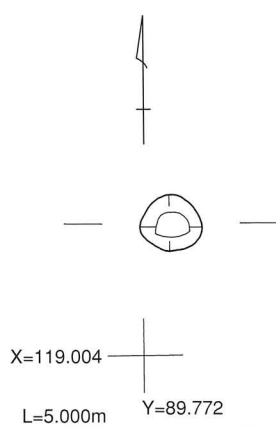
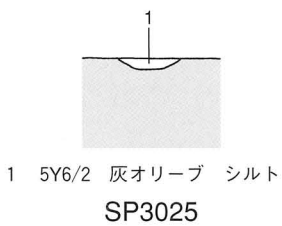
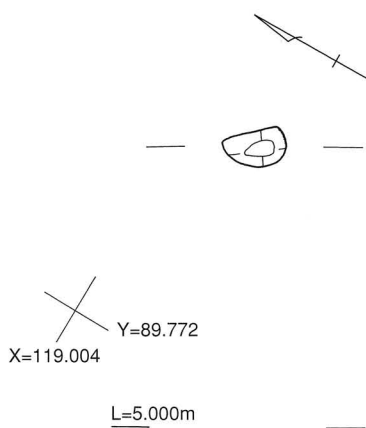
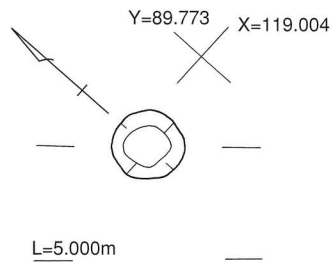
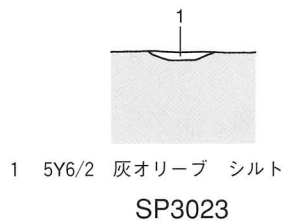
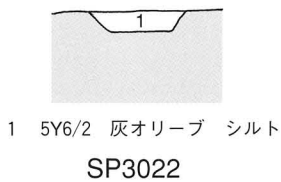
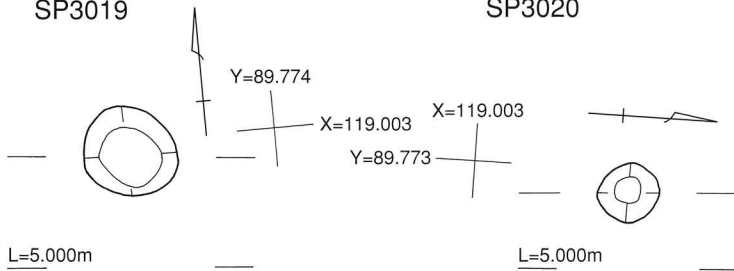
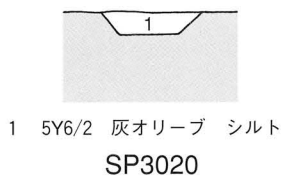
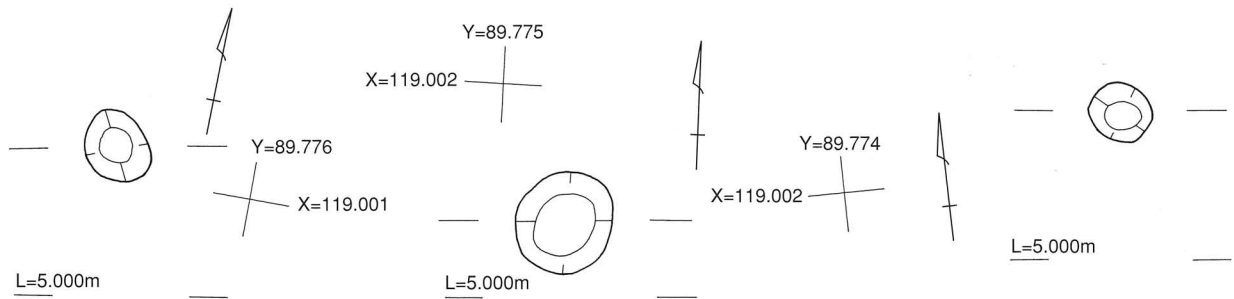
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -Ⅲ、小グリッド A-16に位置する。

規模と形状

検出長0.20m、最大幅0.19m、最大深度0.06mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。



第30図 北区(1999・2001年度) SP3019・SP3020・SP3021・SP3022・SP3023・SP3024・SP3025・SP3026・SP3027平・断面図

柱穴（SP3020）（第30図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-16に位置する。

規模と形状

検出長0.29m、最大幅0.26m、最大深度0.06mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3021）（第30図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-15に位置する。

規模と形状

検出長0.16m、最大幅0.16m、最大深度0.05mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3022）（第30図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-15に位置する。

規模と形状

検出長0.26m、最大幅0.26m、最大深度0.05mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3023）（第30図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-15に位置する。

規模と形状

検出長0.17m、最大幅0.17m、最大深度0.05mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3024）（第30図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-15に位置する。

規模と形状

検出長0.20m、最大幅0.19m、最大深度0.02mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3025) (第30図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -Ⅲ、小グリッド A-15に位置する。

規模と形状

検出長0.18m、最大幅0.11m、最大深度0.03mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルト層による単一層である。

柱穴 (SP3026) (第30図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -Ⅲ、小グリッド A-15に位置する。

規模と形状

検出長0.18m、最大幅0.17m、最大深度0.05mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルト層による単一層である。

柱穴 (SP3027) (第30図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -Ⅲ、小グリッド A-15に位置する。

規模と形状

検出長0.26m、最大幅0.22m、最大深度0.07mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3028) (第31図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -Ⅲ、小グリッド T-13に位置する。

規模と形状

検出長0.32m、最大幅0.26m、最大深度0.03mの楕円形である。

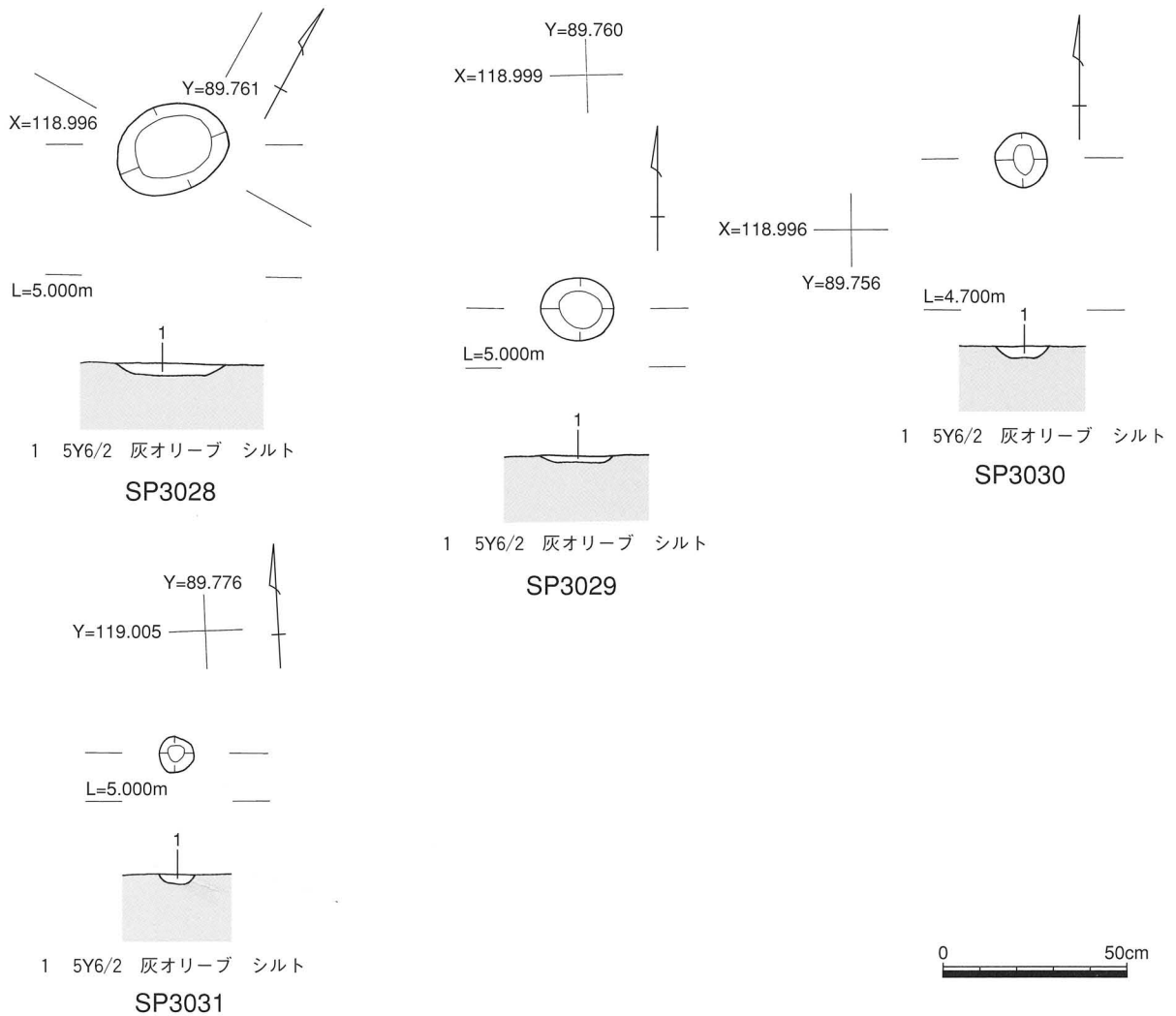
土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP3029) (第31図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -Ⅲ、小グリッド T-13に位置する。



第31図 北区（1999・2001年度）SP3028・SP3029・SP3030・SP3031平・断面図

規模と形状

検出長0.21m、最大幅0.18m、最大深度0.02mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

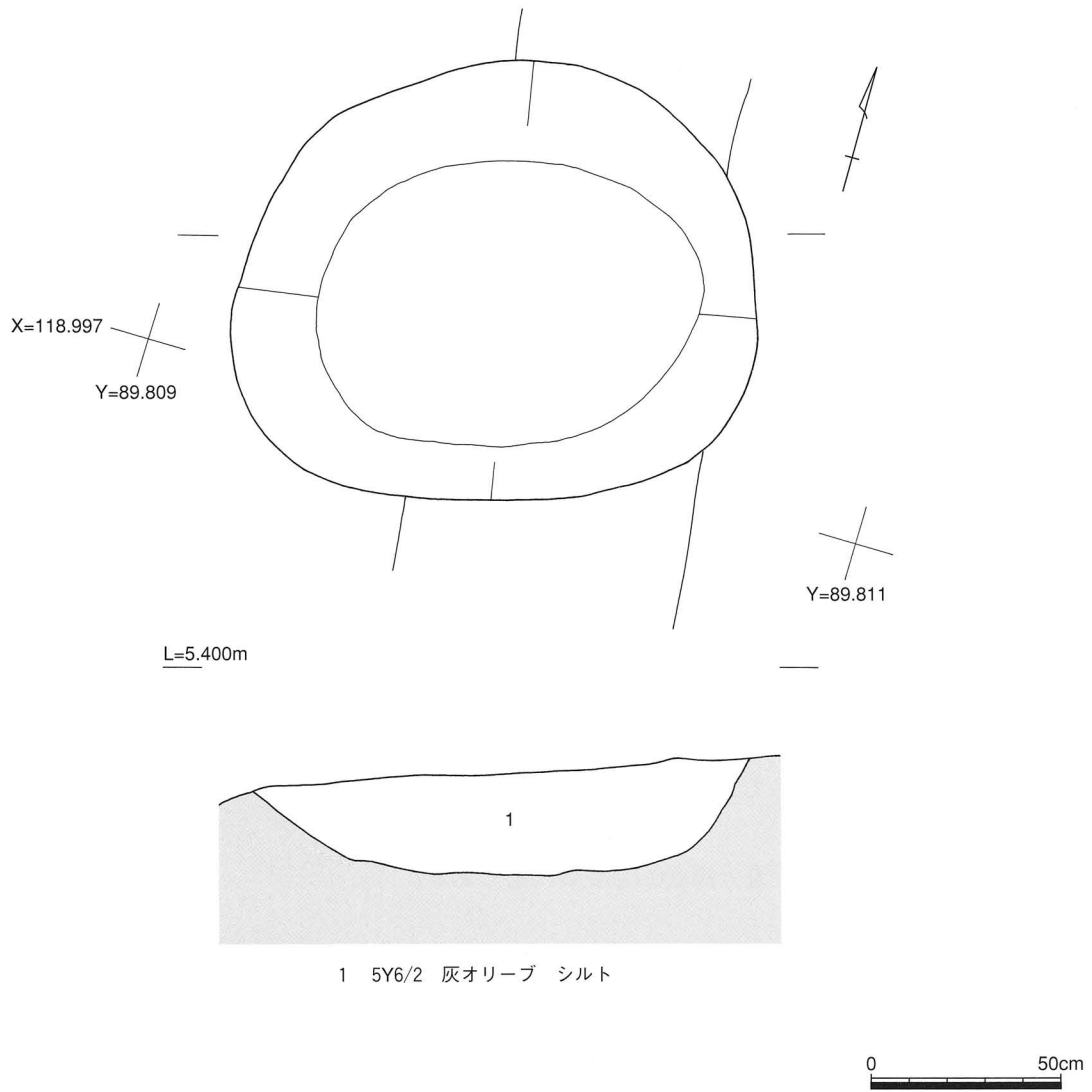
柱穴（SP3030）（第31図）

位置

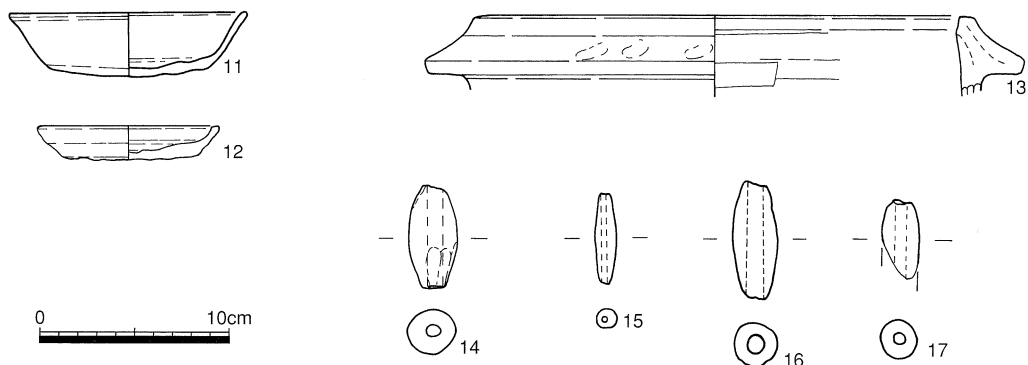
大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-Ⅲ、小グリッド T-12に位置する。

規模と形状

検出長0.15m、最大幅0.15m、最大深度0.03mの円形である。



第32図 北区（1999・2001年度）SX3001平・断面図



第33図 北区（1999・2001年度）第3包含層出土遺物

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP3031）（第31図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-Ⅲ、小グリッド A-14に位置する。

規模と形状

検出長0.10m、最大幅0.11m、最大深度0.02mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

不明遺構（SX3001）（第32図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-Ⅳ、小グリッド T-3に位置する。

規模と形状

検出長1.38m、最大幅1.16m、最大深度0.27mの円形である。

土層

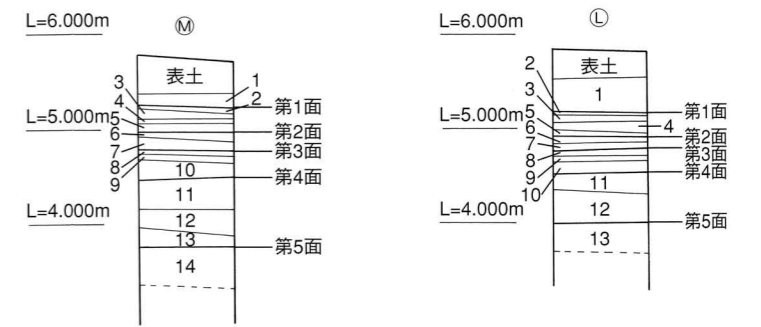
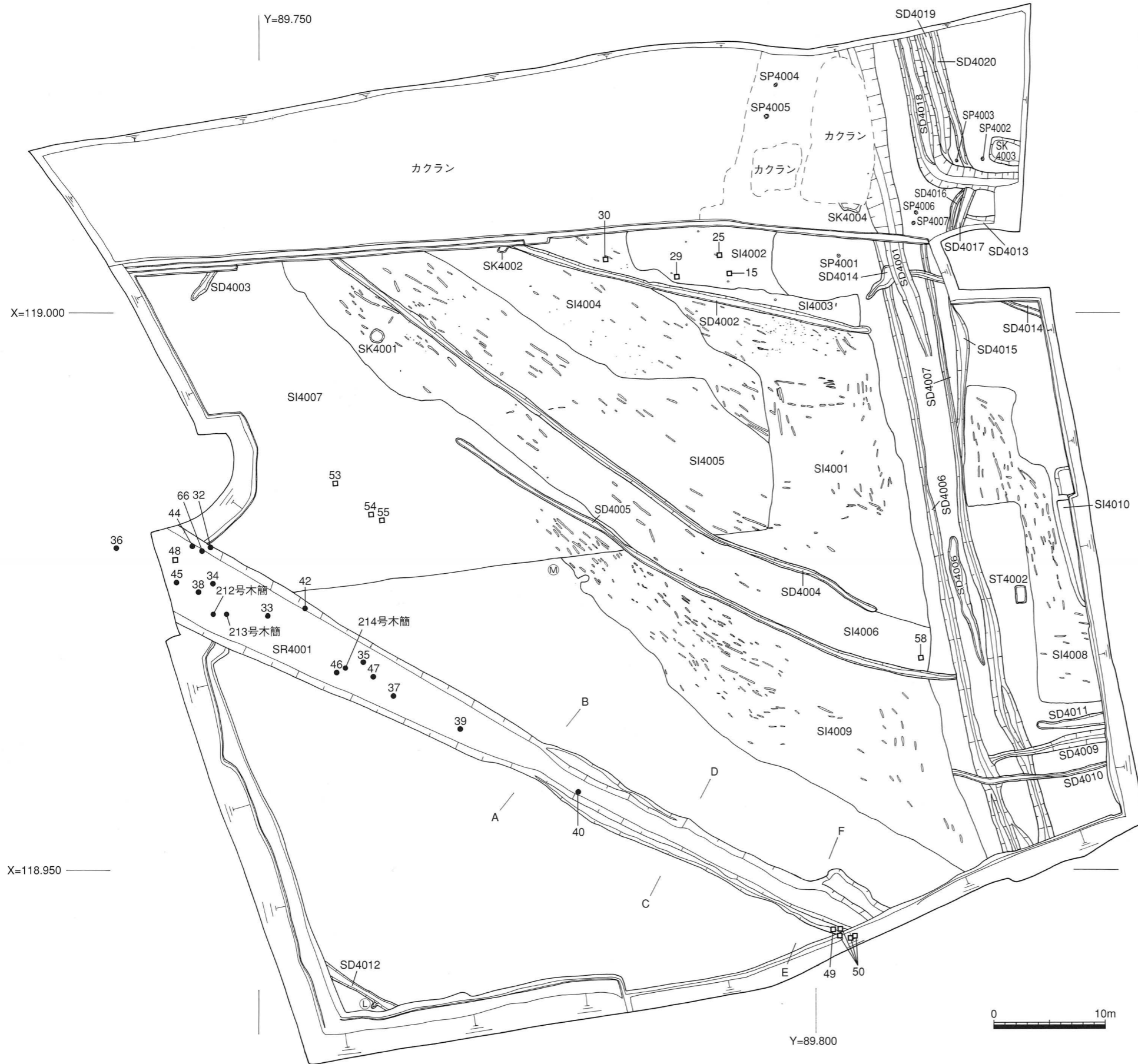
遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

第3包含層出土遺物（第33図）

11は土師器の杯である。12は土師器の皿である。13は羽釜の口縁部である。14～17は土錘である。

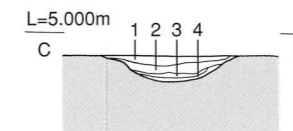
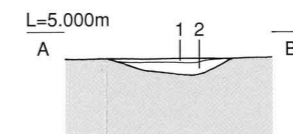
時期

平安時代である。

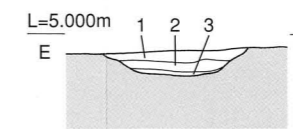


層番号	土質記号	色	土質
1	2.5Y6/1	黄灰	シルト
2	2.5Y6/3	にぶい黄	シルト
3	2.5Y6/2	灰黄	シルト
4	2.5Y6/3	にぶい黄	シルト
5	5Y6/3	オリーブ黄	シルト
6	2.5Y6/4	にぶい黄	シルト
7	5Y6/2	灰オリーブ	シルト
8	2.5Y6/1	黄灰	シルト
9	5Y6/2	灰オリーブ	シルト
10	2.5Y5/3	黄褐	シルト
11	2.5Y6/3	にぶい黄	シルト
12	2.5Y4/3	オリーブ褐	粘性砂質土
13	2.5Y4/4	オリーブ褐	シルト
14	2.5Y5/3	黄褐	粘性砂質土

土層柱状図



1	2.5Y5/3	黄褐	シルト
2	2.5Y5/1	黄灰	砂質シルト
3	N5/0	灰	砂
4	2.5Y5/1	黄灰	砂質シルト



SR 4001 断面図



第34図 北区 (1999・2001年度) 第4遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図・土層柱状図・SR4001断面図

(4) 第4遺構面

溝 (SD4001) (第35図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-IV、小グリッド T~E-1~3 に位置する。

規模と形状

検出長28.00m、最大幅3.15m、最大深度0.60m の直線状を呈する。N-13°-W を軸としている。

土層

A-B は3層に分層した。1層は灰黄色を呈する粘質土層である。2層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。3層は灰オリーブ色を呈する砂質土層である。

C-D は2層に分層した。1層は灰黄色を呈する粘質土層である。2層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。

E-F は5層に分層した。1層は灰黄色を呈する砂質土層である。2層、3層は黄褐色を呈する砂質土層である。4層、5層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。

G-H は2層に分層した。1層は灰黄色を呈する砂質土層である。2層は黄褐色を呈する砂質土層である。

I-J は4層に分層した。1層は灰黄色を呈する砂質土層である。2層は黄褐色を呈する砂質土層である。3層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。4層は黄褐色を呈する砂質土層である。

出土遺物・時期

18は土師器の皿である。時期は平安時代である。

溝 (SD4002) (第36図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-III、IV、小グリッド T~B-15~1 に位置する。

規模と形状

検出長33.00m、最大幅0.60m、最大深度0.35m の直線状を呈する。N-76°-E を軸としている。

土層

A-B は2層に分層した。1層は灰黄色を呈する粘質土層である。2層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。

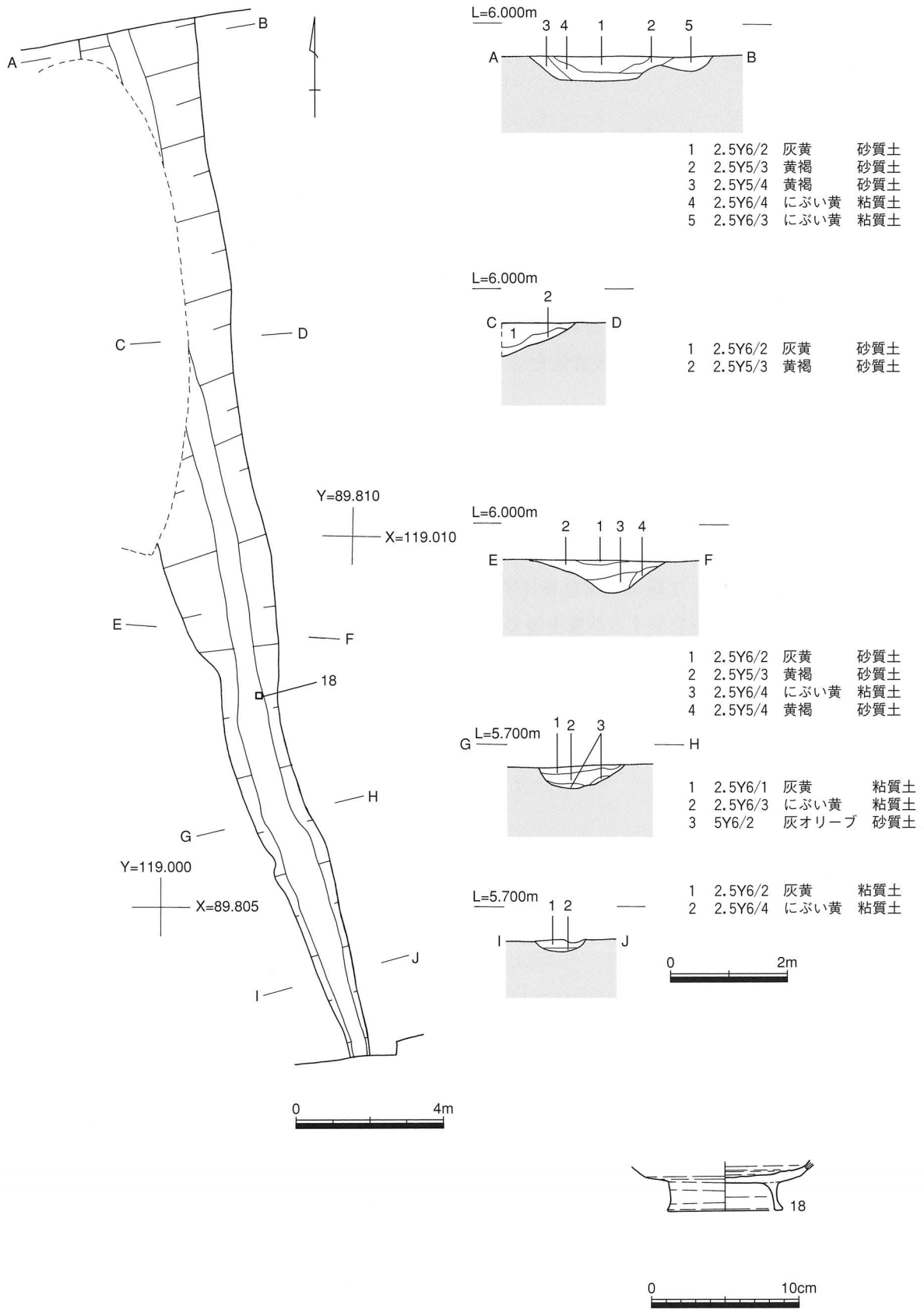
C-D は3層に分層した。1層は灰黄色を呈する粘質土層である。2層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。3層はオリーブ褐色を呈する粘質土層である。

E-F は3層に分層した。1層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。2層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。3層は黄褐色を呈する粘質土層である。

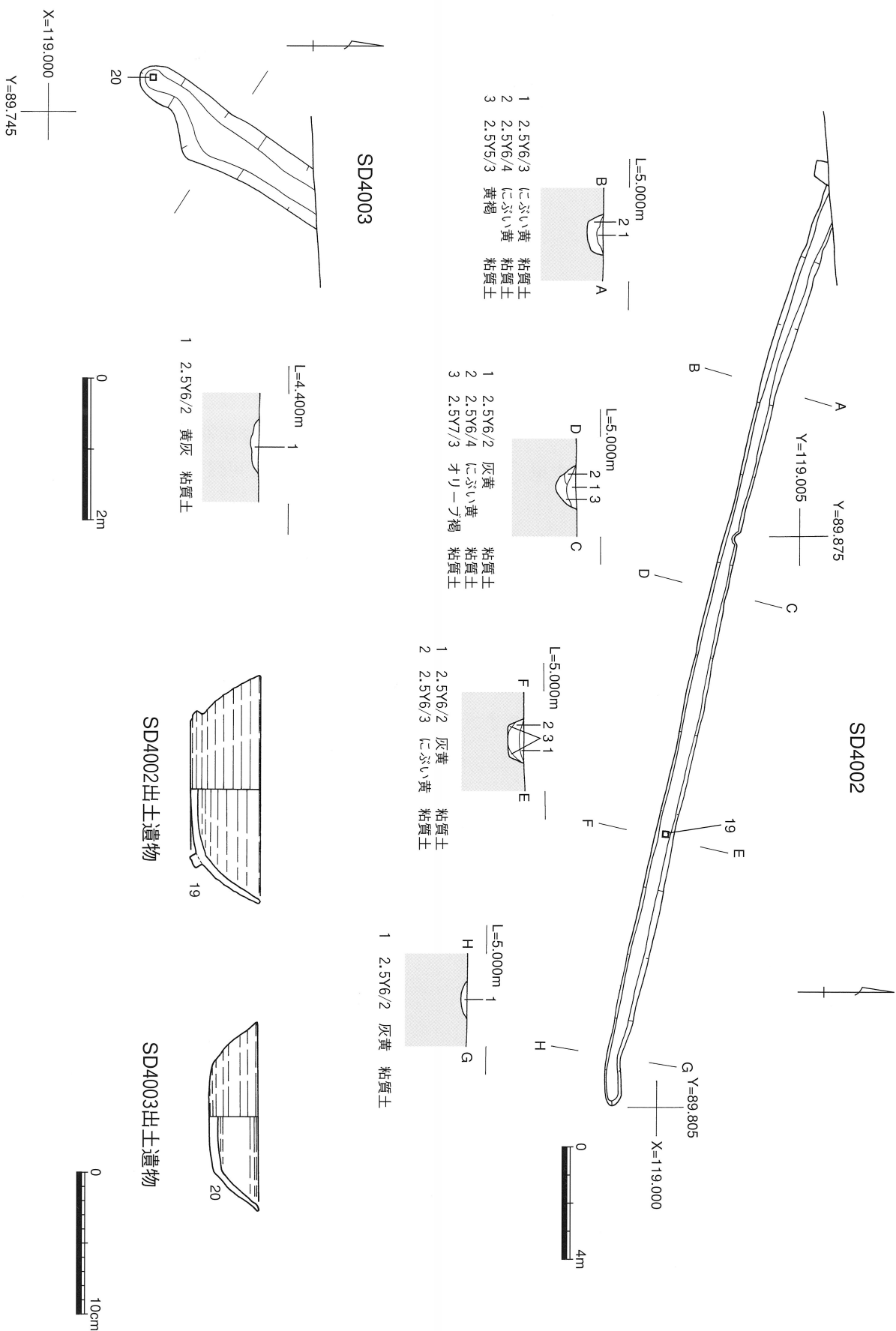
G-H は灰黄色を呈する粘質土による単一層である。

出土遺物・時期

19は土師器の杯である。時期は平安時代である。



第35図 北区（1999・2001年度）SD4001平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物



第36図 北区 (1999・2001年度) SD4002・SD4003平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物

溝 (SD4003) (第36図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-9、10に位置する。

規模と形状

検出長3.00m、最大幅0.75m、最大深度0.10mの小さい溝である。

土層

遺構の堆積土は黄灰色を呈する粘質土による単一層である。

出土遺物・時期

20は土師器の杯である。時期は平安時代である。

溝 (SD4004) (第37図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド C~E-2~4に位置する。

規模と形状

検出長58.60m、最大幅0.60m、最大深度0.20mの溝である。西側はN-53°-Wを軸とした直線状を呈しているが、東端でやや蛇行する。

土層

A-B~M-Nの堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

O-P~Q-Rの堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

溝 (SD4005) (第37図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド C~E-2、3に位置する。

規模と形状

検出長49.80m、最大幅0.52m、最大深度0.13mの溝である。西半はN-57°-Wを軸とした直線状を呈するが、東端ではやや北方向へ弧状にのびる。

土層

A-B~E-Fの堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

G-H~K-Lの堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

出土遺物・時期

21は緑釉陶器の杯である。時期は平安時代である。

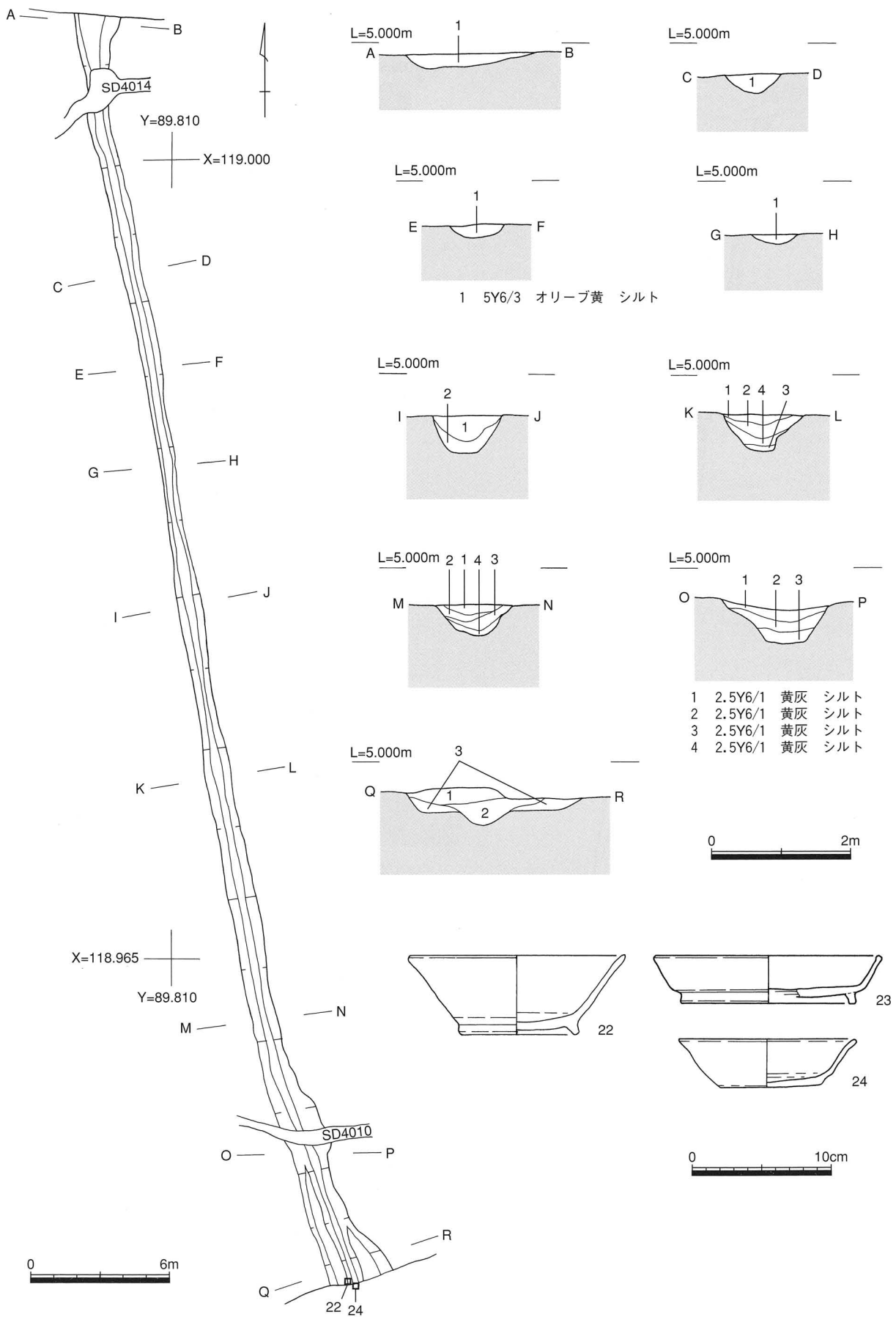
溝 (SD4006) (第38図)

位置

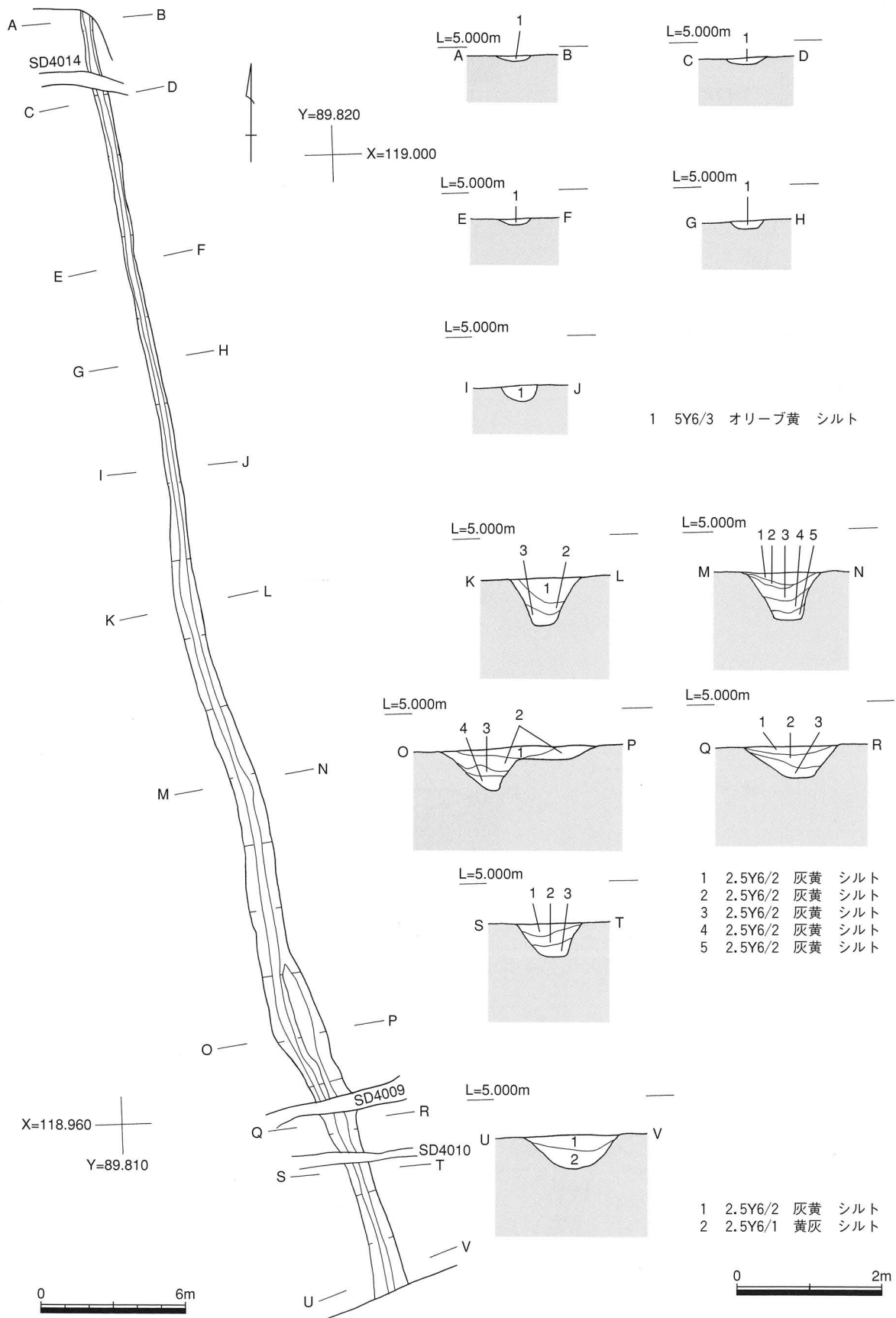
大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -IV、小グリッド K~B-2~4に位置する。

規模と形状

検出長56.20m、最大幅2.46m、最大深度0.54mの溝である。N-10°-Wを軸とした直線状を呈する。



第38図 北区（1999・2001年度）SD4006平・断面図・遺物出土状況ドット図・出土遺物



第39図 北区 (1999・2001年度) SD4007平・断面図

土層

A-B~G-Hの堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

I-Jは2層に分層した。1層、2層は黄灰色を呈するシルト層である。

K-L、O-Pは4層に分層した。1層~4層は黄灰色を呈するシルト層である。

M-N、Q-Rは3層に分層した。1層~3層は黄灰色を呈するシルト層である。

出土遺物・時期

22~24は土師器の杯である。23は赤色塗彩が施されている。時期は奈良~平安時代である。

溝 (SD4007) (第39図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-IV、小グリッド K~B-2~5に位置する。

規模と形状

検出長54.80m、最大幅2.12m、最大深度0.68mの溝である。SD2006とほぼ平行に掘られている。

土層

A-B、G-H、I-Jは3層に分層した。1層~3層は灰黄色を呈するシルト層である。

C-Dは5層に分層した。1層~5層は灰黄色を呈するシルト層である。

E-Fは4層に分層した。1層~4層は灰黄色を呈するシルト層である。

K-Lは2層に分層した。1層は灰黄色を呈するシルト層である。2層は黄灰色を呈するシルト層である。

M-N~W-Xの堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

小グリッド O-4地点で焼土が検出され、炭化物が3カ所点在している。

溝 (SD4008) (第40図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド ε、α-IV、小グリッド N~C-3に位置する。

規模と形状

検出長11.80m、最大幅0.12m、最大深度0.10mで、N-13°-Wを軸とした直線状の溝である。並行しているSD4006と4007の間に位置する。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

溝 (SD4009) (第40図)

位置

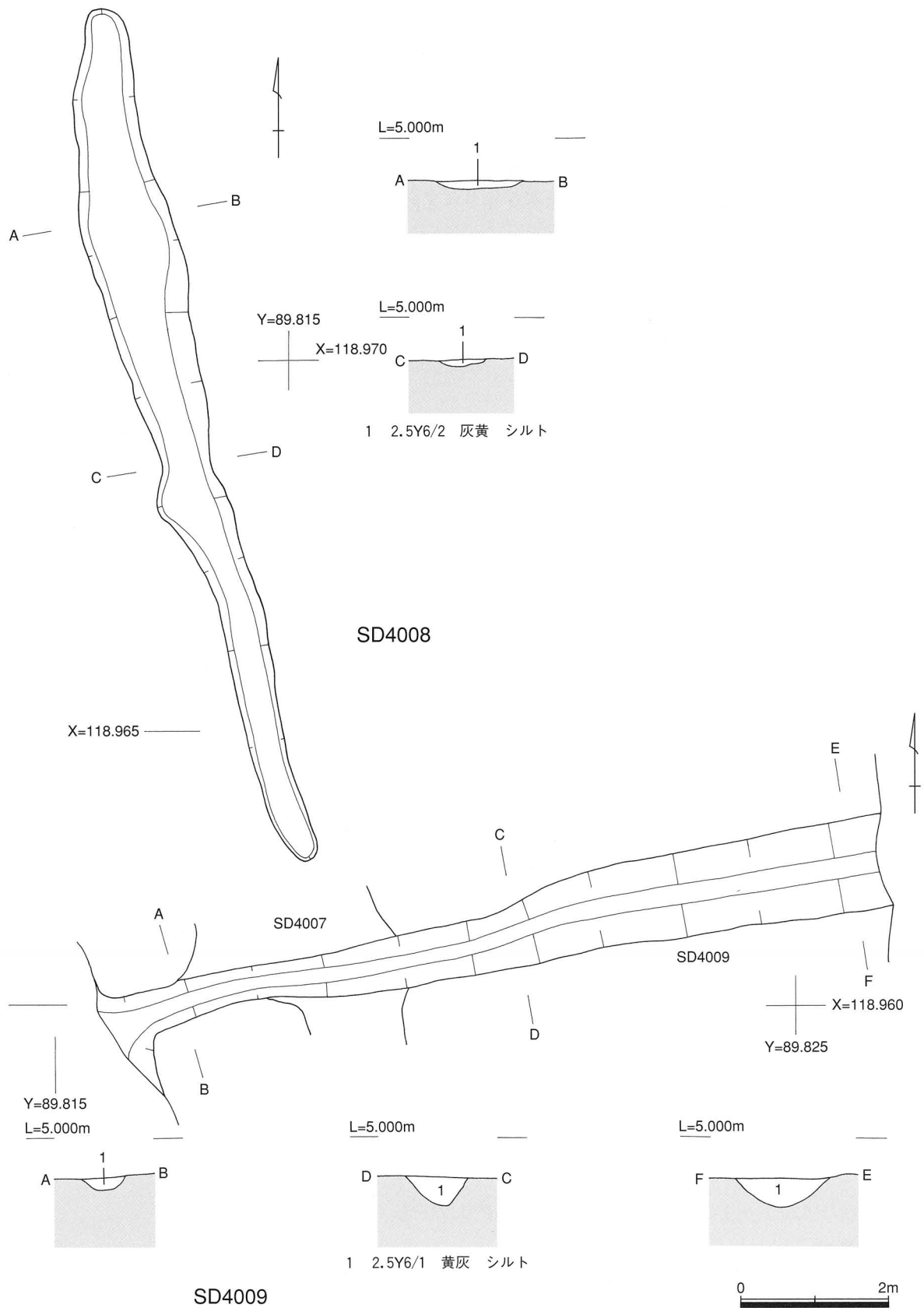
大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド L、M-4~6に位置する。

規模と形状

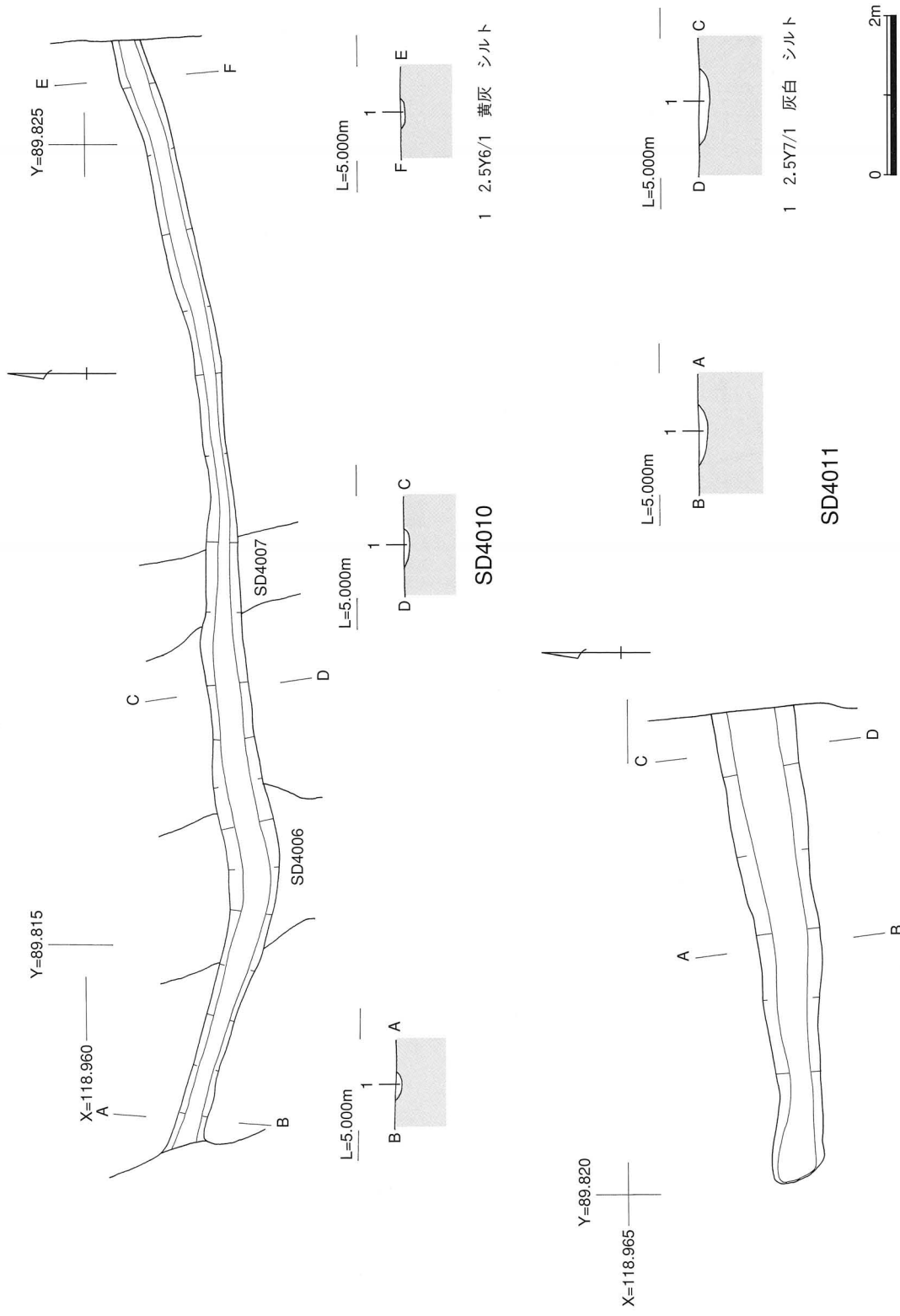
検出長10.20m、最大幅1.25m、最大深度0.40mの溝である。N-77°-Eを軸とした直線状を呈する。

土層

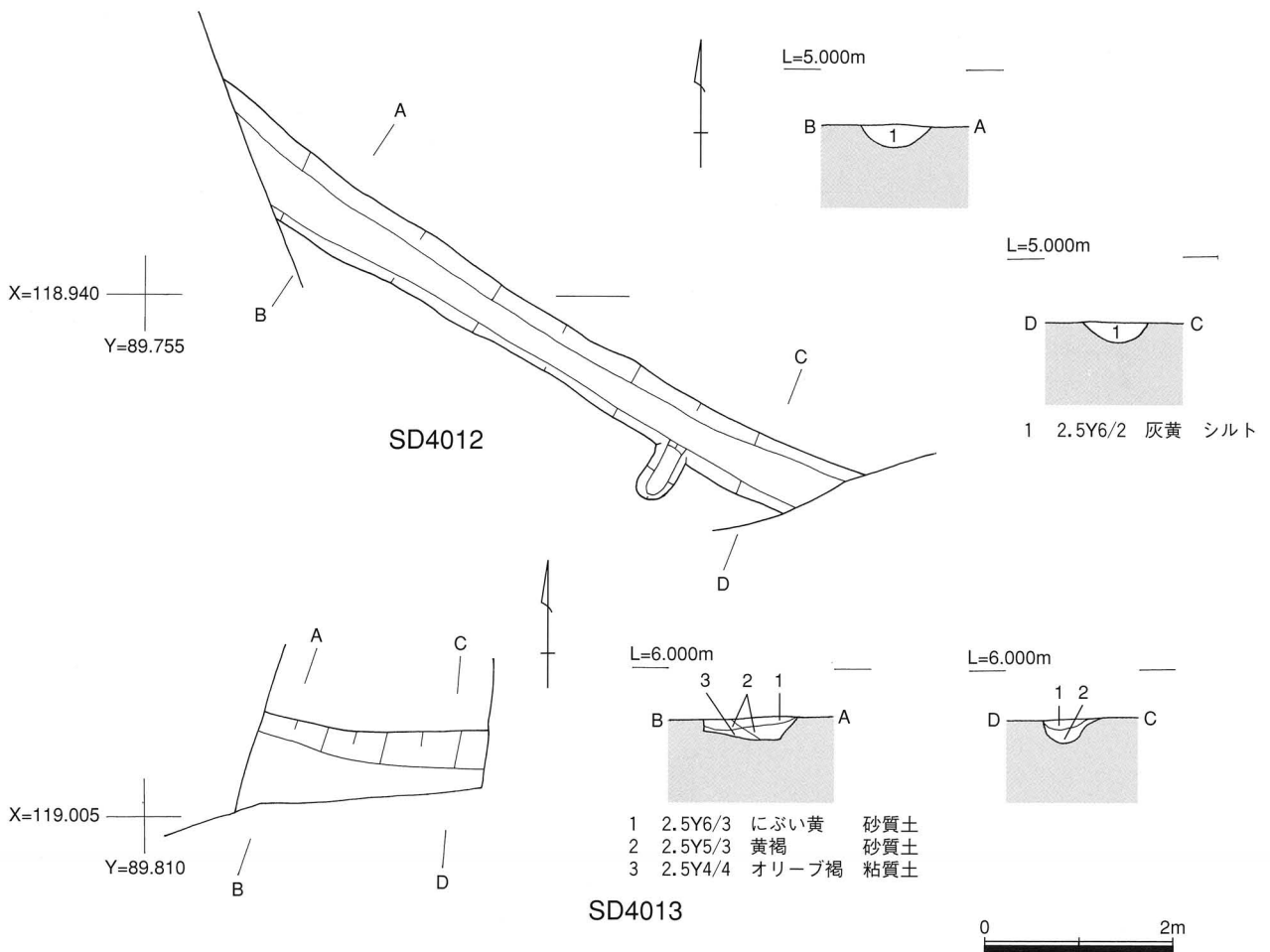
遺構の堆積土は黄灰色を呈するシルトによる単一層である。



第40図 北区 (1999・2001年度) SD4008・SD4009平・断面図



第41図 北区 (1999・2001年度) SD4010・SD4011平・断面図



第42図 北区（1999・2001年度）SD4012・SD4013平・断面図

溝（SD4010）（第41図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド L-3～6 に位置する。

規模と形状

検出長13.80m、最大幅0.50m、最大深度0.07m の溝である。東西方向で中央部が南側に張り出した弧状を呈する。

土層

遺構の堆積土は黄灰色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD4011）（第41図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド M-5、6 に位置する。

規模と形状

検出長5.80m、最大幅1.00m、最大深度0.10m の溝である。検出長が短い、N-83°-E を軸とした直線状を呈する。

土層

遺構の堆積土は灰白色を呈するシルトによる単一層である。

溝 (SD4012) (第42図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-Ⅲ、小グリッド H、I-12、13に位置する。

規模と形状

検出長7.00m、最大幅0.75m、最大深度0.25mの溝である。検出長は短いですが、N-60°-Wを軸とした直線状を呈する。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

溝 (SD4013) (第42図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-Ⅳ、小グリッド B-3、4に位置する。

規模と形状

検出長2.60m、最大幅1.00m、最大深度0.25mの溝である。

土層

A-Bは2層に分層した。1層は、にぶい黄色を呈する砂質土層である。2層は黄色を呈する砂質土層である。

C-Dは3層に分層した。1層は、にぶい黄色を呈する砂質土層である。2層は黄褐色を呈する砂質土層である。3層はオリーブ褐色を呈する粘質土層である。

溝 (SD4014) (第43図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-Ⅳ、小グリッド T、A-1～5に位置する。

規模と形状

検出長12.20m、最大幅0.70m、最大深度0.25mの溝である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

溝 (SD4015) (第44図)

位置

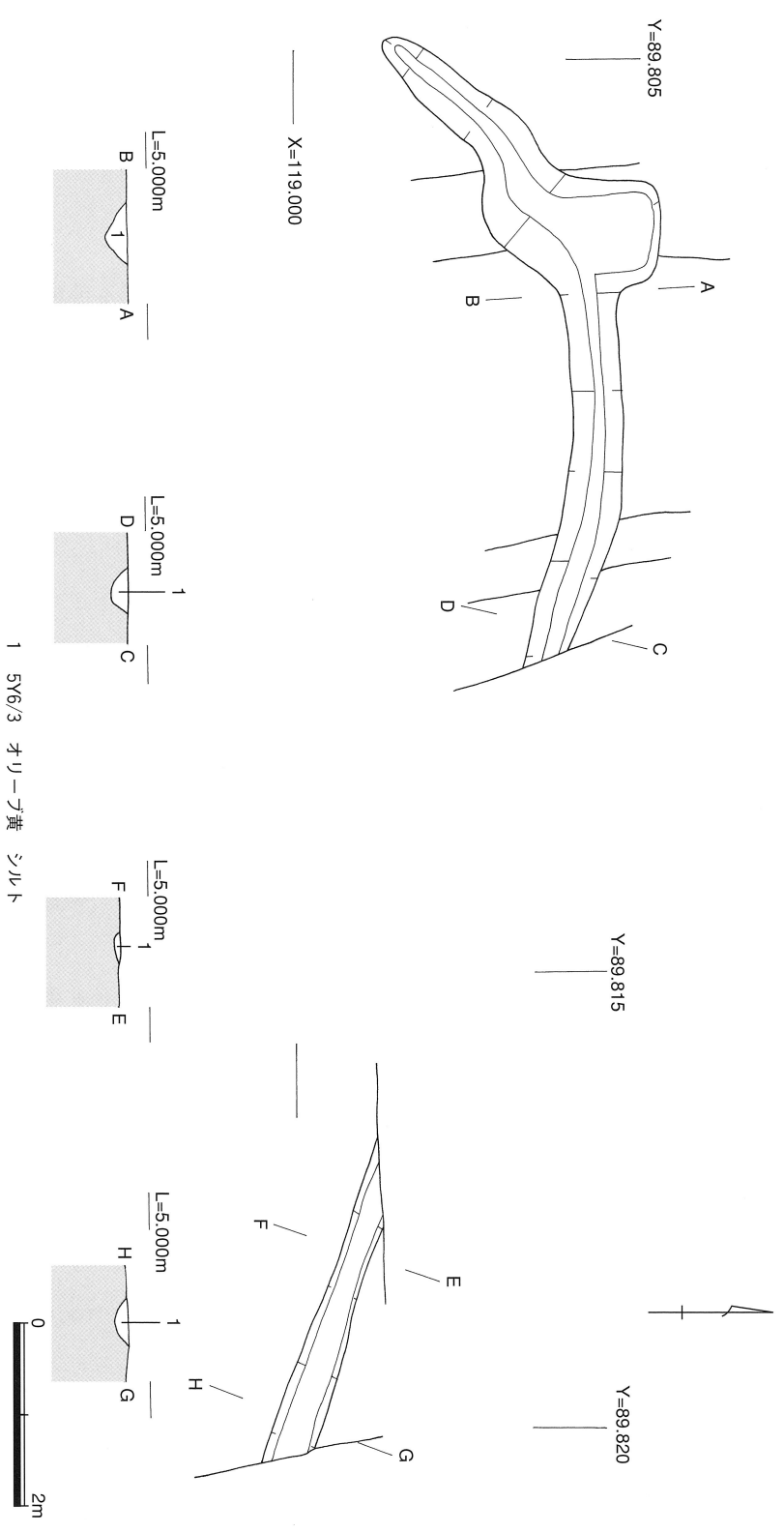
大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-Ⅳ、小グリッド R～A-3に位置する。

規模と形状

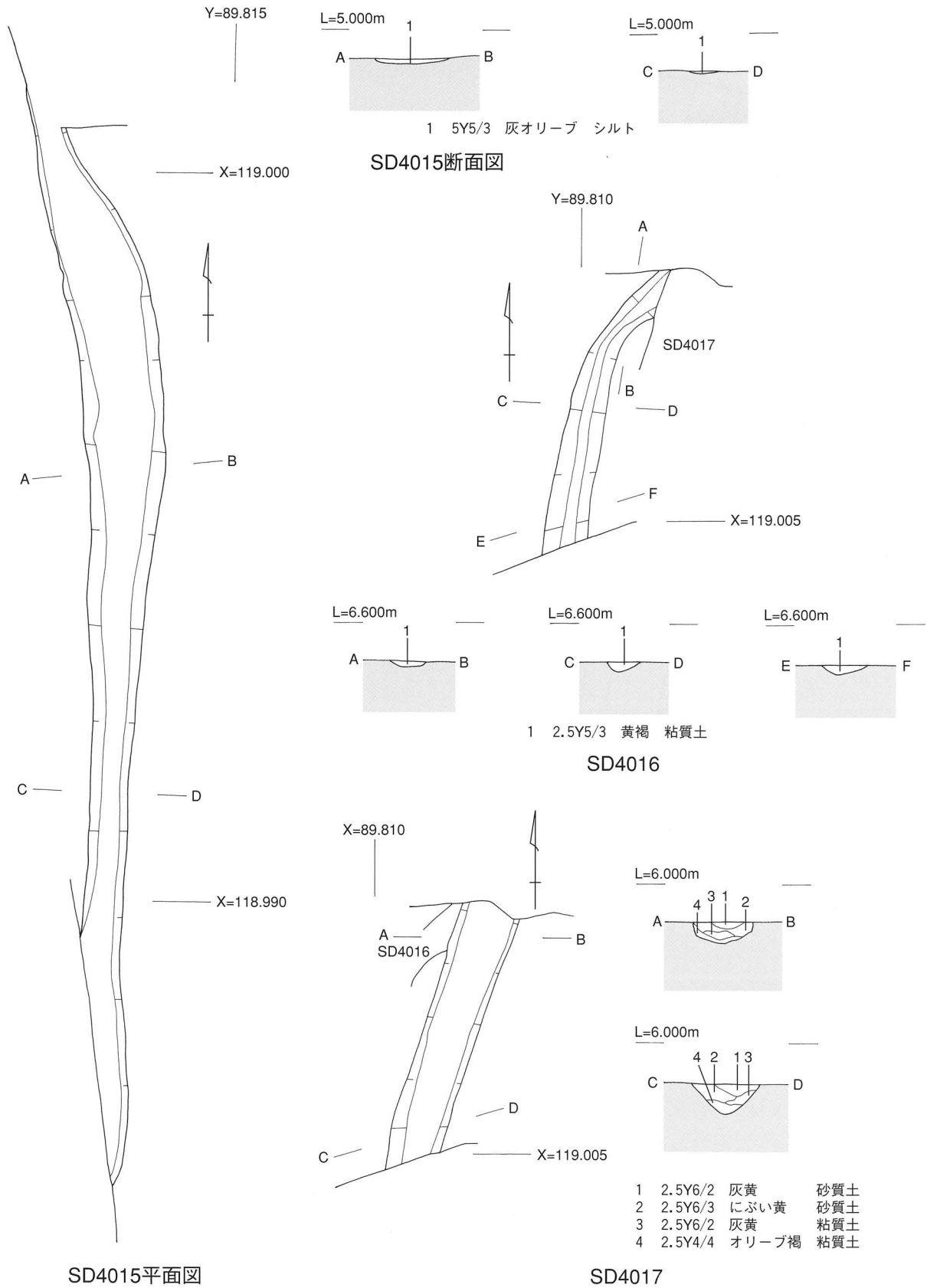
検出長13.40m、最大幅1.05m、最大深度0.05mの溝である。

土層

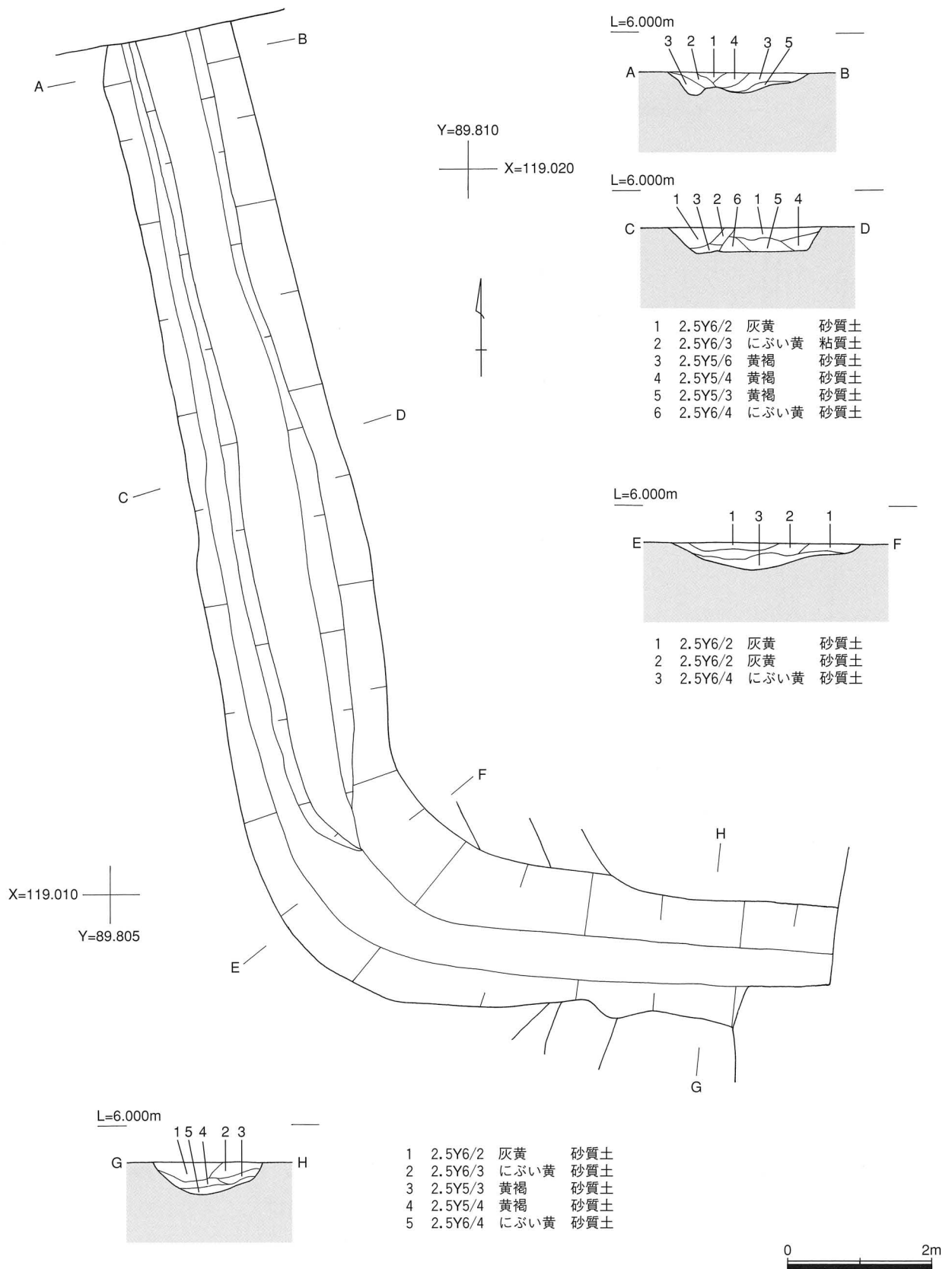
遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。



第43図 北区 (1999・2001年度) SD4014平・断面図



第44図 北区 (1999・2001年度) SD4015・SD4016・SD4017平・断面図



第45図 北区（1999・2001年度）SD4018平・断面図

溝 (SD4016) (第44図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド B、C-3 に位置する。

規模と形状

検出長4.20m、最大幅0.55m、最大深度0.15m の溝である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈する粘質土による単一層である。

溝 (SD4017) (第44図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド B、C-3 に位置する。

規模と形状

検出長3.80m、最大幅0.95m、最大深度0.40m の溝である。

土層

A-B、C-D は4層に分層した。1層は灰黄色を呈する砂質土層である。2層はにぶい黄色を呈する砂質土層である。3層は灰黄色を呈する粘質土層である。4層はオリーブ褐色を呈する粘質土層である。

溝 (SD4018) (第45図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド C~F-2~4 に位置する。

規模と形状

検出長20.20m、最大幅2.65m、最大深度0.45m の溝で、「L」字状を呈する。北半部は N-12°-W を軸とした直線状を呈する。

土層

A-B は5層に分層した。1層は灰黄色を呈する砂質土層である。2層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。3層~5層は黄褐色を呈する砂質土層である。

C-D は6層に分層した。1層は灰黄色を呈する砂質土層である。2層は、にぶい黄色を呈する粘質土層である。3層~5層は黄褐色を呈する砂質土層である。6層は、にぶい黄色を呈する砂質土層である。

E-F は3層に分層した。1層、2層は灰黄色を呈する砂質土層である。3層は、にぶい黄色を呈する砂質土層である。

G-H は6層に分層した。1層は灰黄色を呈する砂質土層である。2層は、にぶい黄色を呈する砂質土層である。3層、4層は黄褐色を呈する砂質土層である。5層は、にぶい黄色を呈する砂質土層である。

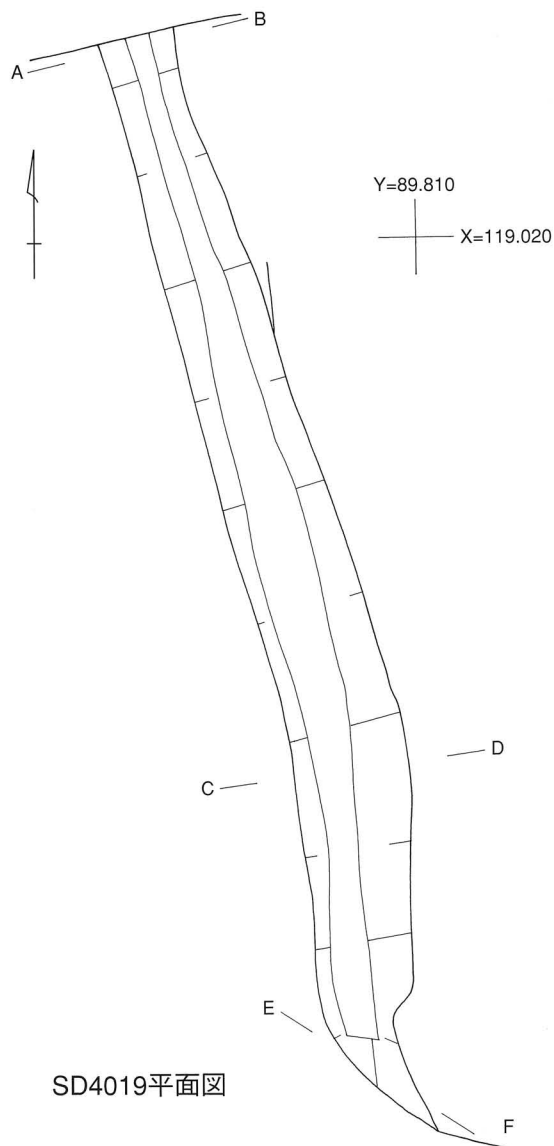
溝 (SD4019) (第46図)

位置

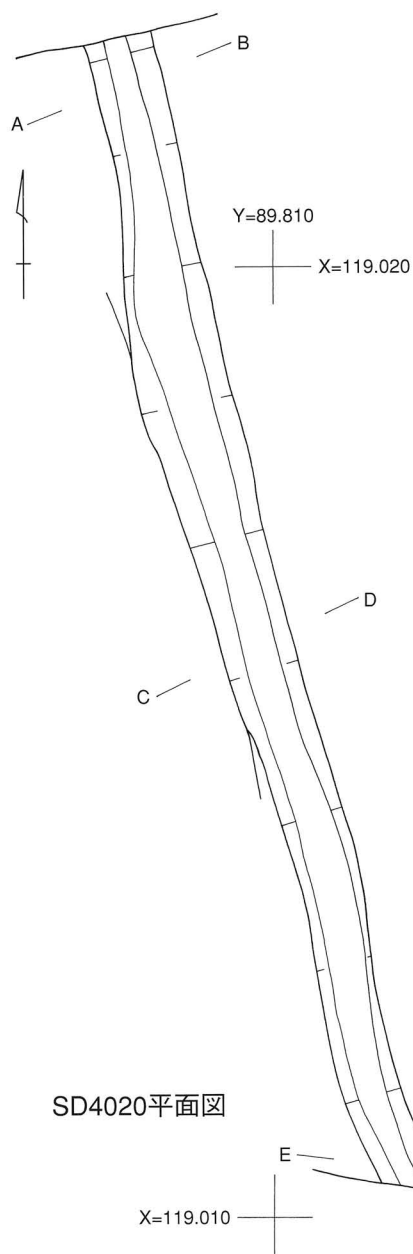
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド C~E-2、3 に位置する。

規模と形状

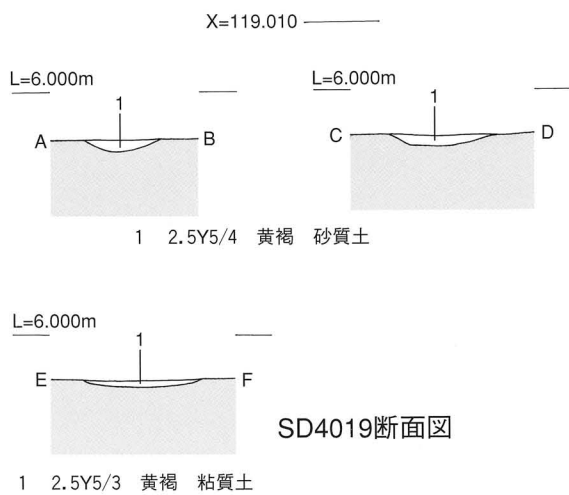
検出長12.00m、最大幅0.70m、最大深度0.30m の溝である。SD4018に隣接し、N-12°-W を軸と



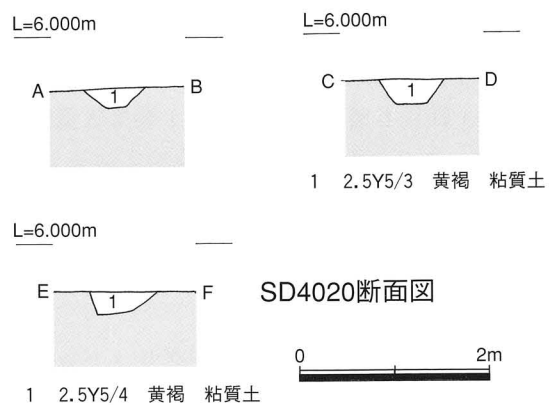
SD4019平面図



SD4020平面図



SD4019断面図



SD4020断面図



第46図 北区 (1999・2001年度) SD4019・SD4020平・断面図

している。

土層

A-B、C-Dの堆積土は黄褐色を呈する砂質土による単一層である。

E-Fの堆積土は黄褐色を呈する粘質土による単一層である。

溝 (SD4020) (第46図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド C~E-3に位置する。

規模と形状

検出長12.60m、最大幅1.20m、最大深度0.10mの溝状である。SD4019に隣接して平行に掘られている。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈する粘質土による単一層である。

水田跡 (SI4001) (第34図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -III、IV、小グリッド O~A-18~13に位置する。

規模と形状

検出長13.40m、最大幅5.20mの不定形である。

水田跡 (SI4002) (第34、47図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A、B-17~20に位置する。

規模と形状

検出長6.80m、最大幅1.80mの不定形である。

出土遺物・時期

土器は5点を図化した。25~27は土師器の杯である。28は土師器の皿である。25、28は赤色塗彩が施される。29は土師器の底部の破片で、外面に刻書がある。時期は奈良~平安時代である。

水田跡 (SI4003) (第34、47図)

位置

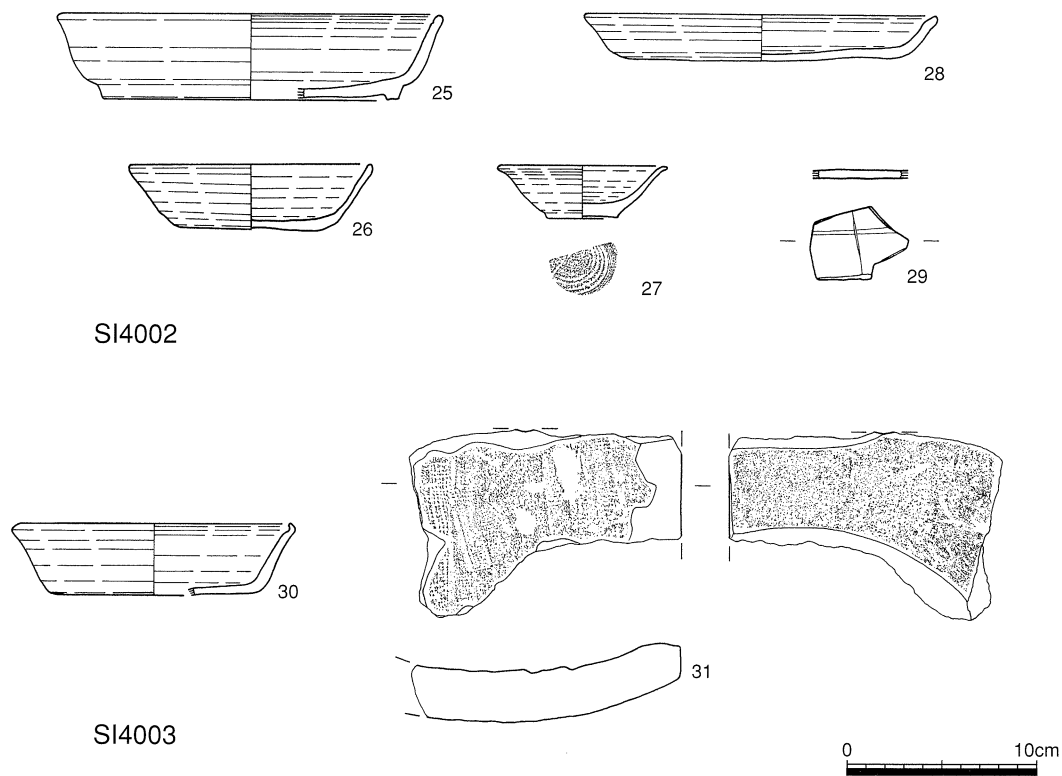
大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -III、IV、小グリッド B~T-15~1に位置する。

規模と形状

検出長15.40m、最大幅0.20mの不定形である。

出土遺物・時期

30は土師器の杯である。31は平瓦である。時期は奈良~平安時代である。



第47図 北区（1999・2001年度）SI4002・SI4003出土遺物

水田跡（SI4004）（第34図）

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-Ⅲ、小グリッド B~R-13~20に位置する。

規模と形状

検出長16.40m、最大幅1.40m の不定形である。

水田跡（SI4005）（第34図）

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-Ⅲ、小グリッド B~P-12~20に位置する。

規模と形状

検出長22.60m、最大幅2.40m の不定形である。

水田跡（SI4006）（第34図）

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-Ⅲ、Ⅳ、小グリッド B~N-11~3に位置する。

規模と形状

検出長34.00m、最大幅2.00m の不定形である。

水田跡 (SI4007) (第34図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ϵ 、 α -Ⅲ、小グリッド A~P-8~17に位置する。

規模と形状

検出長17.00m、最大幅5.80mの不定形である。

水田跡 (SI4008) (第34図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -Ⅳ、小グリッド S~N-3~6に位置する。

規模と形状

検出長10.60m、最大幅1.40mの不定形である。

水田跡 (SI4009) (第34図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -Ⅲ、小グリッド P~J-16~4に位置する。

規模と形状

検出長22.40m、最大幅2.40mの不定形である。

水田跡 (SI4010) (第34図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -Ⅳ、小グリッド R~O-5~6に位置する。

規模と形状

検出長4.60m、最大幅0.10mの不定形である。

土坑 (SK4001) (第48図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -Ⅲ、小グリッド T-13に位置する。

規模と形状

検出長1.24m、最大幅1.20m、最大深度0.12mの円形である。

土層

遺構の堆積土は黄灰色を呈するシルトによる単一層である。

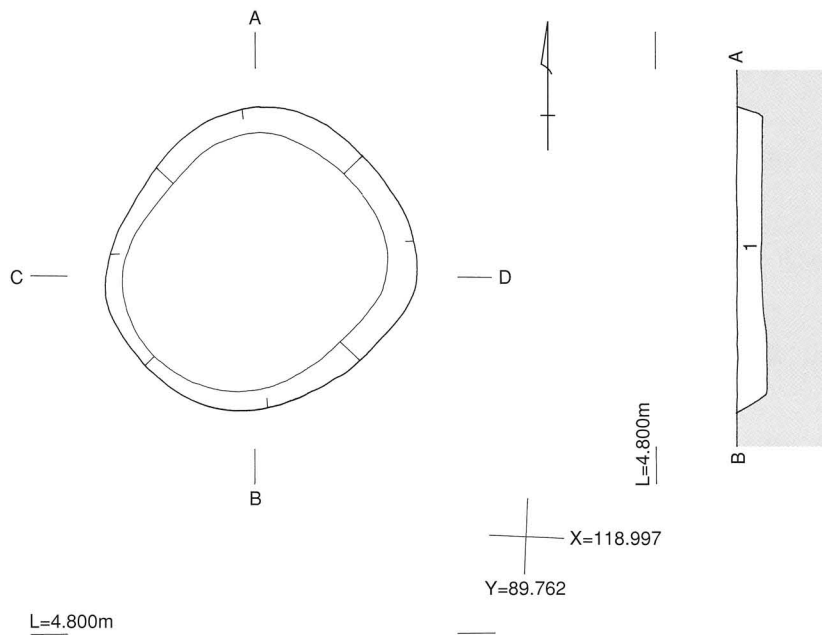
土坑 (SK4002) (第48図)

位置

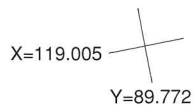
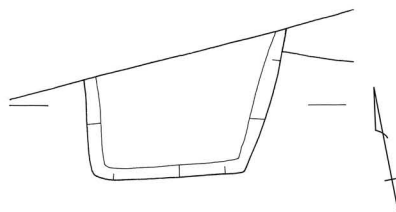
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -Ⅲ、小グリッド B-15に位置する。

規模と形状

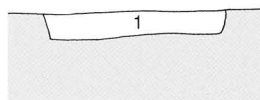
検出長0.74m、最大幅0.53m、最大深度0.10mの台形である。



SK4001



L=4.800m



1 2.5Y5/4 黄褐シルト

SK4002



第48図 北区（1999・2001年度）SK4001・SK4002平・断面図

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑 (SK4003) (第49図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド C、D-4 に位置する。

規模と形状

検出長2.58m、最大幅2.34m、最大深度0.41m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層、2層は灰黄色を呈する粘質土層である。

出土遺物 (第476図)

金属製品の2845と2846は鉄片である。

土坑 (SK4004) (第50図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド B-1 に位置する。

規模と形状

検出長1.94m、最大幅0.74m、最大深度0.30m の逆台形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈する粘質土による単一層である。

柱穴 (SP4001) (第51図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド B-1 に位置する。

規模と形状

検出長0.22m、最大幅0.20m、最大深度0.15m の円形である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄色を呈する粘質土による単一層である。

出土遺物

金属製品の2831は刀の柄である。

柱穴 (SP4002) (第51図)

位置

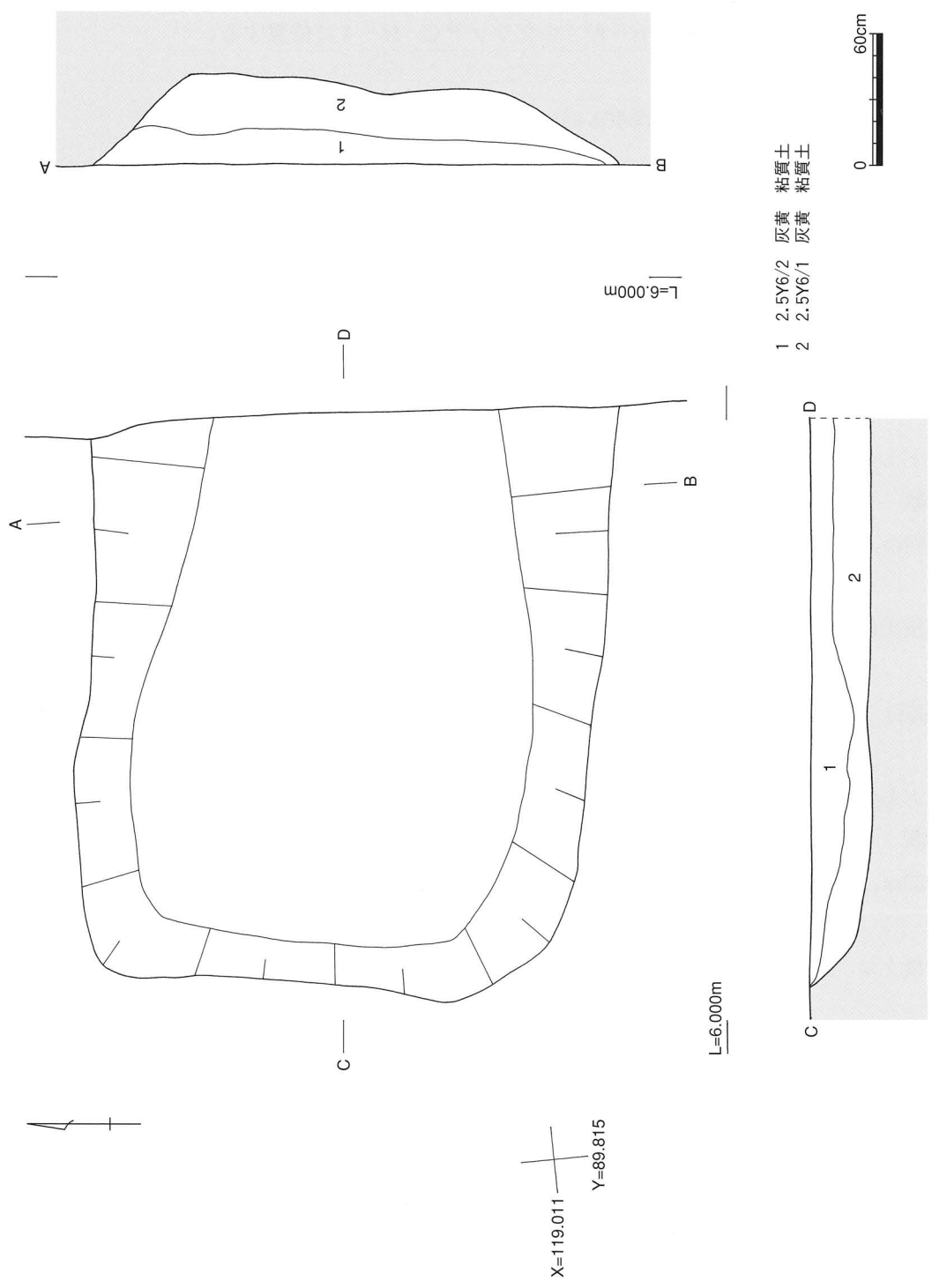
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド C-4 に位置する。

規模と形状

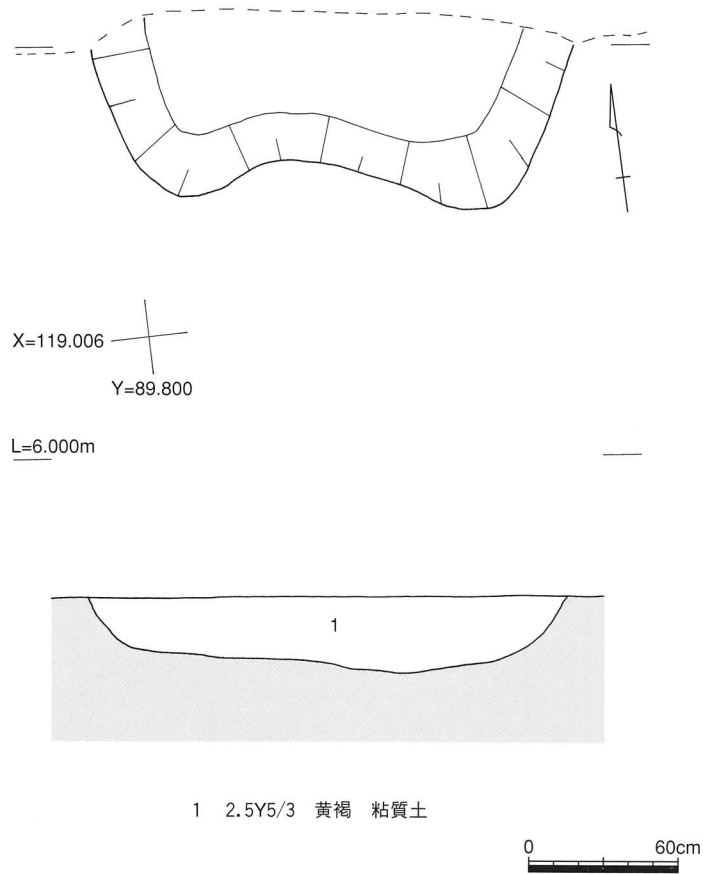
検出長0.21m、最大幅0.20m、最大深度0.11m の円形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈する砂質土による単一層である。



第49图 北区 (1999・2001年度) SK4003平・断面图



第50図 北区（1999・2001年度）SK4004平・断面図

柱穴（SP4003）（第51図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド C-3 に位置する。

規模と形状

検出長0.21m、最大幅0.20m、最大深度0.10m の円形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈する砂質土による単一層である。

柱穴（SP4004）（第51図）

位置

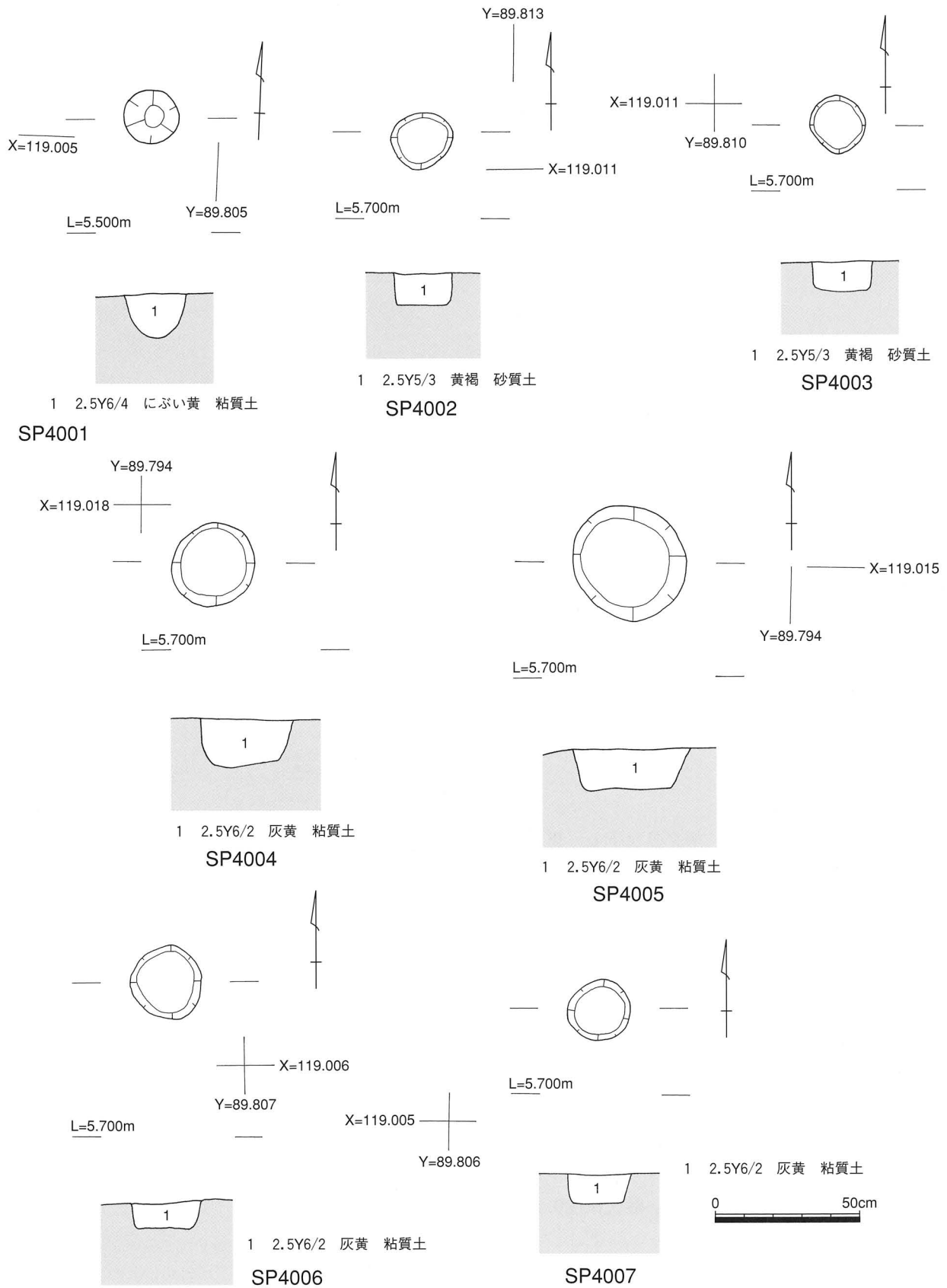
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド E-20 に位置する。

規模と形状

検出長0.30m、最大幅0.29m、最大深度0.17m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈する粘質土による単一層である。



第51図 北区(1999・2001年度) SP4001・SP4002・SP4003・SP4004・SP4005・SP4006・SP4007平・断面図

柱穴 (SP4005) (第51図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド D-20に位置する。

規模と形状

検出長0.40m、最大幅0.40m、最大深度0.14mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈する粘質土による単一層である。

柱穴 (SP4006) (第51図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド B-2に位置する。

規模と形状

検出長0.26m、最大幅0.25m、最大深度0.10mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈する粘質土による単一層である。

柱穴 (SP4007) (第51図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド B-2に位置する。

規模と形状

検出長0.22m、最大幅0.22m、最大深度0.10mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈する粘質土による単一層である。

自然流路 (SR4001) (第34、52、53図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、IV、小グリッド J~P-9~1に位置する。

規模と形状

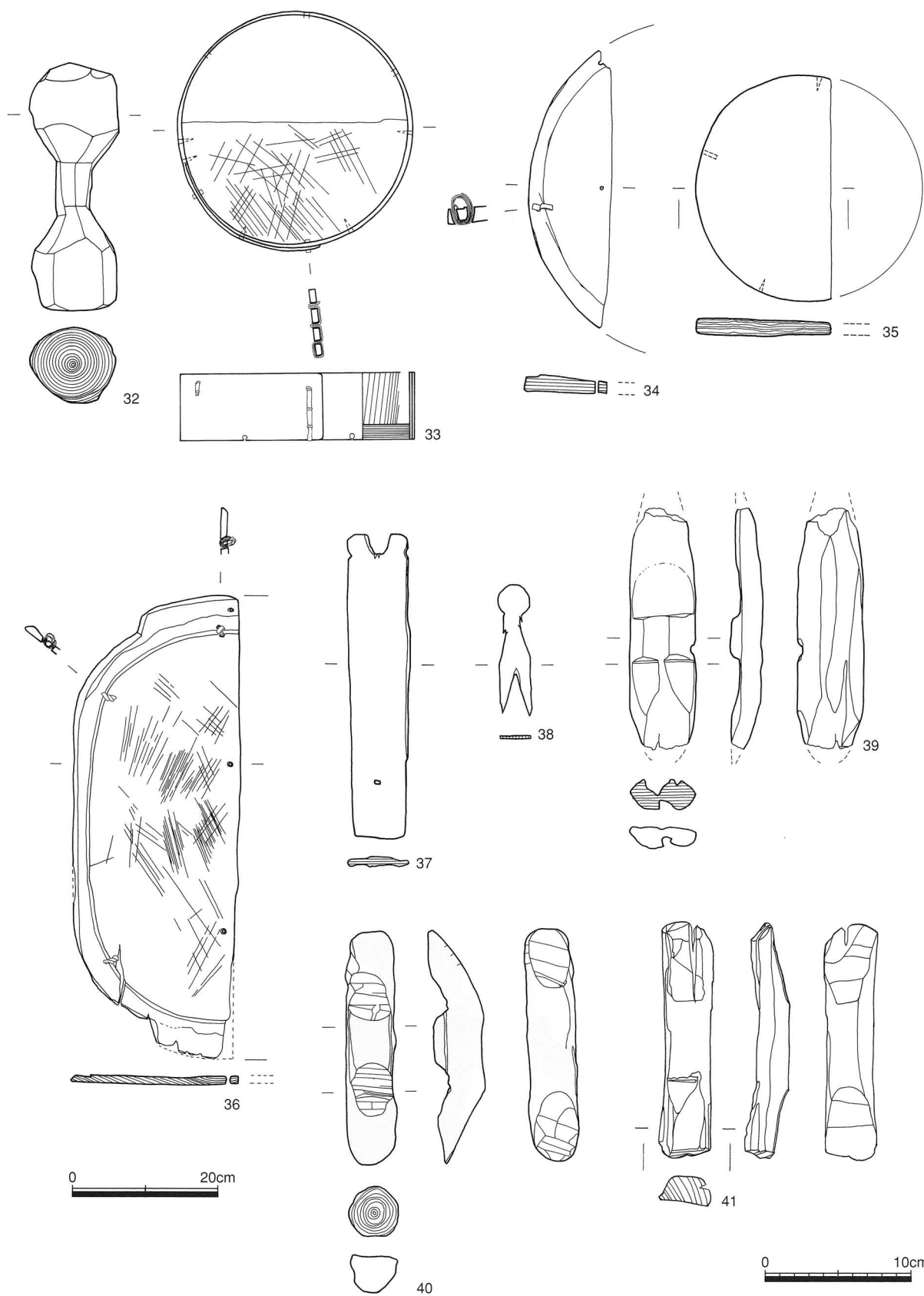
検出長70.00m、最大幅7.00m、最大深度0.40mの直線状を呈する。

土層

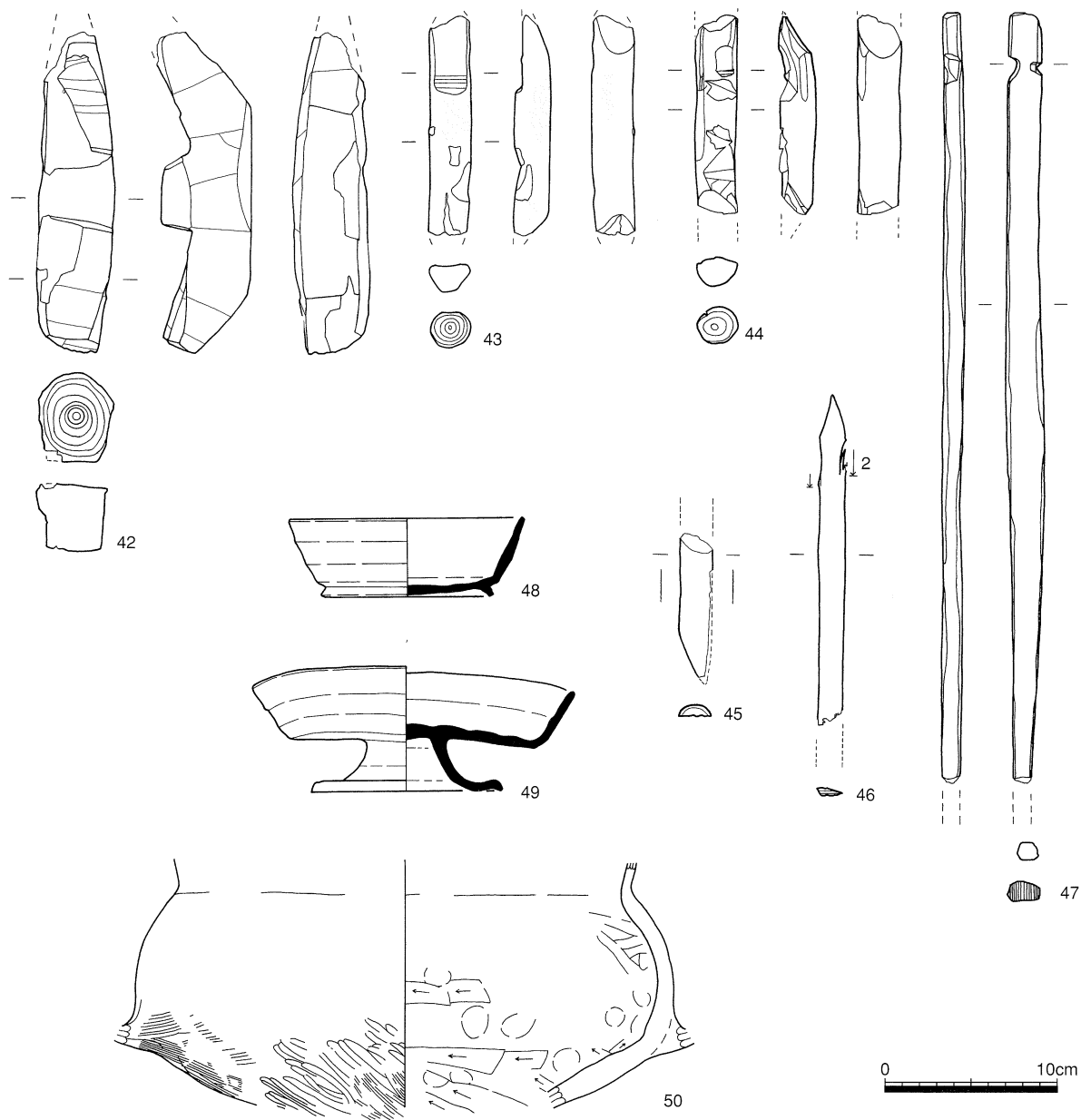
遺構の堆積土は4層に分層した。1層は黄褐色を呈するシルト層。2層は黄灰色を呈する砂質土層。3層は灰色を呈する砂層。4層は黄灰色を呈する砂質土層である。

出土遺物

木製品は16点を図化した。32は木錘である。33~36は曲物である。33は円形曲物の側板と底板が木釘で結合した状態のものである。36は容器の把手付楕円形曲物の底板である。樺皮結合曲物 C 型式で底板に溝が彫られる。内面には刃物傷が多数ある。37は木札である。38は祭祀具の正面全身人形である。頭は丸く、足は V の字に切り込んで成形する。39~44は舟形である。45、46は斎串である。47は部材である。一端の両側に抉りを入れる。48は須恵器の杯である。49は須恵器の高杯である。



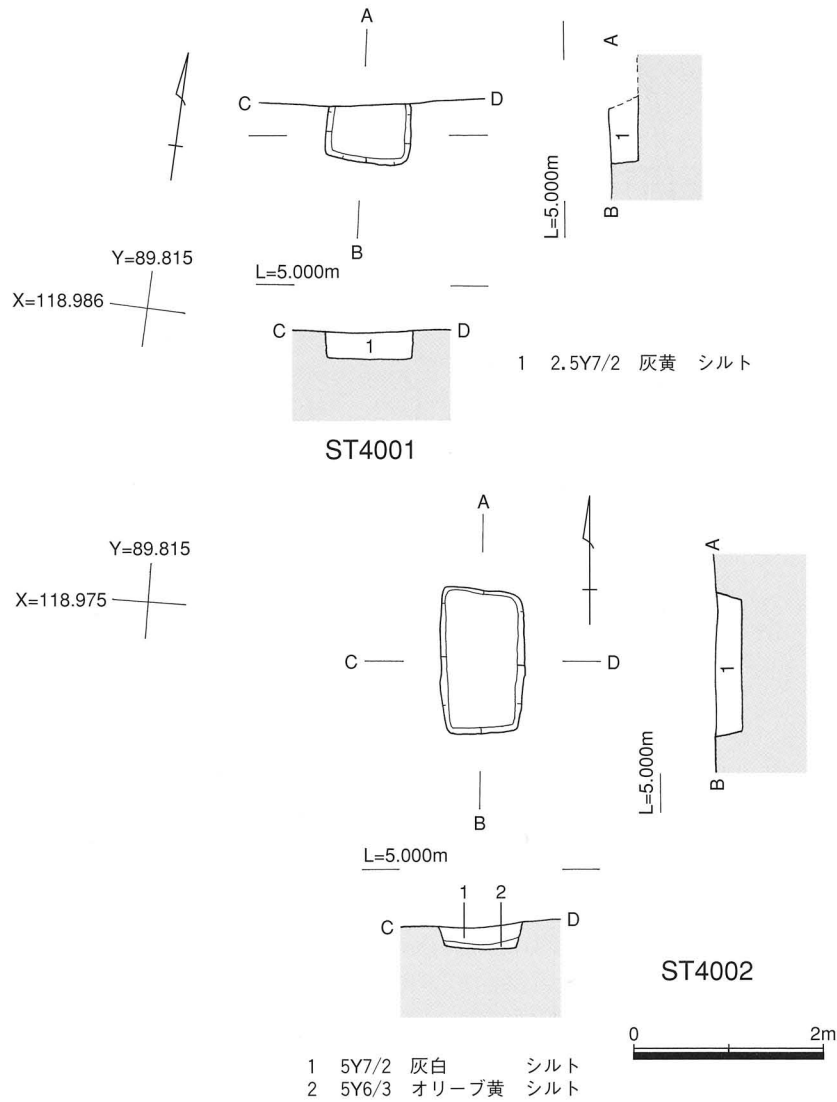
第52図 北区（1999・2001年度）SR4001出土遺物（1）



第53図 北区（1999・2001年度）SR4001出土遺物（2）

時期

古墳時代後期～奈良時代と考えられる。



第54図 北区（1999・2001年度）ST4001・ST4002平・断面図

土壌墓（ST4001）（第54図）

位置

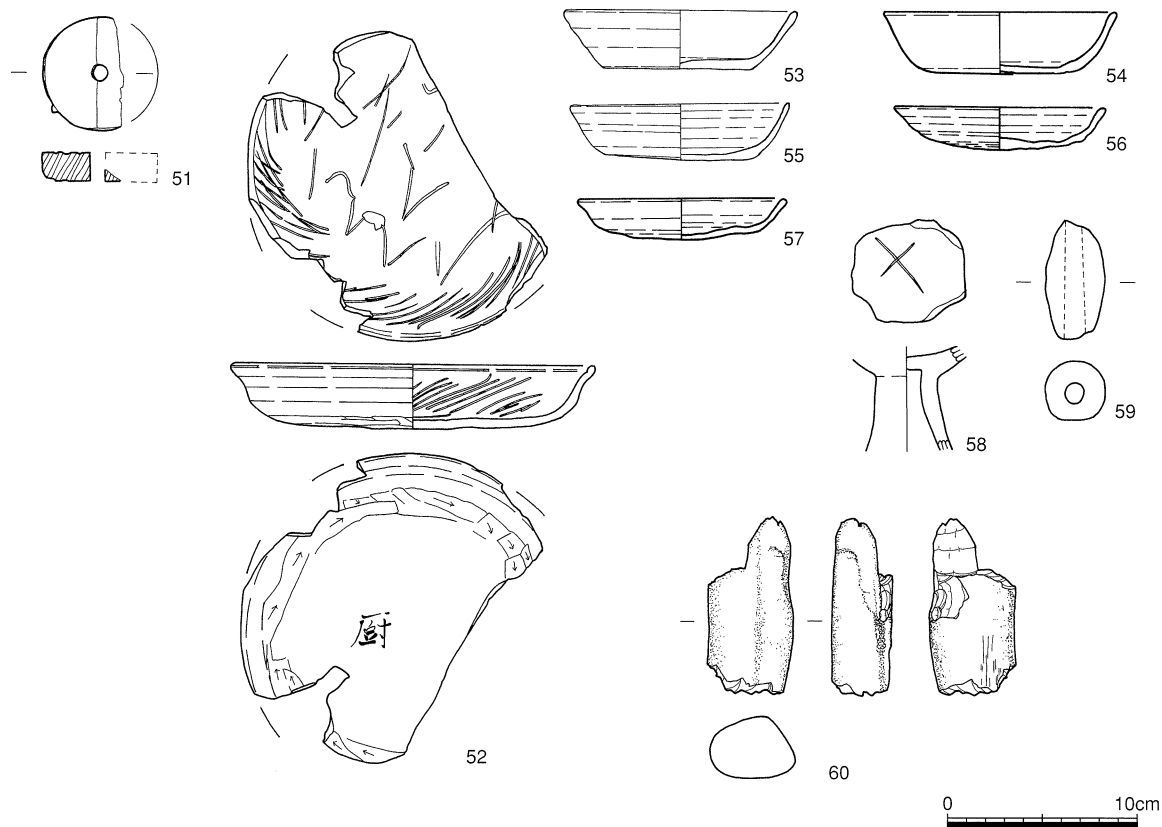
大グリッド Loc.G-1、中グリッド ε-IV、小グリッド Q-4 に位置する。

規模と形状

検出長0.90m、最大幅0.60m、最大深度0.30m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。



第55図 北区（1999・2001年度）第4包含層出土遺物

土壌墓（ST4002）（第54図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド ε-IV、小グリッド O-4 に位置する。

規模と形状

検出長1.54m、最大幅0.90m、最大深度0.26m の長方形である。

土層

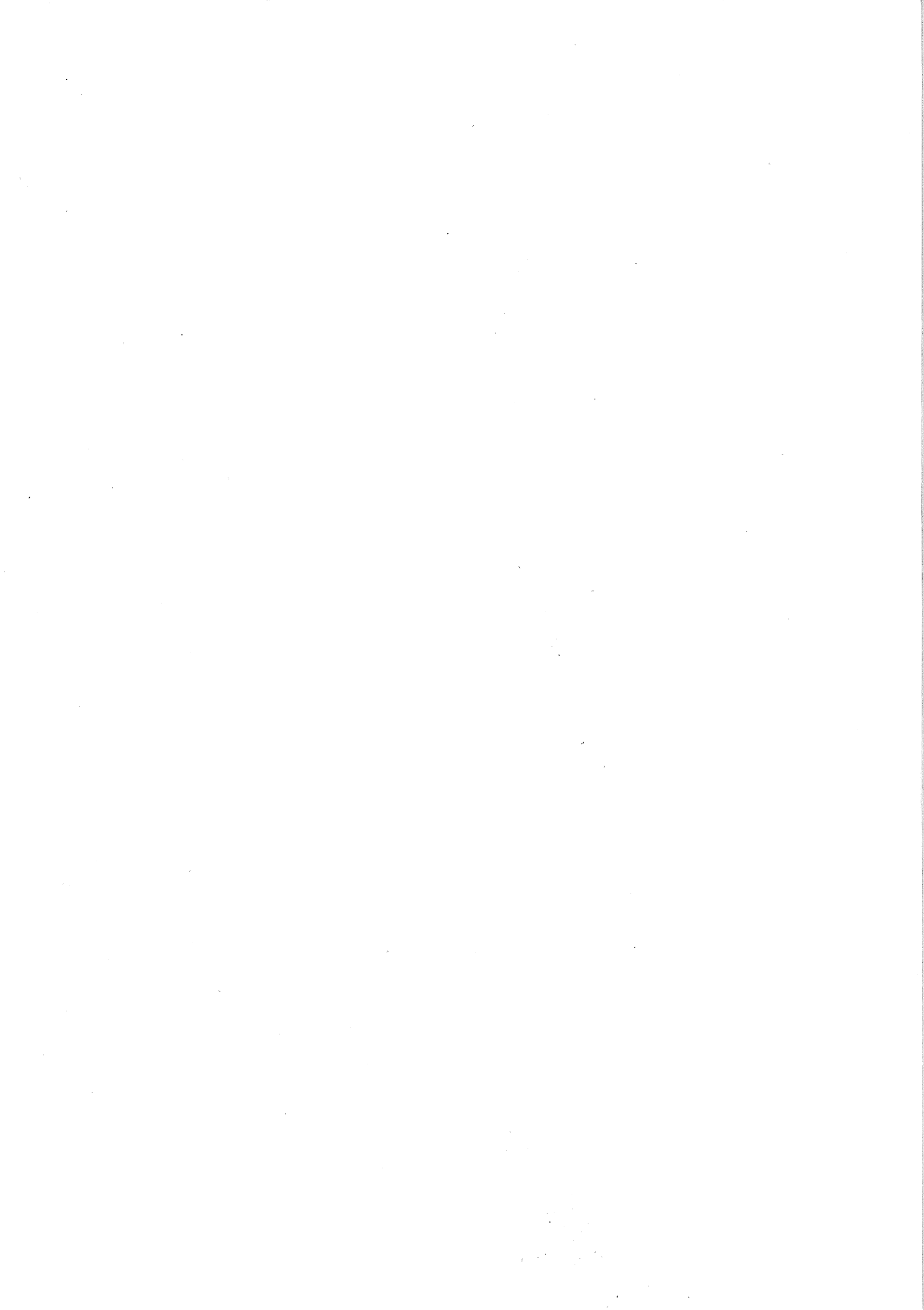
遺構の堆積土は2層に分層した。1層は灰白色を呈するシルト層。2層はオリーブ黄色を呈するシルト層である。

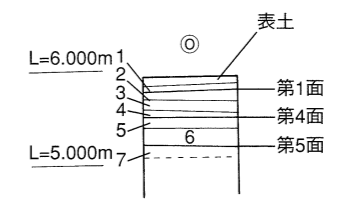
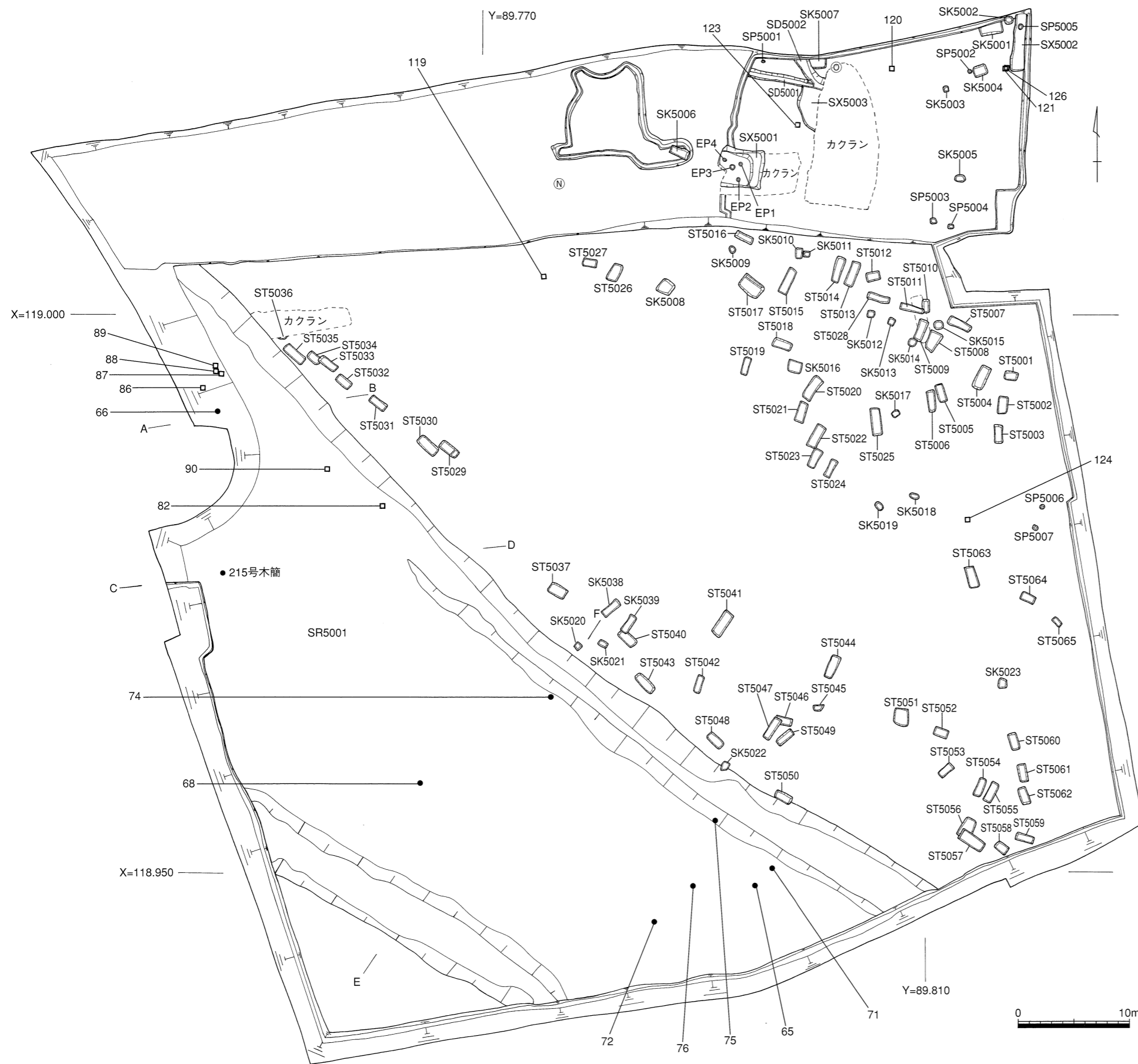
第4包含層出土遺物（第55図）

51は木製紡織具の紡輪である。トガサワラという樹種が使用されている。トガサワラは分布範囲が狭く、現在の四国では「魚梁瀬（やなせ）」にのみ確認されている。52～55は土師器の杯である。52は底部外面の中央やや左寄りに「厨」の墨書がある。56、57は土師器の皿である。58は土師器の高坏で、杯部の底部内面にヘラ記号がある。59は土錘である。60は敲石の破片である。

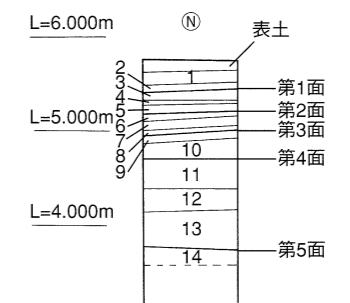
時期

奈良～平安時代である。





1	2.5Y6/1	黄灰	シルト
2	2.5Y6/3	にぶい黄	シルト
3	5Y5/2	灰オリーブ	シルト
4	2.5Y7/3	浅黄	シルト
5	2.5Y5/3	黄褐	砂質土
6	2.5Y5/4	黄褐	砂質土
7	2.5Y5/4	黄褐	砂質土



1	2.5Y6/1	黄灰	シルト
2	2.5Y6/1	黄灰	シルト
3	2.5Y6/3	にぶい黄	シルト
4	2.5Y6/6	黄灰	シルト
5	2.5Y6/2	灰黄	シルト
6	2.5Y6/4	にぶい黄	シルト
7	5Y6/2	灰オリーブ	シルト
8	5Y6/2	灰オリーブ	シルト
9	5Y6/1	黄灰	シルト
10	5Y6/2	灰黄	シルト
11	2.5Y6/3	にぶい黄	シルト
12	2.5Y6/3	にぶい黄	シルト
13	5Y6/3	オリーブ黄	シルト
14	2.5Y5/4	黄褐	シルト

土層柱状図



第56図 北区（1999・2001年度）第5遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図・土層柱状図

(5) 第5遺構面

溝 (SD5001) (第57図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド E-20に位置する。

規模と形状

検出長5.90m、最大幅0.65m、最大深度0.25mの溝で、N-101°-Eを軸とした直線状を呈する。

土層

A-B、C-D、E-Fは4層に分層した。1層～3層は黄褐色を呈する砂質土層である。4層はオリーブ褐色を呈する砂質土層である。

溝 (SD5002) (第57図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド E-20に位置する。

規模と形状

検出長3.10m、最大幅0.95m、最大深度0.25mの溝である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈する砂質土層である。

土坑 (SK5001) (第58図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド F-4に位置する。

規模と形状

検出長2.15m、最大幅7.00m、最大深度0.34mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は5層に分層した。1層～5層は黄褐色を呈する砂質土層である。

出土遺物

61、62は土師器の杯である。61は底部内面からの穿孔がある。

土坑 (SK5002) (第58図)

位置

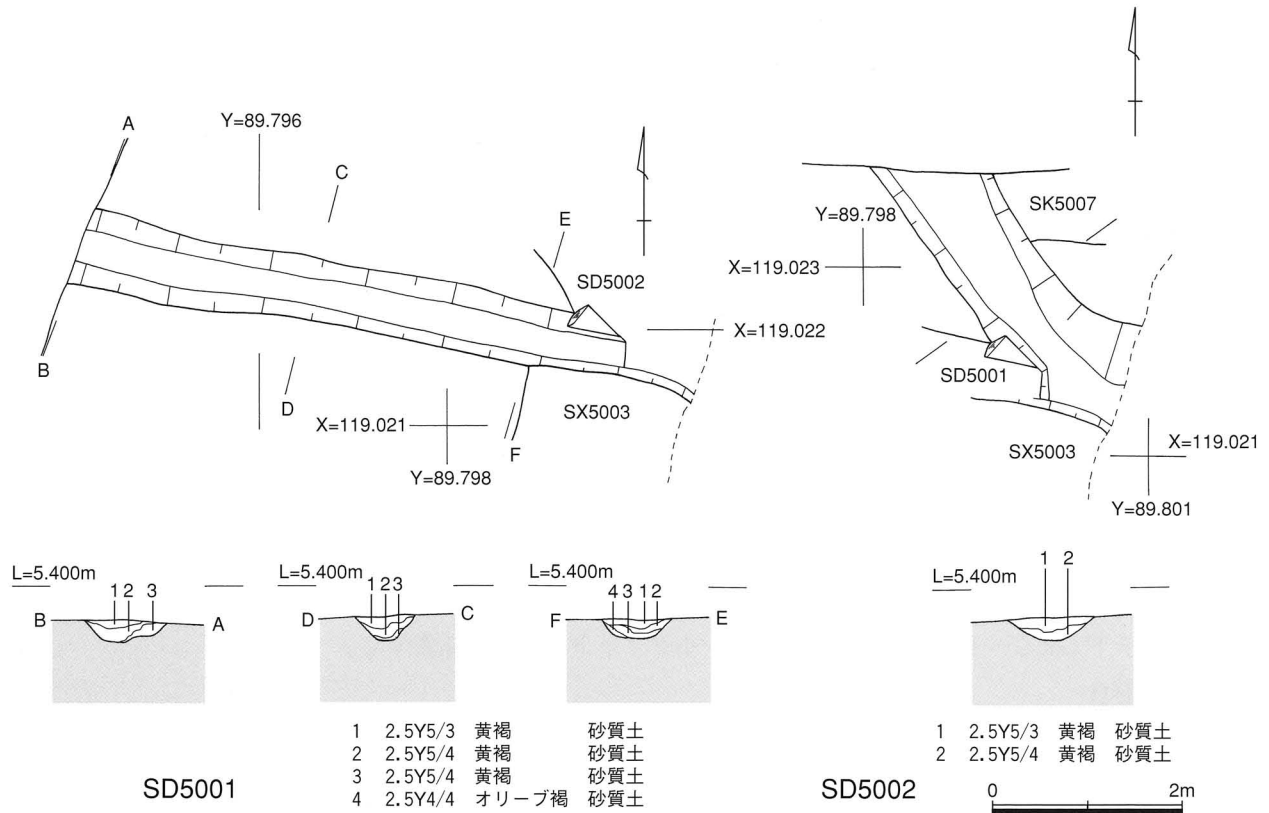
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド F-4に位置する。

規模と形状

検出長0.73m、最大幅0.68m、最大深度0.31mの半楕円形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈する砂質土層である。3層はオリーブ褐色を呈する砂質土層である。



第57図 北区（1999・2001年度）SD5001・SD5002平・断面図

土坑（SK5003）（第58図）

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-IV、小グリッド F-3 に位置する。

規模と形状

検出長0.53m、最大幅0.47m、最大深度0.19m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は黄褐色を呈する砂質土層である。2層はオリーブ褐色を呈する砂質土層である。

土坑（SK5004）（第59図）

位置

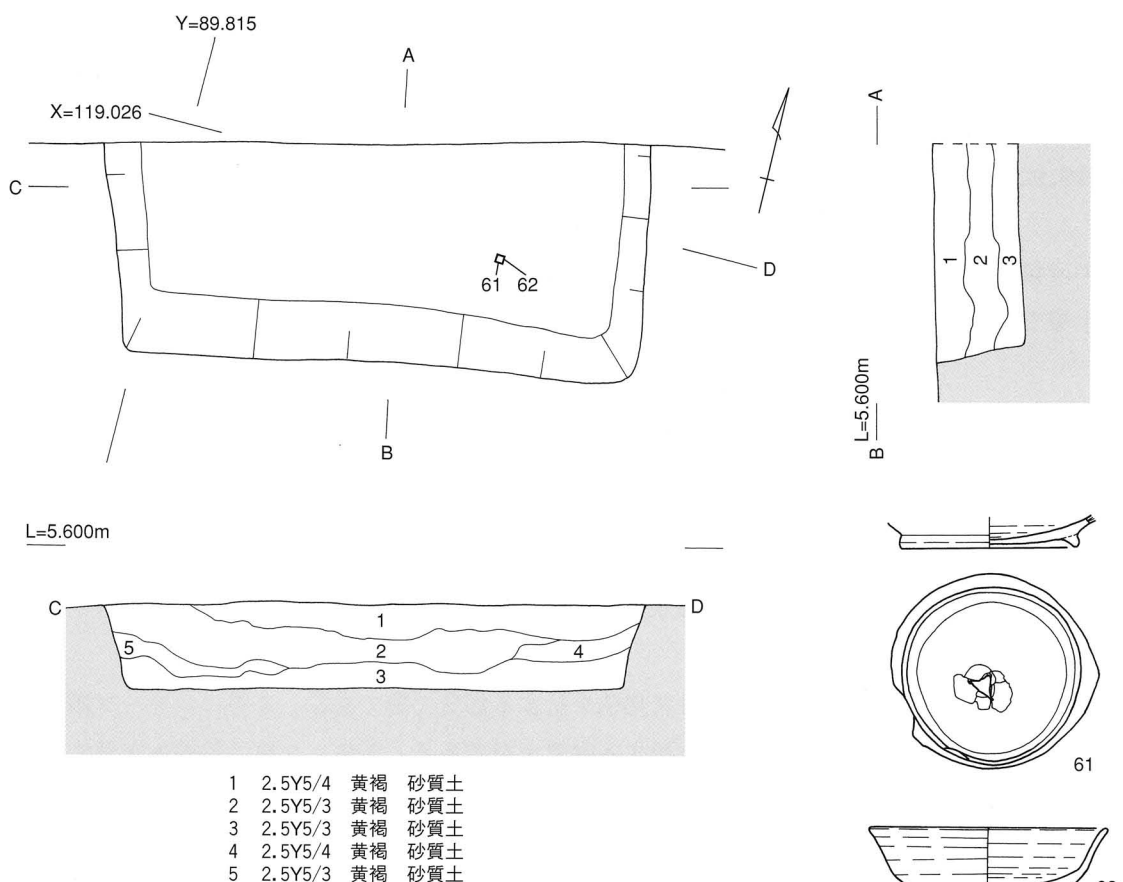
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α-IV、小グリッド E-3 に位置する。

規模と形状

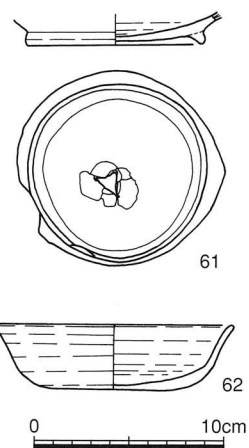
検出長12.80m、最大幅0.95m、最大深度0.25m の長方形である。

土層

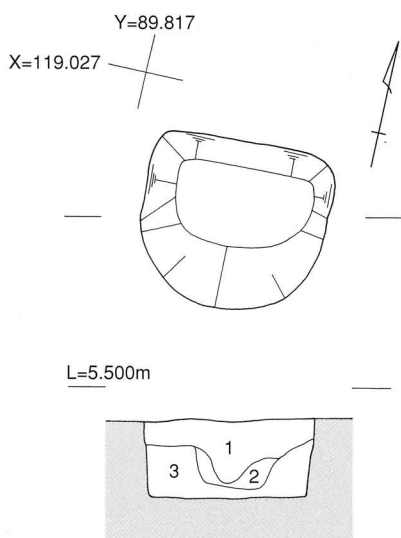
遺構の堆積土は2層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈する砂質土層である。



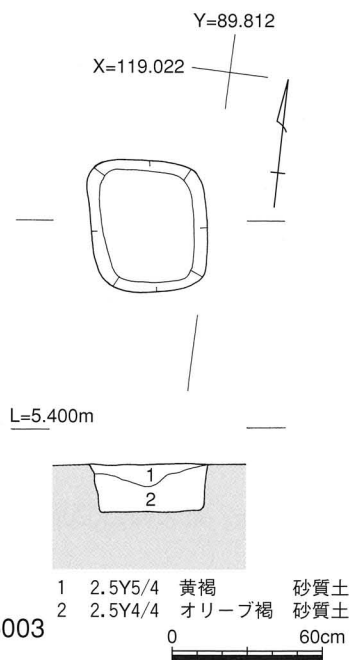
SK5001



SK5001出土遺物



SK5002



SK5003

第58図 北区(1999・2001年度) SK5001・SK5002・SK5003
平・断面図・遺物出土状況ドット図・SK5001出土遺物

土坑 (SK5005) (第59図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド C-3 に位置する。

規模と形状

検出長0.92m、最大幅0.69m、最大深度0.31m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は、にぶい黄色を呈する砂質土層である。2層は黄褐色を呈する砂質土層である。

土坑 (SK5006) (第59図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド C-18 に位置する。

規模と形状

検出長16.80m、最大幅0.78m、最大深度0.48m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は5層に分層した。1層は黄褐色を呈する砂質土層である。2層はオリーブ褐色を呈する砂質土層である。3層は、にぶい黄色を呈する砂質土層である。4層、5層は黄褐色を呈する砂質土層である。

土坑 (SK5007) (第60図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド E-1 に位置する。

規模と形状

検出長17.30m、最大幅0.72m、最大深度0.26m の不定形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は黄褐色を呈する砂質土層である。2層は、にぶい黄色を呈する砂質土層である。3層は黄褐色を呈する砂質土層である。

土坑 (SK5008) (第60図)

位置

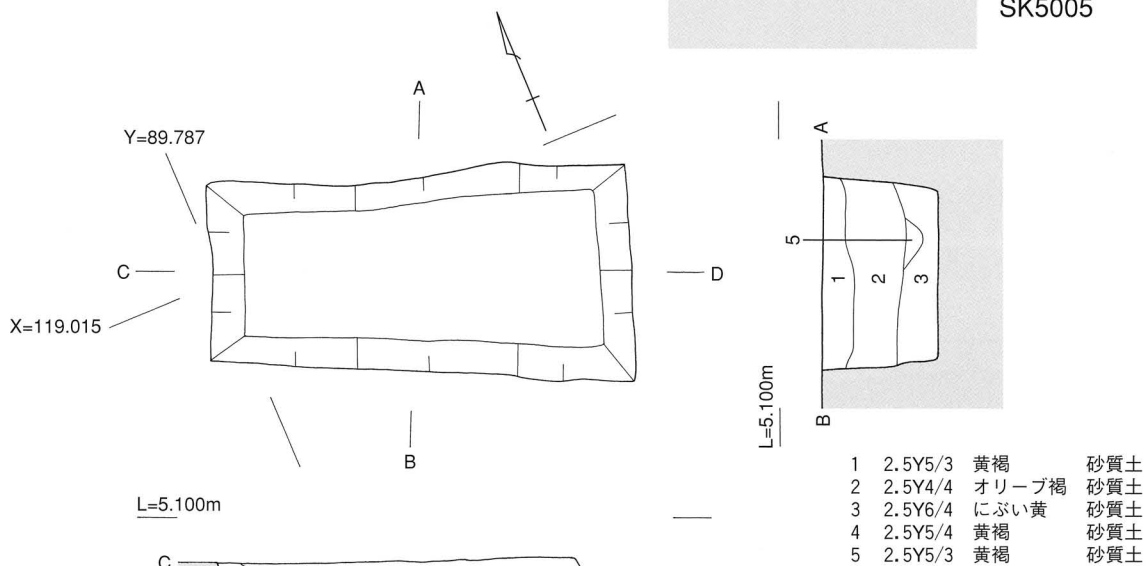
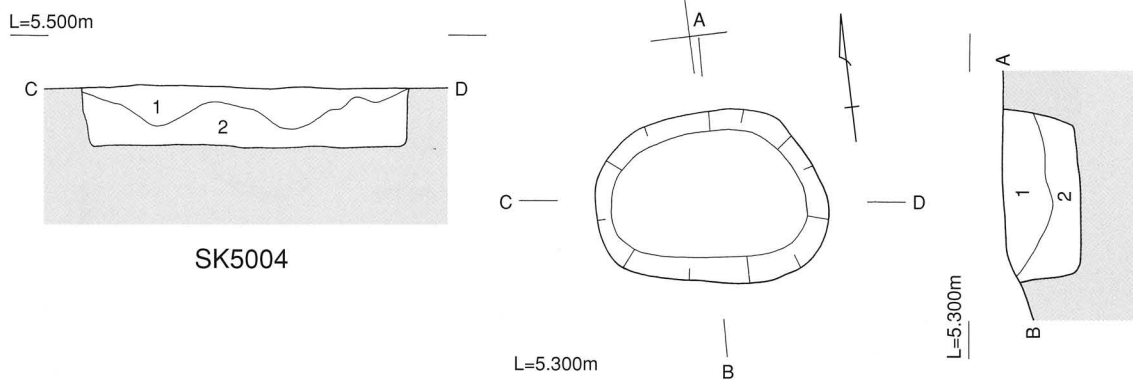
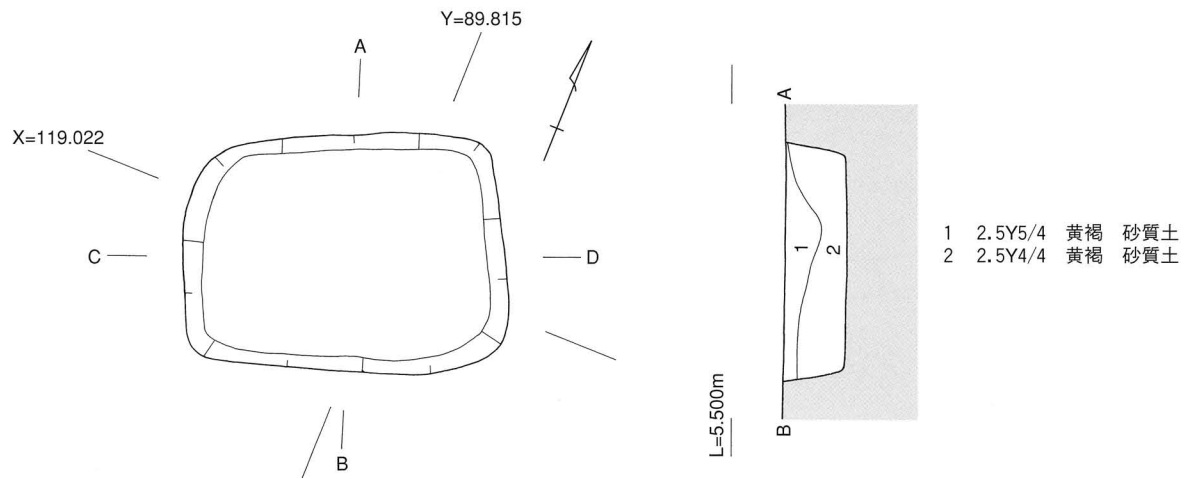
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド A-18 に位置する。

規模と形状

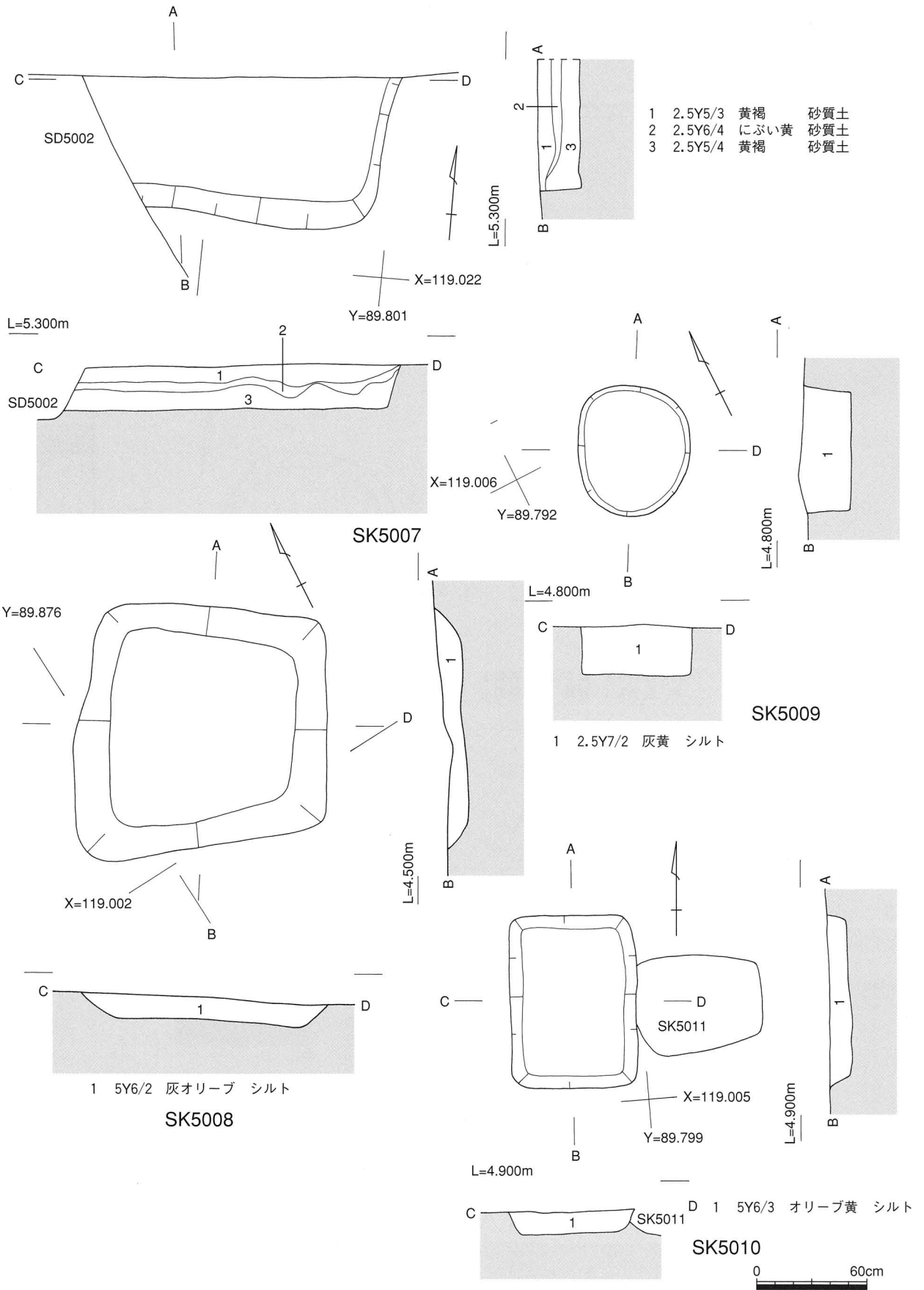
検出長13.60m、最大幅13.20m、最大深度0.15m の菱形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。



第59図 北区 (1999・2001年度) SK5004・SK5005・SK5006平・断面図



第60図 北区（1999・2001年度）SK5007・SK5008・SK5009・SK5010平・断面図

土坑 (SK5009) (第60図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド B-19に位置する。

規模と形状

検出長0.72m、最大幅0.62m、最大深度0.29m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

土坑 (SK5010) (第60図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド B-20に位置する。

規模と形状

検出長0.94m、最大幅0.70m、最大深度0.13m の長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリブ黄色を呈するシルトによる単一層である。

土坑 (SK5011) (第61図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド B-20に位置する。

規模と形状

検出長0.63m、最大幅0.53m、最大深度0.15m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

土坑 (SK5012) (第61図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド A-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.66m、最大幅0.56m、最大深度0.13m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

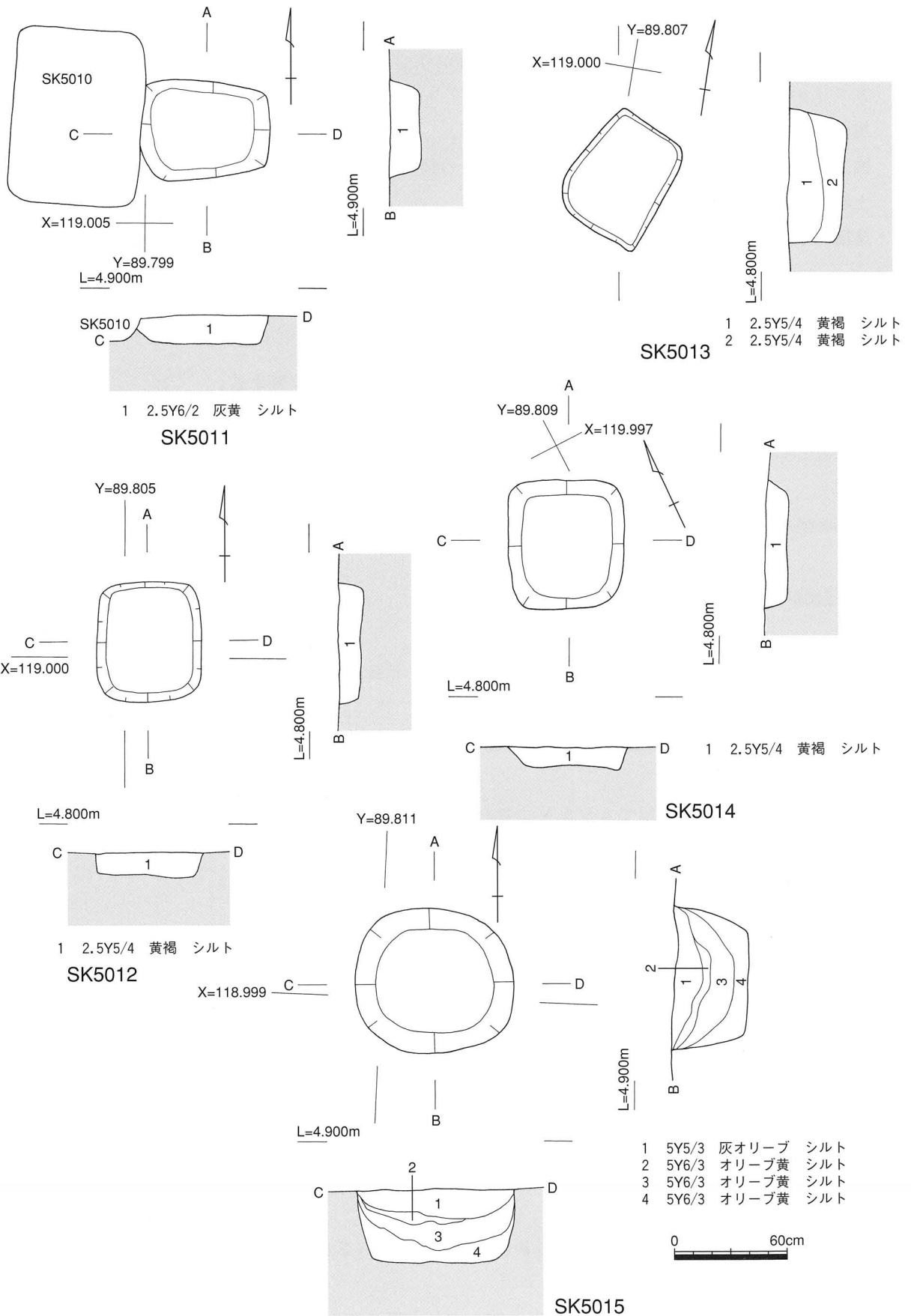
土坑 (SK5013) (第61図)

位置

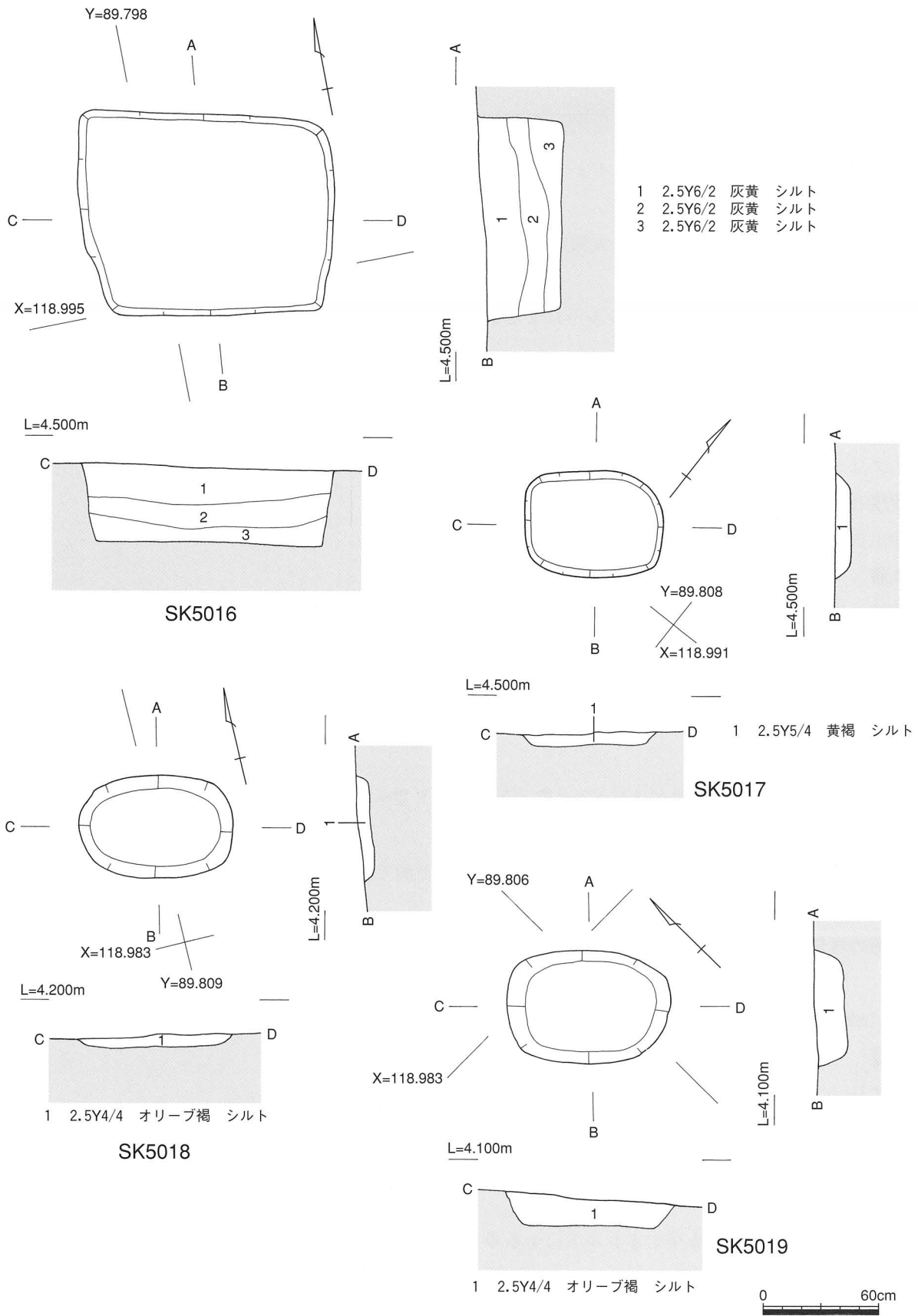
大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド T-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.72m、最大幅0.59m、最大深度0.30m の長方形である。



第61図 北区 (1999・2001年度) SK5011・SK5012・SK5013・SK5014・SK5015平・断面図



第62図 北区 (1999・2001年度) SK5016・SK5017・SK5018・SK5019平・断面図

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。

土坑 (SK5014) (第61図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド T-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.69m、最大幅0.63m、最大深度0.12m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑 (SK5015) (第61図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド T-3 に位置する。

規模と形状

検出長0.85m、最大幅0.78m、最大深度0.40m の円形である。

土層

遺構の堆積土は4層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層～4層はオリーブ黄色を呈するシルト層である。

土坑 (SK5016) (第62図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド T-20 に位置する。

規模と形状

検出長13.10m、最大幅1.80m、最大深度0.43m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層～3層は灰黄色を呈するシルト層である。

土坑 (SK5017) (第62図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド S-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.73m、最大幅0.56m、最大深度0.07m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑 (SK5018) (第62図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド Q-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.81m、最大幅0.54m、最大深度0.06m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑 (SK5019) (第62図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド Q-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.84m、最大幅0.60m、最大深度0.17m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑 (SK5020) (第63図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド O-16 に位置する。

規模と形状

検出長0.70m、最大幅0.66m、最大深度0.21m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈する粘性砂質土による単一層である。

土坑 (SK5021) (第63図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド O-17 に位置する。

規模と形状

検出長0.85m、最大幅0.53m、最大深度0.09m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄褐色を呈する粘性砂質土による単一層である。

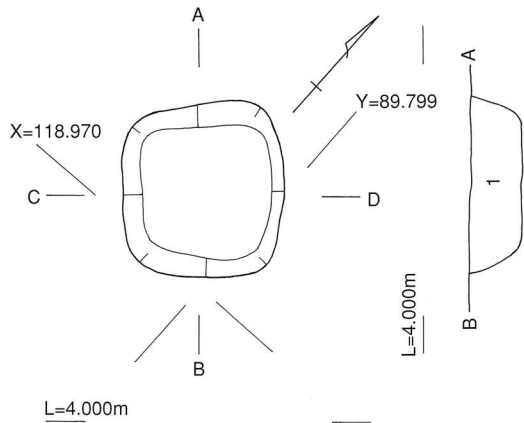
土坑 (SK5022) (第63図)

位置

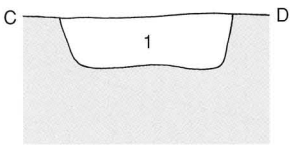
大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -III、小グリッド L-19 に位置する。

規模と形状

検出長0.86m、最大幅0.68m、最大深度0.18m の長方形である。

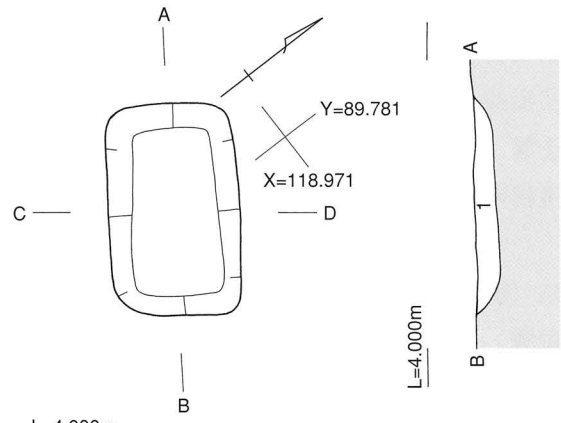


L=4.000m

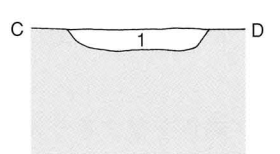


1 2.5Y6/2 灰黄 粘性砂質土

SK5020

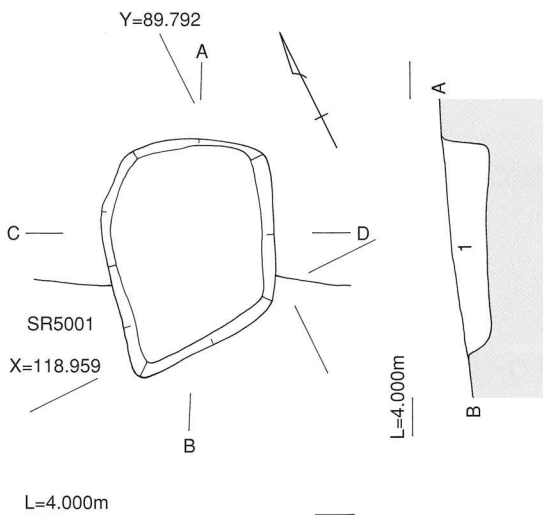


L=4.000m

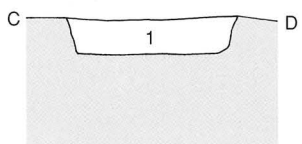


1 10YR5/3 にぶい黄褐 粘性砂質土

SK5021

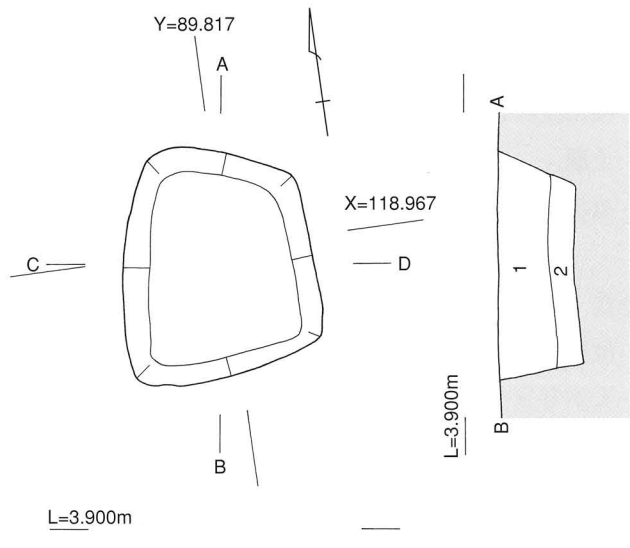


L=4.000m

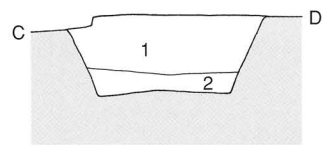


1 2.5Y5/2 暗灰黄 粘質土

SK5022



L=3.900m



1 10YR5/3 にぶい黄褐 粘性砂質土
2 2.5Y5/3 黄褐 粘性砂質土

SK5023



第63図 北区 (1999・2001年度) SK5020・SK5021・SK5022・SK5023平・断面図

土層

遺構の堆積土は暗灰黄色を呈する粘質土による単一層である。

土坑 (SK5023) (第63図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド N-4 に位置する。

規模と形状

検出長0.91m、最大幅0.77m、最大深度0.14m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は、にぶい黄褐色を呈する粘性砂質土層である。2層は黄褐色を呈する粘性砂質土層である。

柱穴 (SP5001) (第64図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -III、小グリッド E-20 に位置する。

規模と形状

検出長0.32m、最大幅0.31m、最大深度0.21m の円形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈する砂質土層である。

柱穴 (SP5002) (第64図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド α -IV、小グリッド E-3 に位置する。

規模と形状

検出長0.34m、最大幅0.30m、最大深度0.29m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は黄褐色を呈する砂質土層である。2層はオリーブ褐色を呈する砂質土層である。

柱穴 (SP5003) (第64図)

位置

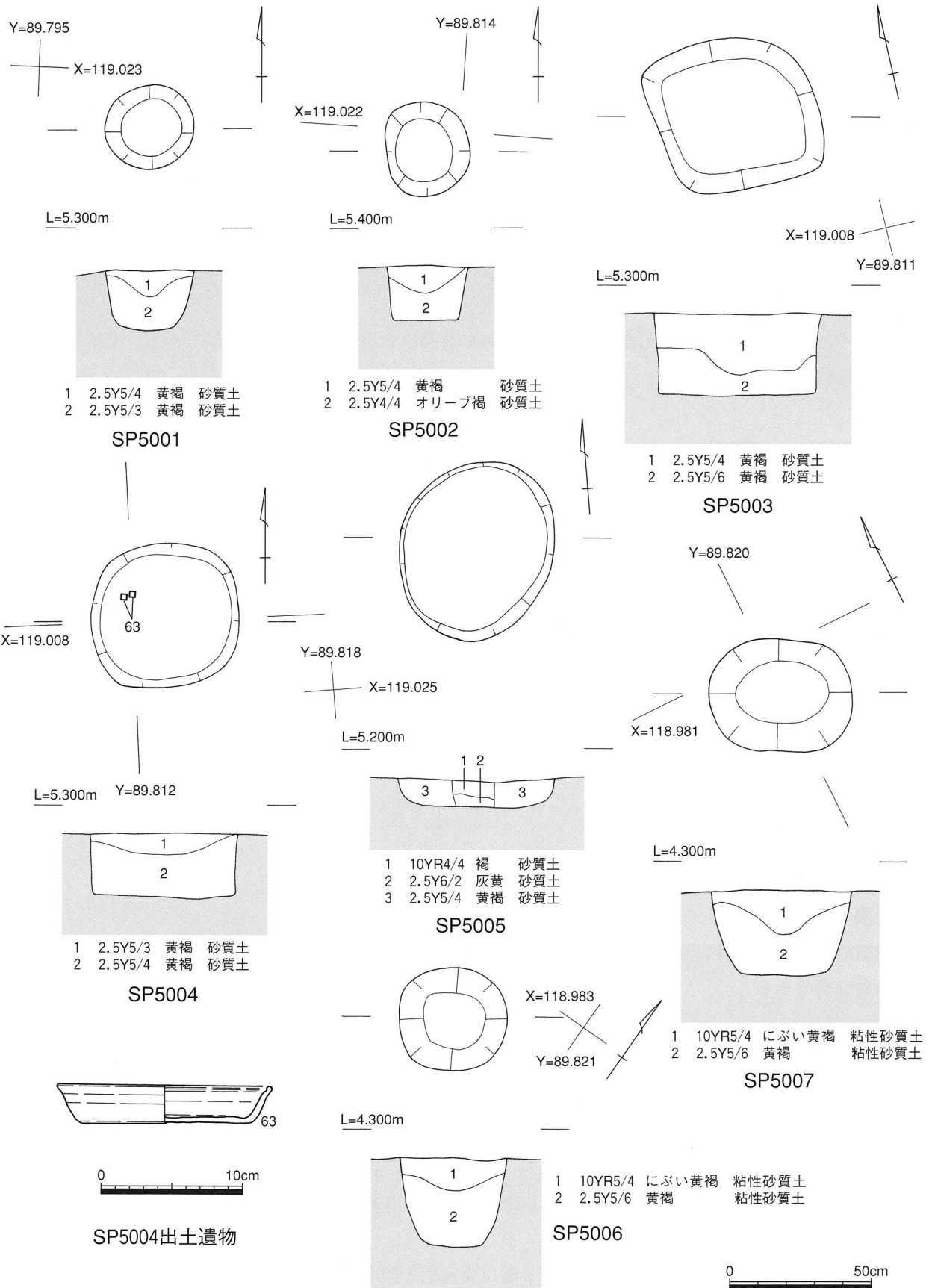
大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド B-3 に位置する。

規模と形状

検出長0.60m、最大幅0.55m、最大深度0.19m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈する砂質土層である。



第64図 北区（1999・2001年度）SP5001・SP5002・SP5003・SP5004・SP5005・SP5006・SP5007
平・断面図・遺物出土状況ドット図・SP5004出土遺物

柱穴 (SP5004) (第64図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド B-3 に位置する。

規模と形状

検出長0.53m、最大幅0.51m、最大深度0.22m の円形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈する砂質土層である。

出土遺物・時期

63は土師器の杯である。赤色塗彩を施されている。時期は奈良時代である。

柱穴 (SP5005) (第64図)

位置

大グリッド Loc.G-1、中グリッド α -IV、小グリッド F-4 に位置する。

規模と形状

検出長0.64m、最大幅0.55m、最大深度0.09m の円形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は褐色を呈する砂質土層である。2層は灰黄色を呈する砂質土層である。3層は黄褐色を呈する砂質土層である。

柱穴 (SP5006) (第64図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε -IV、小グリッド Q-5 に位置する。

規模と形状

検出長0.39m、最大幅0.37m、最大深度0.31m の円形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は、にぶい黄褐色を呈する粘性砂質土層である。2層は黄褐色を呈する粘性砂質土層である。

柱穴 (SP5007) (第64図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε -IV、小グリッド Q-5 に位置する。

規模と形状

検出長0.51m、最大幅0.40m、最大深度0.30m の楕円形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は、にぶい黄褐色を呈する粘性砂質土層である。2層は黄褐色を呈する粘性砂質土層である。

自然流路 (SR5001) (第65、66～68図)

位置

大グリッド Loc.F、G-1、中グリッド ε、α-Ⅲ、Ⅳ、小グリッド J~B-8~3 に位置する。

規模と形状

検出長90.00m、最大幅30.00m、最大深度2.4m の幅広い直線状を呈する。

土層

A-B は7層に分層した。1層は緑灰色を呈する粘質土層である。2層はオリーブ黒色を呈する粘質土層である。3層、4層は暗オリーブ灰色を呈する粘質土層である。5層はオリーブ灰色を呈する粘質土層である。6層は緑灰色を呈する粘質土層である。7層は暗緑灰色を呈する粘質土層である。

C-D は16層に分層した。1層は緑灰色を呈する粘質土層である。2層は暗オリーブ色を呈する粘質土層である。3層は暗オリーブ灰色を呈する粘質土層である。4層は緑灰色を呈する粘質土層である。5層~7層はオリーブ黒色を呈する粘質土層である。8層、9層は暗オリーブ灰色を呈する粘質土層である。10層はオリーブ灰色を呈する粘質土層である。11層は暗オリーブ灰色を呈する粘質土層である。12層は暗緑灰色を呈する粘質土層である。14層は暗オリーブ灰色を呈する粘質土層である。15層は暗緑灰色を呈する粘質土層である。16層は暗オリーブ灰色を呈する粘質土層である。

E-F は9層に分層した。1層はオリーブ黒色を呈する粘質土層である。2層は暗オリーブ色を呈する粘質土層である。4層は暗オリーブ色を呈する粘質土層である。5層は暗オリーブ灰色を呈する粘質土層である。6層は暗緑灰色を呈する粘質土層である。7層、8層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。9層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。

出土遺物

木製品は13点を図化した。64は掛矢である。芯持ち材の1/2を頭部とし、残りの部分を細く削って柄を成形している。敲打による窪みが残存している。65は柄である。上部に身を差し込む為の楕円形の孔がある。66は田下駄の一部である。67は編棒である。68は木錘である。69は鎌の柄である。上端部に茎孔が残存している。70は漁労具の櫂である。辺材から丸く削りだして柄の部分成形している。水かき部は一方の面のみ削りが多く施されている。71は楕円形曲物の底板である。72~75は斎串である。76は部材である。土器は17点を図化した。77、78は須恵器の杯蓋である。79~82は須恵器の杯身である。81の底部外面にはヘラ記号がある。83は須恵器の台付き椀である。84は須恵器の甕である。85~89は土師器の杯である。90は土師器の鉢である。91は土師器の杯で、底部外面に煤が付着している。92は土師器の甕である。93は棒状土錘で、両端に穿孔がある。

時期

古墳時代後期であるが、一部に平安時代のものが含まれる。

土壇墓 (ST5001) (第69図)

位置

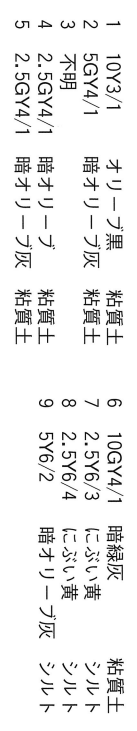
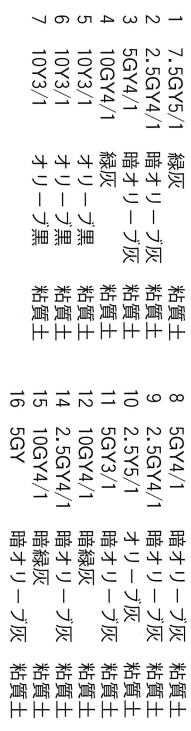
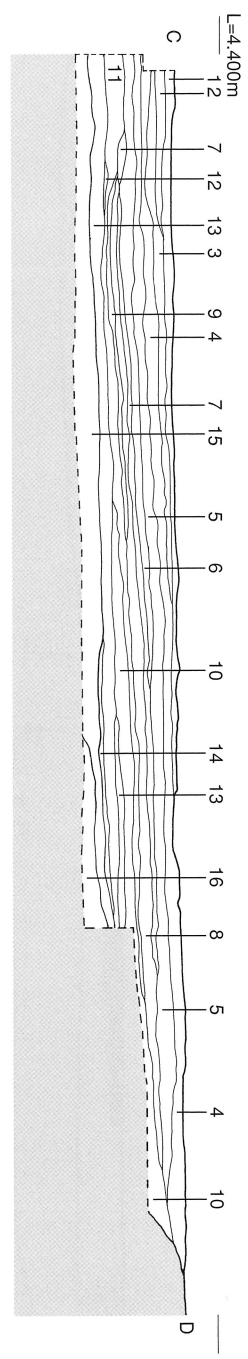
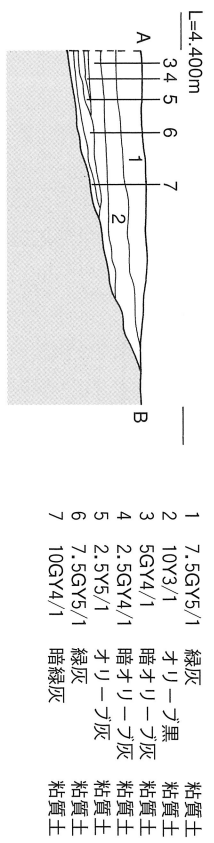
大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-Ⅳ、小グリッド S-4 に位置する。

規模と形状

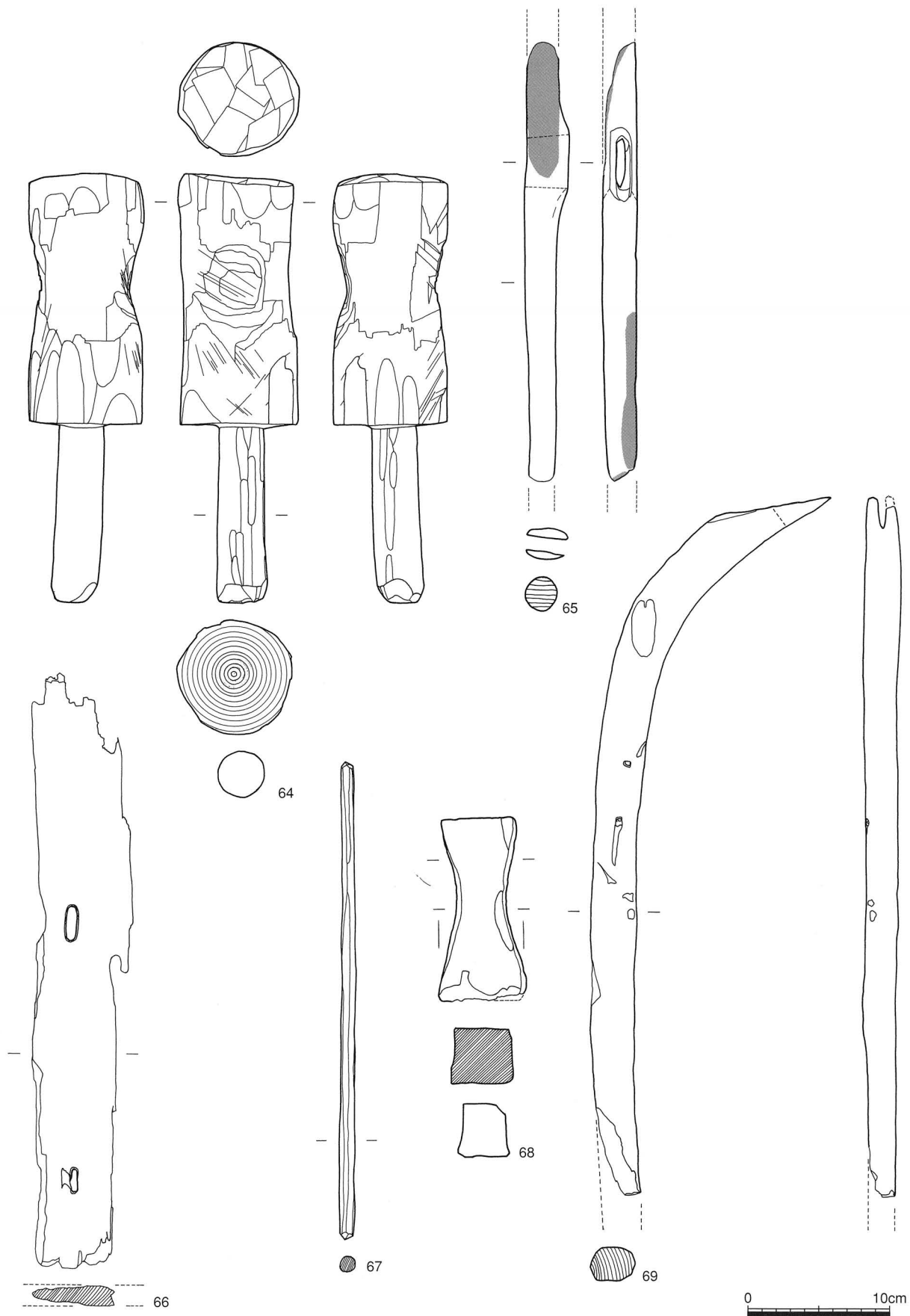
検出長1.20m、最大幅0.85m、最大深度0.15m の長方形である。

土層

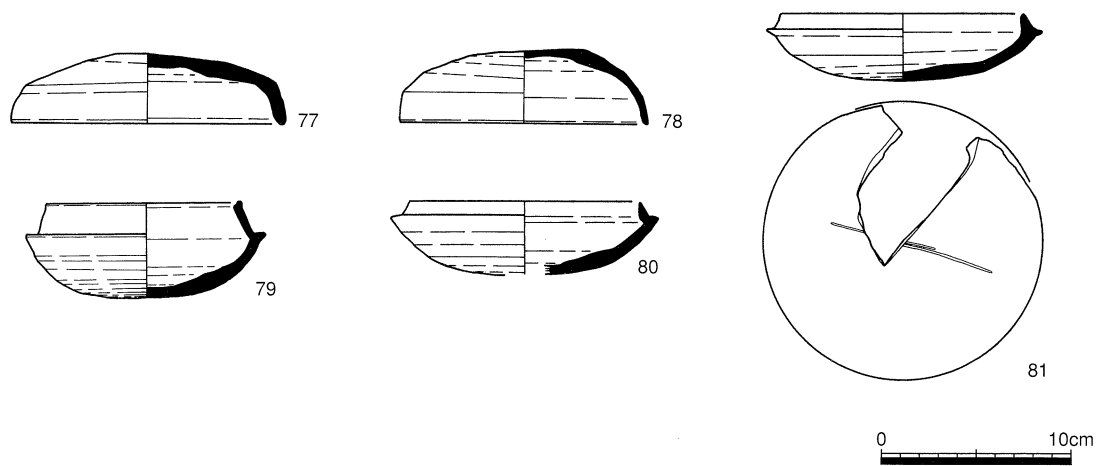
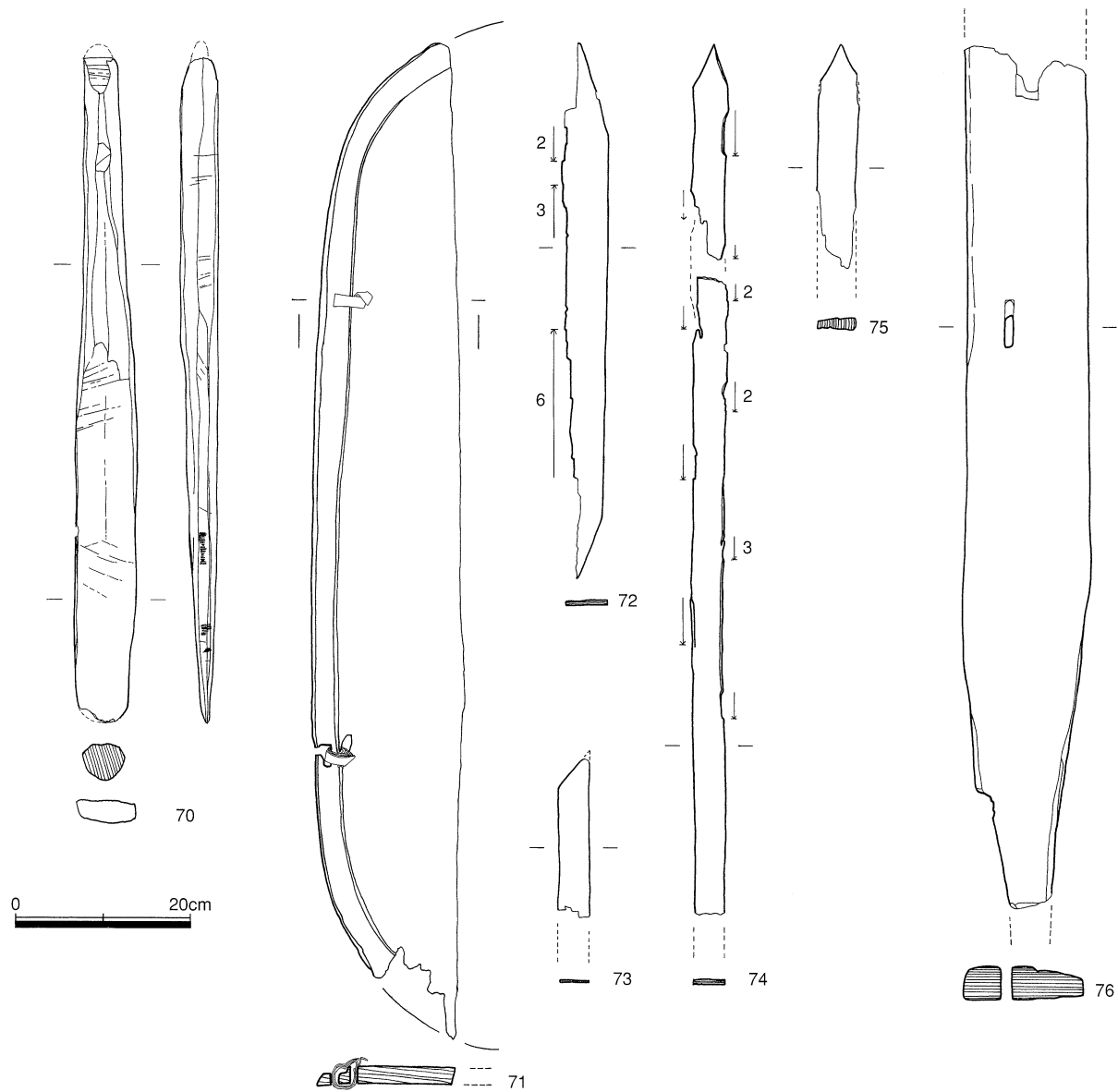
遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。



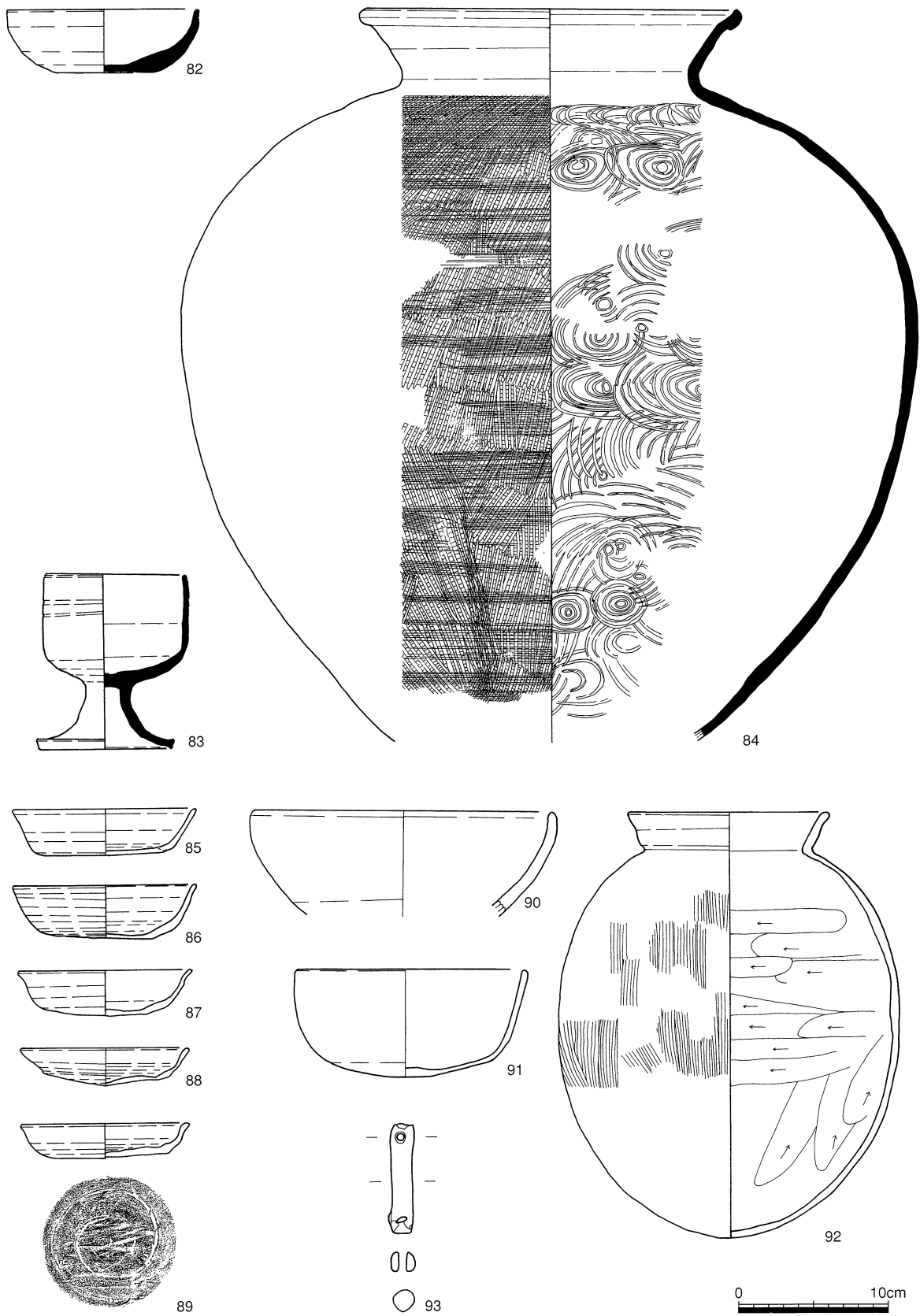
第65図 北区 (1999・2001年度) SR5001断面図



第66図 北区（1999・2001年度）SR5001出土遺物（1）



第67図 北区（1999・2001年度）SR5001出土遺物（2）



第68图 北区（1999・2001年度）SR5001出土遺物（3）

土壌墓 (ST5002) (第69図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド S-4 に位置する。

規模と形状

検出長1.55m、最大幅0.85m、最大深度0.20m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土壌墓 (ST5003) (第69図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド R-4 に位置する。

規模と形状

検出長1.60m、最大幅0.75m、最大深度0.20m の長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土壌墓 (ST5004) (第69図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド S-4 に位置する。

規模と形状

検出長2.15m、最大幅0.90m、最大深度0.85m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は7層に分層した。1層～3層は灰黄色を呈するシルト層である。4層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。5層～7層は灰黄色を呈するシルト層である。

土壌墓 (ST5005) (第69図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド S-3 に位置する。

規模と形状

検出長1.65m、最大幅0.70m、最大深度0.50m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層～3層は灰黄色を呈するシルト層である。

土壌墓 (ST5006) (第69図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ϵ -IV、小グリッド S-3 に位置する。

規模と形状

検出長1.90m、最大幅0.70m、最大深度0.40m の長方形である。